

S t y l e D e s i g n

木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事			木造住宅工事 標準施工手引書				
101 I：敷地形状・建物配置 II：根切り・地業・転圧 III：防湿シート IV：捨てコンクリート			311 VIII：下屋、軒天 A：下屋廻り、B：軒天回り				
102 V：鉄筋工事 A：かぶり厚さ、B：結束			312 IX：バルコニー				
103 C：定着			4 造作工事				
104 D：継手、E：補強筋・その他			401 I-1：壁ボード下地 A：下地、B：石膏ボード、C：ビス留め				
105 E：補強筋・その他			402 I-2：壁ボード下地（省令準耐火仕様） A：下地、B：石膏ボード、C：ビス留め				
106 VI：アンカーボルト A：寸法、B：取り付け位置、C：埋め込み必要深さ、D：取り付け方法			403 II-1：天井ボード下地 A：下地、B：石膏ボード、C：ビス留め				
107 VII：コンクリート A：コンクリート強度・調合、B：試験、C：打ち込み養生			404 II-2：天井ボード下地（省令準耐火仕様） A：下地、B：石膏ボード、C：ビス留め				
108 VIII：基礎出来型（目視確認） A：表面仕上、B：アンカーボルト、C：コンクリートレベルの確認			405 III：手摺高さ、棚高さ、下地（参考） A：階段手摺高さ、B：棚高さ				
			406 IV：設備機器取付補強下地（参考） A：トイレ廻り備品下地、B：カーテンレール下地、C：その他				
2 土台工事			5 防水・通気工事				
201 I：土台 A：墨出し、B：土台・大引の種類、C：基礎パッキン、D：水切り			501 I：屋根ルーフィング A：材種、B：重ね合わせ				
202 II：アンカーボルト A：取付位置、B：位置の確認、C：取付方法			502 C：下屋廻り、D：縦桟木の施工				
203 III：大引・床束・床合板 A：大引、B：床束、C：床合板			503 II：バルコニー防水 A：FRP防水、B：その他のバルコニー				
3 軸組工事			504 III：乾式通気工法 A：防水紙、B：透湿防水シート				
301 I：柱・間柱 A：材種・寸法、B：建て方精度、C：取付、D：欠損			505 C：サッシ開口部の止水処置				
302 II：床合板（剛性床工法） A：種類、B：張り付け方法、C：留め付け、D：開口補強			506 D：設備等配管貫通部				
303 III-1：構造用合板（9mm） A：種類、B：留め付け、C：開口補強			507 IV：通気胴縁（サイディング） A：通気胴縁				
304 III-2：ダイライトMS A：種類、B：留め付け、C：開口補強			6 断熱工事				
305 III-3：ヘビーウォール A：種類、B：留め付け、C：開口補強			601 I：断熱構造とする部分（充填断熱） II：床下断熱・基礎断熱				
306 IV：スジカイ耐力壁 A：位置・寸法・方向、B：スジカイ取付、C：スジカイプレート			602 III：壁断熱 IV：外気に接する床 V：屋根断熱				
307 V：構造金物 A：取付位置・種類、B：柱金物			7 その他工事				
308 B：柱金物、C：その他金物			701 I：給排水衛生・ガス設備工事 A：配管計画、B：配管経路、C：基礎配管、D：配管の施工				
309 VI：防腐・防蟻 A：防腐・防蟻措置、B：範囲、C：土台の防腐・防蟻、D：床下地盤面の防蟻措置			702 II：換気工事 A：換気スリーブの取り付け、B：外部防水シートの止水、C：防雨フードの取り付け				
310 VII：小屋組 A：小屋束、B：母屋・棟木、C：垂木、D：小屋スジカイ・振れ止め、E：野地板			III：電気工事（参考） A：配線・配管、B：各種器具取付高さ				
			703 IV：養生・清掃 A：雨養生、B：一般養生・清掃				
			V：安全対策				
作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書		承認	承認	承認
訂正日							
			S t y l e D e s i g n				
						</	

I：敷地形状、建物配置

- ① 監理者又は担当者立会の上設計 G L (ベンチマーク) 及び建物基準位置の確定を行う。
- ② 地縄張りを行い敷地寸法を確認する。
又は担当者が建物の配置の確認・設計変更の有無を確認する。

II：根切り・地業・転圧

A：根切り幅、根切り底

- ① 地縄張りの確定後、設計図書により掘削深さ及び掘削幅を確認する。
- ② 人通口など地中梁の位置・寸法を確認し配筋時の掘削不足の無い様に注意する。

B：地業

- ① 碎石地業：碎石厚さは特記無き限り100mm以上とする。

C：転圧

- ① ランマー(重機等)により十分な突き固めを行う。
- ② 基礎配筋時にサイコロスペーサーの沈み込み(転圧不良対象)が 10mm以上生じないこと。

D：柱状改良体の打ち止め位置(柱状改良等)

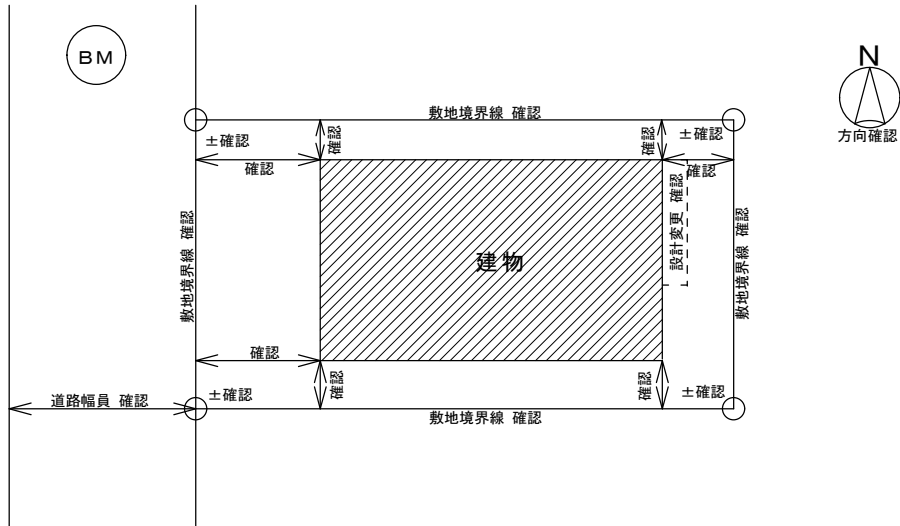
- ① 柱状改良体の打ち止め位置は、直接基礎コンクリートの荷重を受ける様スラブ直下とし、埋戻し土の施工は行わない。

III：防湿シート

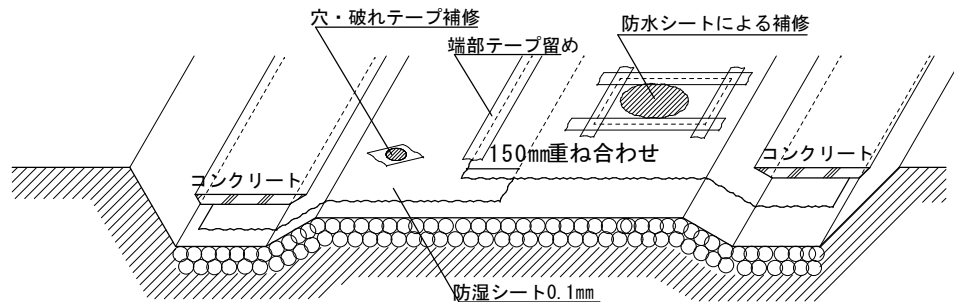
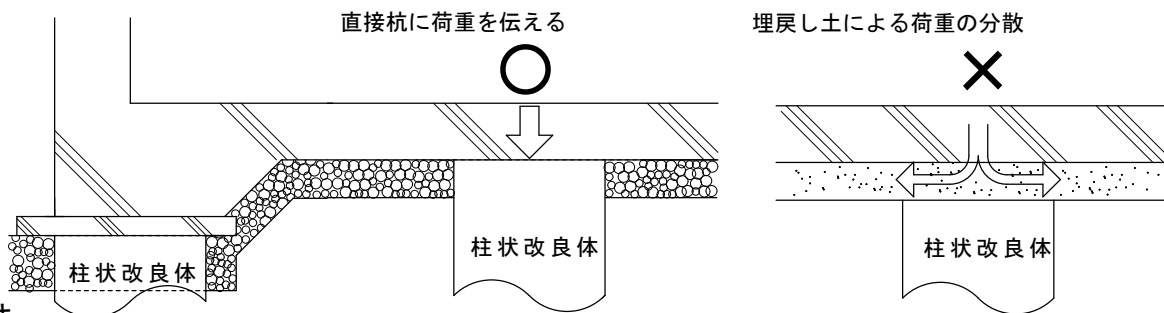
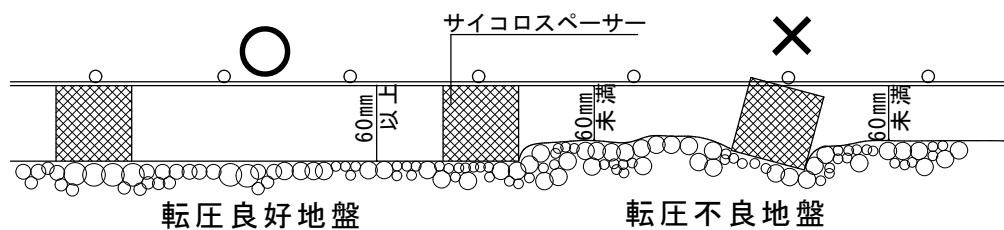
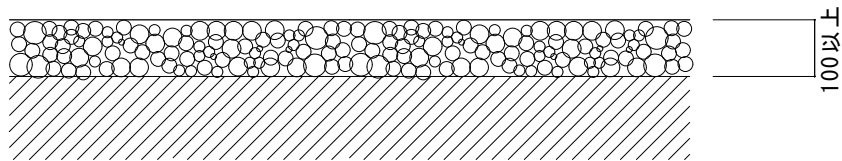
- ① 防湿シートは厚さ0.1ミリ以上とし床下全面に敷き詰める。
- ② 防湿シートの重ね幅は150mm以上とし、端部はめくれあがり防止の為、防水テープ留め・コンクリート押さえとする。
- ③ 防湿シートに 破れ・穴がある場合は、防水テープによる補修又は防湿シートの重ね貼りを行う。

IV：捨てコンクリート

- ① 設計図書によりコンクリート打設範囲・打設厚さの確認を行う。
- ② コンクリート表面は墨出しの為、金コテ等による均し仕上げとする。
- ③ コンクリートレベルを計測し、基礎底盤位置より高くない様に確認する(－15mm以内)。
- ④ 捨てコンクリート厚みは特記無き限り 50mm以上とする。



碎石地業



木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

I：敷地形状、建物配置

- ① G L、建物基準点の確定
- ② 地縄張り

II：根切り・地業・転圧

A：根切り幅、根切り底

- ① 掘削幅、掘削深さの確認
- ② 掘削不足

B：地業

- ① 碎石地業

C：転圧

- ① 突き固め
- ② 転圧不良

D：杭頭処理(柱状改良)

III：防湿シート

- ① 防湿シート種類
- ② 防湿シート重ね幅
- ③ 防湿シート補修

IV：捨てコンクリート

- ① 打設範囲、打設位置
- ② 表面仕上げ
- ③ レベル確認
- ④ 厚み

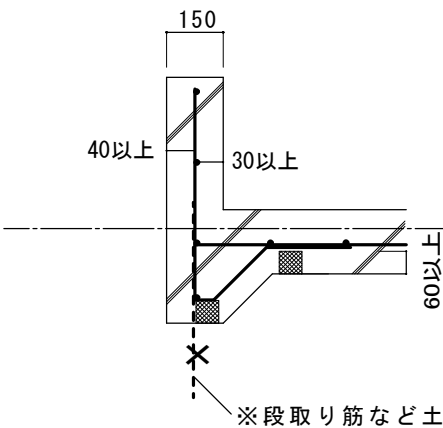
作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

V：鉄筋工事

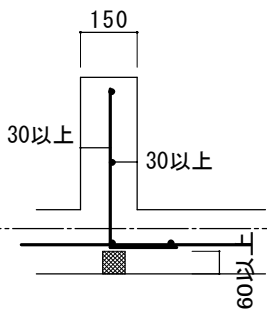
A：かぶり厚さ

- ①スラブ配筋下面 60mm以上
- ②立上り基礎側面 40mm以上（内部 30mm以上）
- ③人通口・端部補強筋の挿入
- ・立上り基礎端部 30mm以上～100mm以下

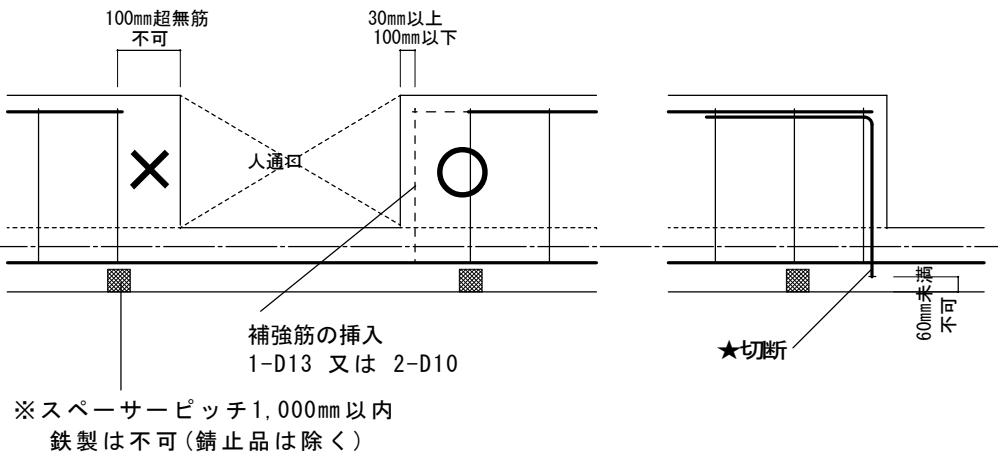
ー外周部立上り鉄筋かぶり厚さー



ー内部立上り鉄筋かぶり厚さー

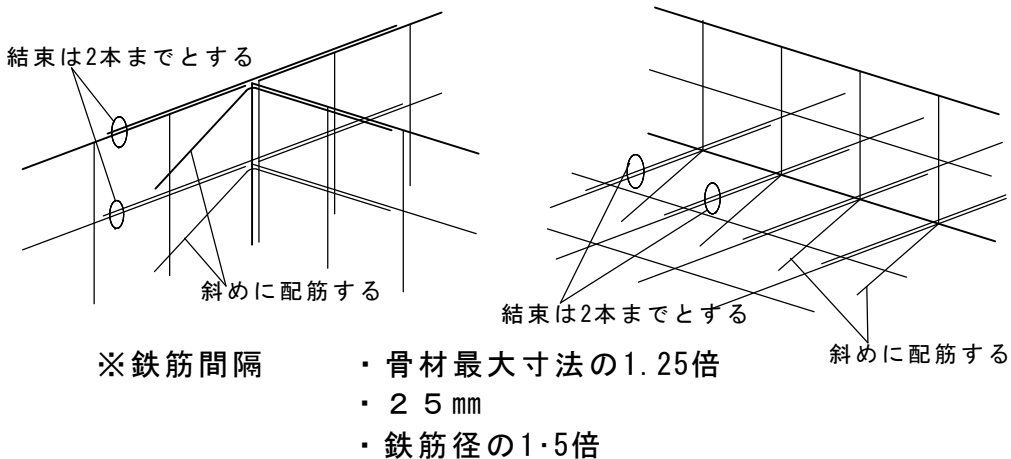


ー人通口・立上り端部の補強筋及びかぶり厚さー

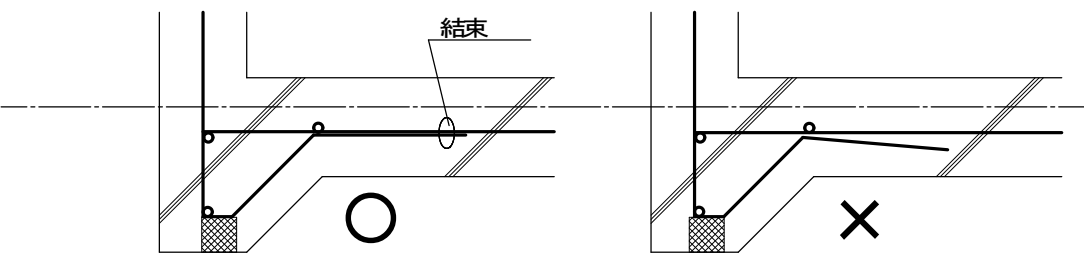


B：結束

- ①鉄筋間隔の確保（3本結束の禁止の配慮）



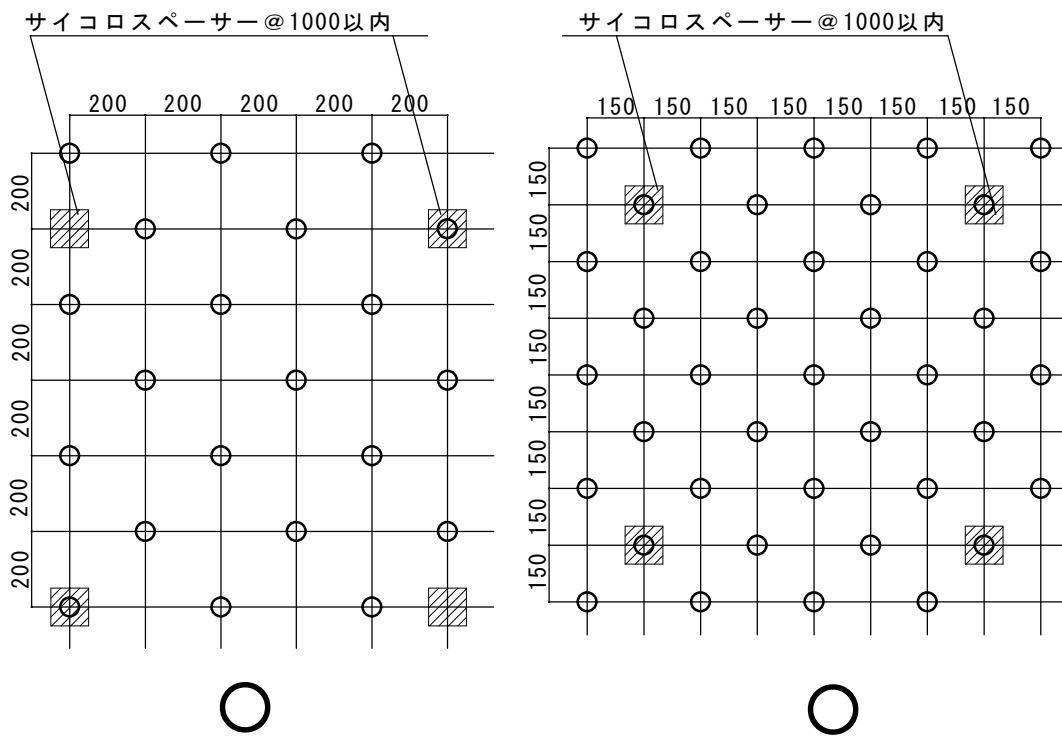
- ②鉄筋端部の結束



※鉄筋端部は垂れ下り防止の為全数結束を行う

- ③結束ピッチ

※特記無き限り400mm以内を基準とする。



木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

V：鉄筋工事

A：かぶり厚さ

- ①スラブ下面 60mm以上
- ②立上り外周部40mm、内周部30mm以上
- ③人通口・端部立上りの補強筋は 30mm～100mm以内

B：結束

- ①鉄筋間隔の確保
（3本結束の禁止の配慮）
- ②鉄筋端部の結束
- ③結束ピッチ（400mm以内）の確認

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書

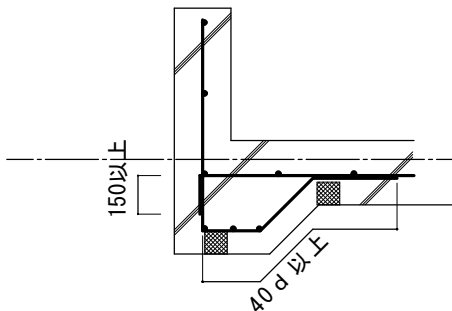
Style Design

承認 承認 承認

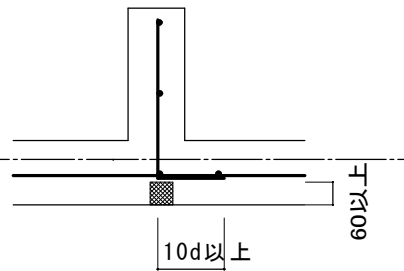
V：鉄筋工事

C：定着

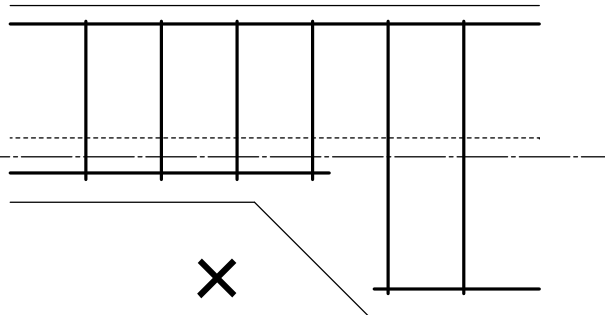
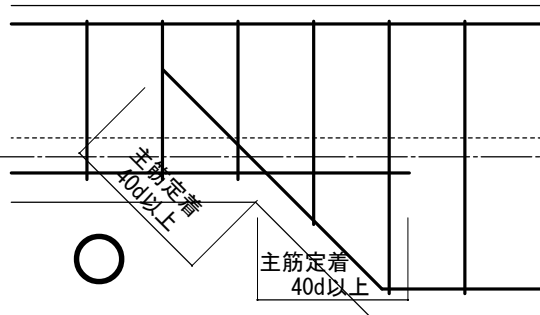
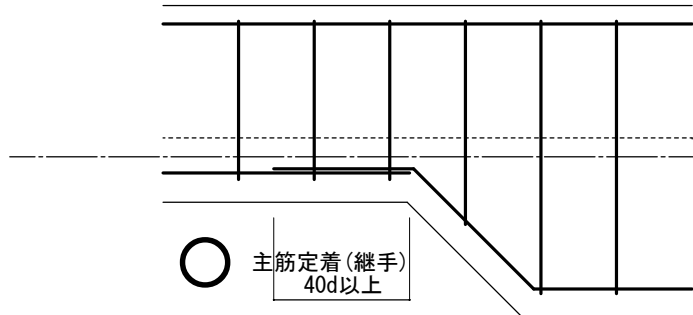
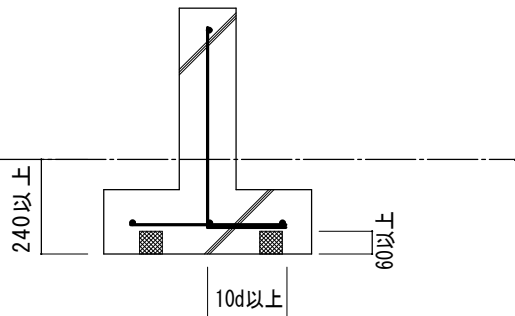
①立ち上がり筋の定着　　－外周部立上り鉄筋定着長さ－



－内部立上り鉄筋定着長さ－

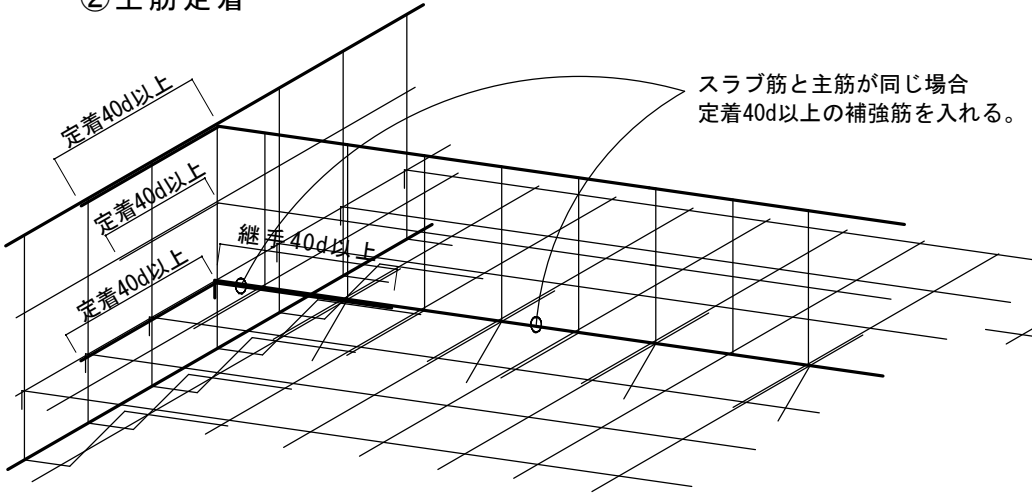


－布基礎鉄筋定着長さ－

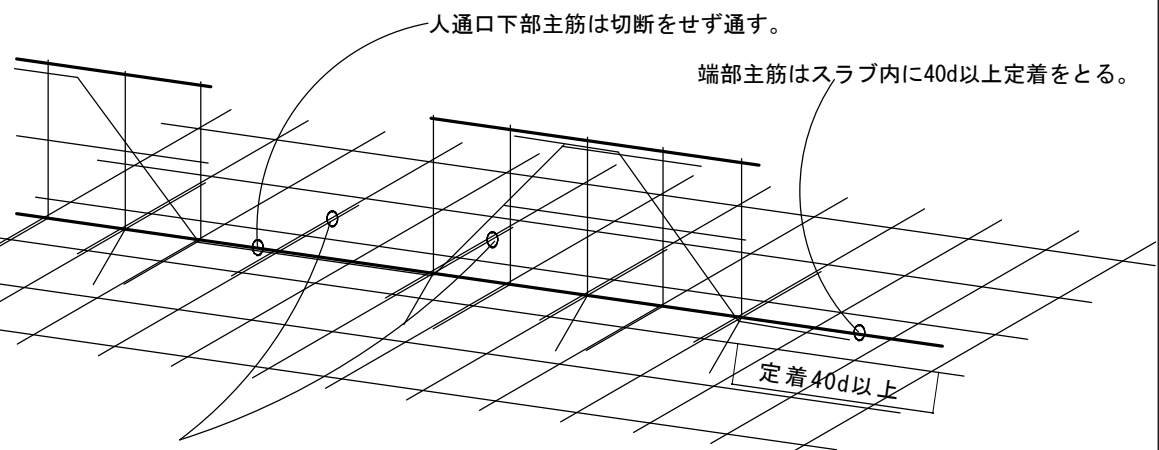


－深基礎主筋の定着－

②主筋定着



スラブ筋と主筋が同じ場合
定着40d以上の補強筋を入れる。

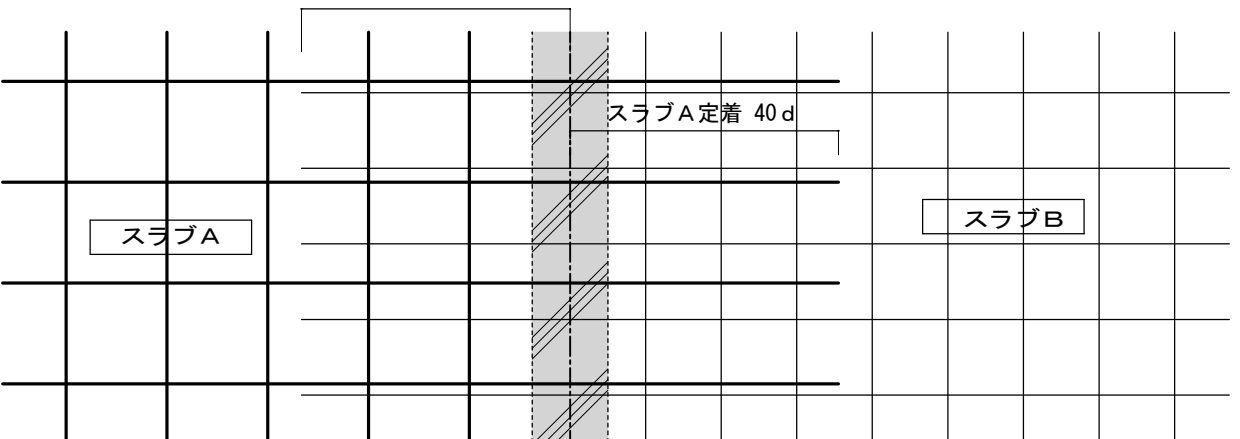


人通口下部主筋は切断をせず通す。

端部主筋はスラブ内に40d以上定着をとる。

③スラブ筋の定着

・スラブ鉄筋ピッチが異なる場合の定着は
通芯よりそれぞれ 40d以上伸ばす。



※スラブ鉄筋の継手位置は連続しない様にずらして施工する。
スラブB定着 40 d

木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

V：鉄筋工事

C：定着

- ①・立上り筋外周部縦筋定着 40d以上
- ・立上り筋内周部縦筋定着 10d以上
- ・スラブ筋外周部アンカー長さ 150mm以上

②主筋定着 40d以上

③スラブ筋の定着

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書

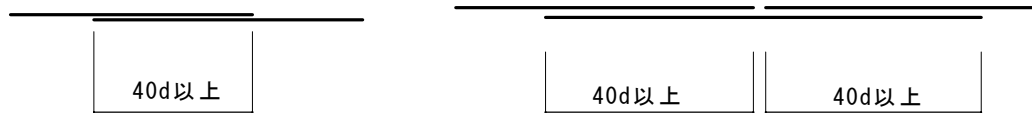
Style Design

承認	承認	承認

V：鉄筋工事

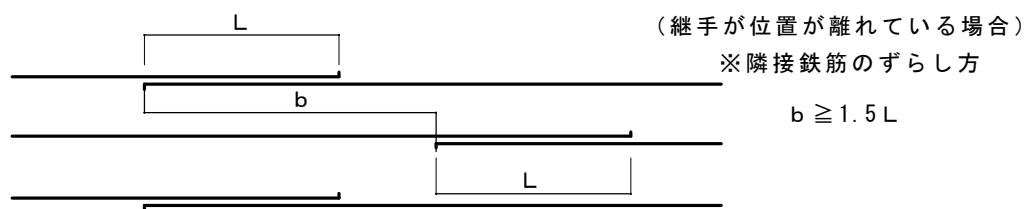
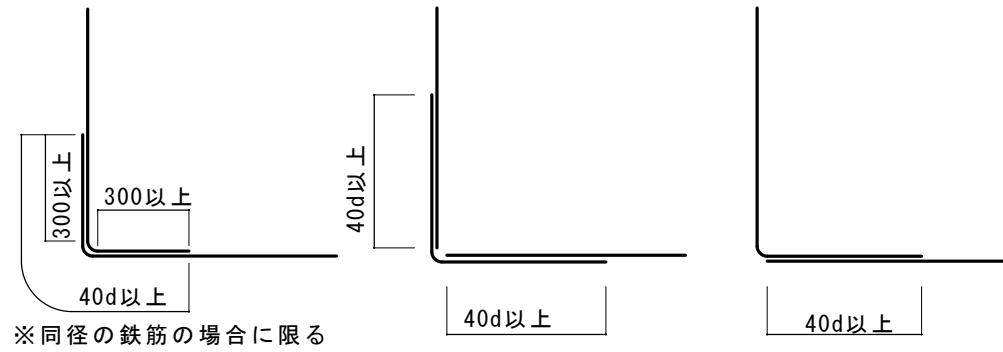
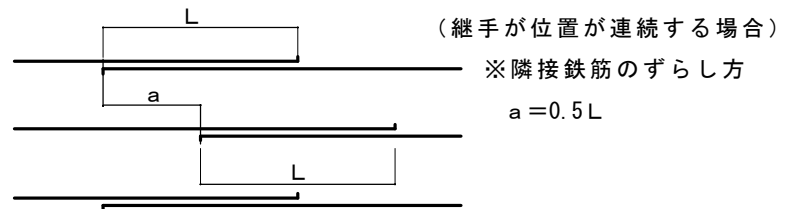
D：継手

①継手長さの確認



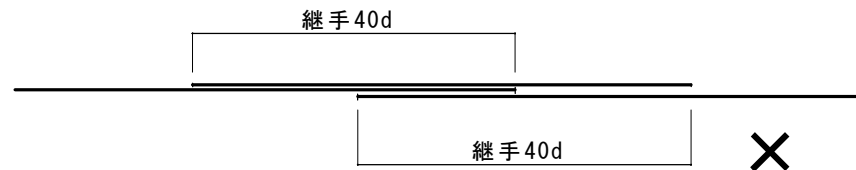
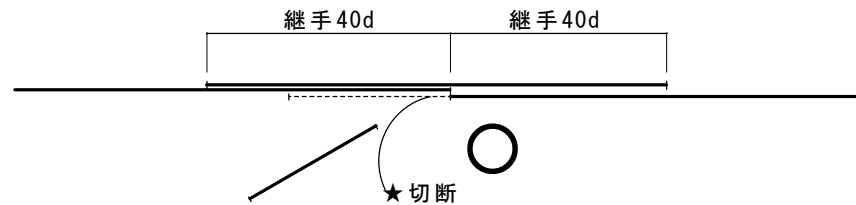
②連続する継手の禁止

- ・スラブ鉄筋の継手位置は連続しない様にずらして施工する。



③ 2重継手の禁止

- ・継手寸法が 40 d 未満となる場合は、鉄筋を突き付けそれぞれに 40 d の継手長さを確保する。

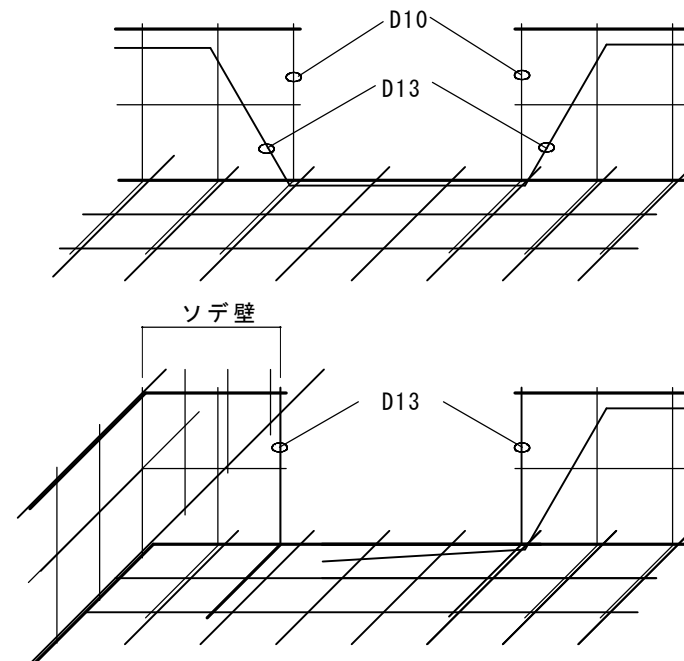
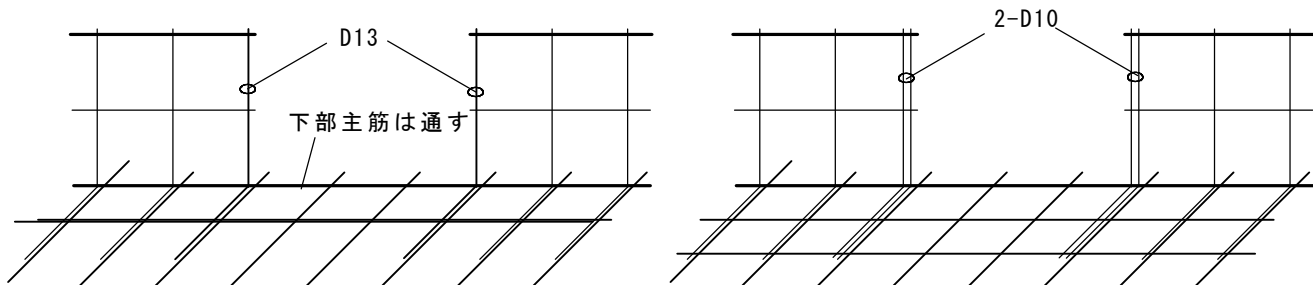


E：補強筋・その他

①人通口の補強筋

- ・人通口位置は構造図を確認し、柱直下・耐力壁直下は避けること。

特記無き限り下記配筋方法を参照すること。



木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

V：鉄筋工事

D：継手

- ①継手長さ 40d以上
- ②連続する継手の禁止
- ③ 2重継手の禁止

E：補強筋・その他

①人通口の補強筋

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書

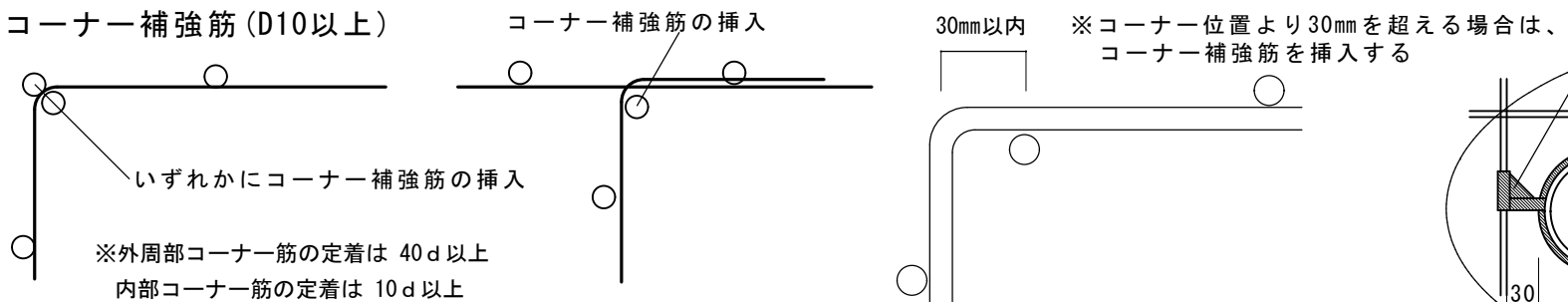
Style Design

承認	承認	承認

V：鉄筋工事

E：補強筋・その他

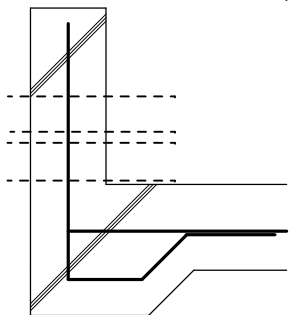
②コーナー補強筋 (D10以上)



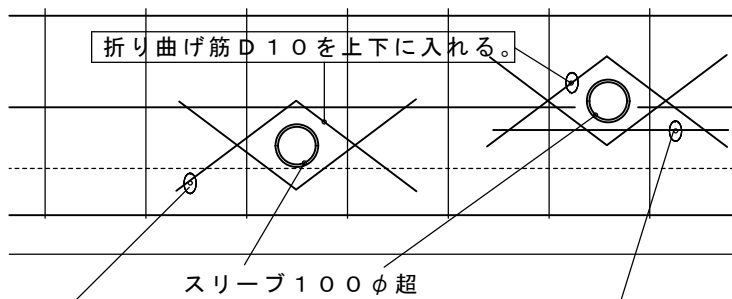
※外周部コーナー筋の定着は 40d 以上
内部コーナー筋の定着は 10d 以上

③スリーブ開口補強

※開口部のかぶり厚は 30mm 以上確保



※スリーブの直径が 100φ 超の場合には補強筋 (スラブ打設前) を施工する



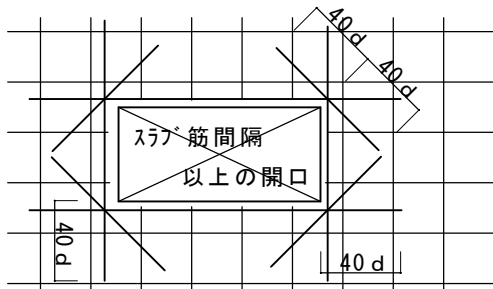
スリーブ 100φ 超

※開口補強筋はスラブ打設前に施工する

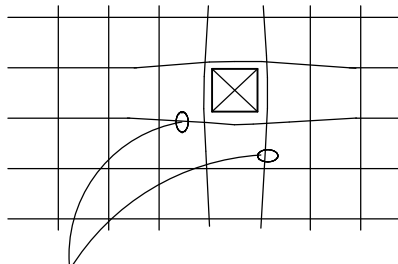
※腹筋や縦筋を切断した場合は切断した鉄筋の径と同等以上の補強筋も入れる

④スラブ開口補強筋

※開口部のかぶり厚は 30mm 以上確保



開口部がスラブ配筋間隔以上の場合
タテヨコ共 2-D13 (D10)、ナナメ 1-D13 (D10) を挿入する

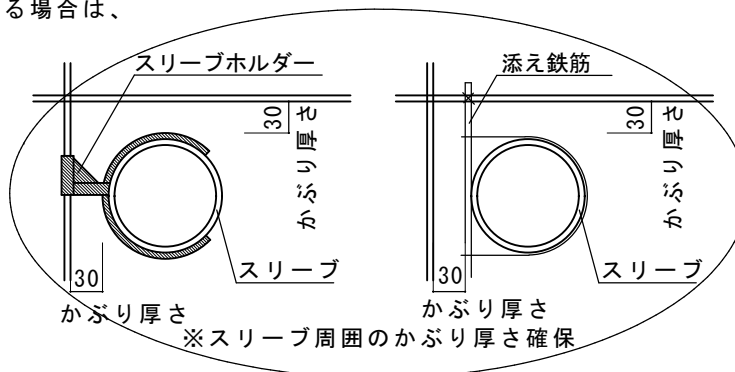


開口部がスラブ配筋間隔以下、かつ鉄筋を
切断しない場合は補強筋は省略可 (緩やかに曲げる)

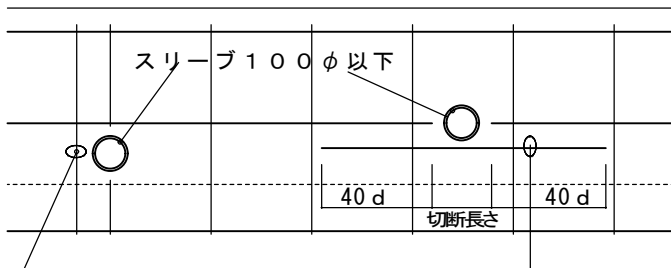
⑤型枠剥離剤は鉄筋・コンクリート打ち継ぎ面にかからないように施工する。

なお、型枠組立後の剥離剤直接噴霧は禁止とする。

⑥スラブコンクリートの立上り鉄筋への付着は 15mm 程度までとし、大きなこぼれの付着は撤去する。



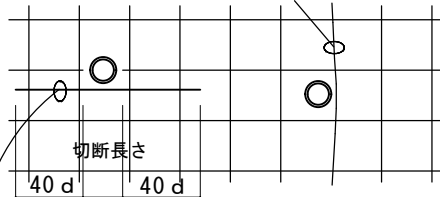
※鉄筋を切断した場合は
スリーブ径にかかわらず補強筋 (切断鉄筋同径) を入れる



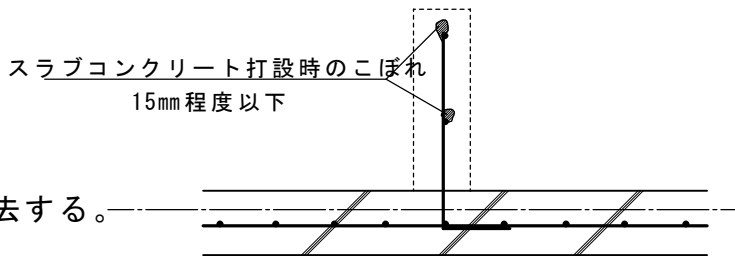
※縦補強筋：他の縦筋と同じ径

※横補強筋：切断長さ＋両方向 40d づつ

鉄筋を切断しない場合
補強筋は省略可 (緩やかに曲げる)



開口部がスラブ配筋以下、かつ鉄筋を切断した場合には
鉄筋の径と同等以上の補強筋を入れる



木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

V：鉄筋工事

E：補強筋・その他

②コーナー補強筋

- ・コーナー位置より 30mm 以内に補強筋挿入
- ・コーナー補強筋は D10 以上

③スリーブ開口補強筋

- ・スリーブ直径が φ100mm 超の場合
- ・スリーブによる鉄筋の切断
- ・スリーブ周囲のかぶり厚さの確保

④スラブ開口補強筋

- ・開口がスラブ間隔以上の場合
- ・開口部がスラブ間隔以下の場合

⑤型枠剥離剤

- ・剥離剤の鉄筋への付着厳禁
- ・剥離剤の打ち継ぎ面への付着厳禁

⑥コンクリートのこぼれ付着

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			Style Design			

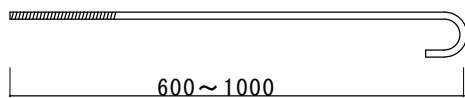
VI：アンカーボルト

A：寸法

- ・アンカーボルト M12



- ・ホールダウンアンカーボルト M16 又は認定品

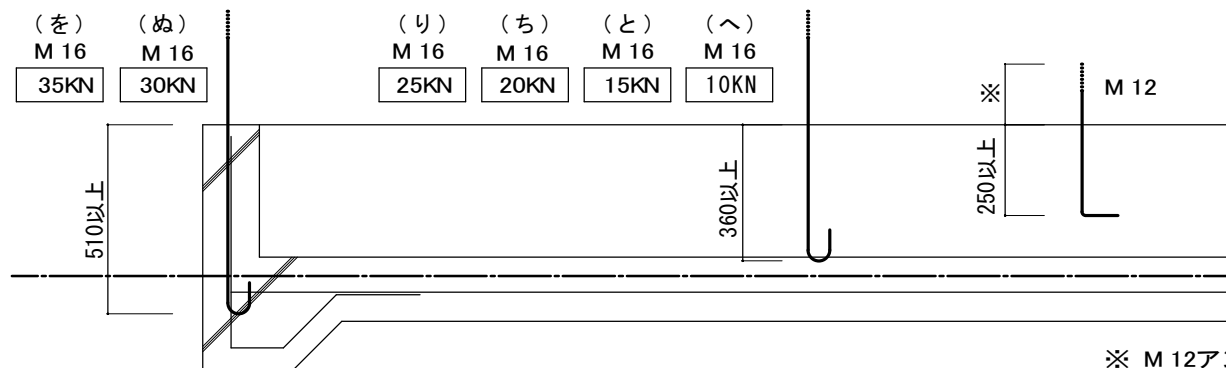


B：取り付け位置

- ・基礎伏図、アンカーボルト配置図に基づき設置する。
- ・2階建 @ 2,000以下 3階建 @ 2,000以下。
- ・耐力壁取付両柱下部。
- ・土台継ぎ手上木側。
- ・土台端部。
- ・ホールダウン取り付けは設計図書による。

C：埋め込み必要深さ

- ・（H D）アンカーボルト埋め込み深さは下記寸法による。（認定品を使用する場合はメーカー仕様書による。）



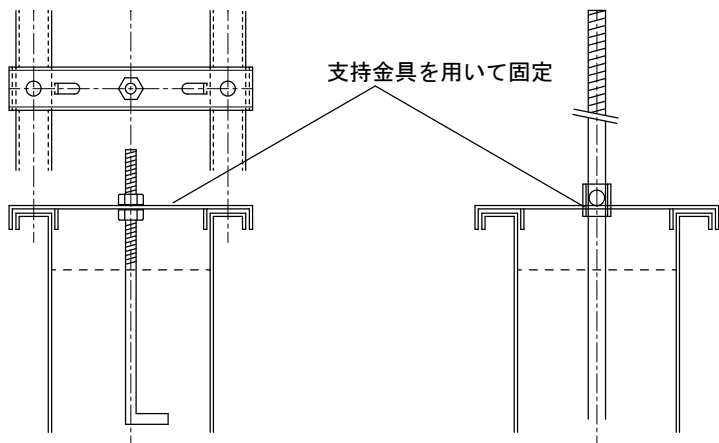
$$\text{埋込み長さ(L)} = \frac{X(\text{必要耐力}) \times 1,000}{1.4 \times 3.14 \times 16(\phi)}$$

- M 1 6 : X = 35kN → 497mm 以上
- 30kN → 427mm 以上
- 25kN → 356mm 以上
- (20kN → 285mm 以上)
- (15kN → 213mm 以上)

- M 1 2 : X = 11.2kN → 250mm 以上

D：取り付け方法

- ・アンカーボルト金物は原則として支持金具等を設けて固定する。
※コンクリート打設時のアンカー設置「田植え方式」は原則禁止。
- ・ホールダウン金物はコンクリート打設前に取付を行い取付位置を確認する。



木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

VI：アンカーボルト

A：寸法

- ・埋め込み必要長さ検討、寸法決定

B：取り付け位置

- ・土台伏図、耐力壁位置図を基に取付位置決定
- ・ホールダウン取り付け位置は、金物取付図を基に決定

C：埋め込み必要深さ

- ・必要耐力を確認し埋め込み深さを決定

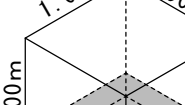
D：取り付け方法

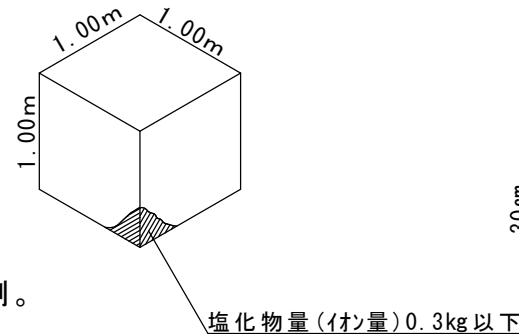
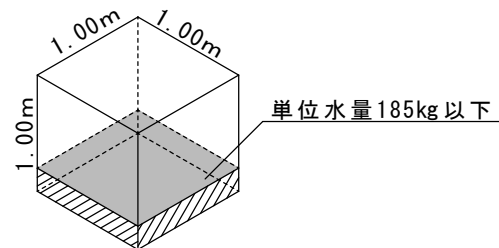
- ・支持金物によるアンカーボルトの固定
※「田植え方式」原則禁止
- ・ホールダウン金物の取付確認

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

※構造計算（耐震等級 2以上）を行う場合は、特記仕様に記載の内容に基づく

A : コンクリート強度、調合

- ・コンクリート納品伝票により確認する。
 - ・コンクリート：JIS規格品のレディーミクストコンクリートとする。
 - ・呼び強度：特記無き限り 24N/mm²とする。
 - ・温度補正：地域に応じた気温による補正值強度を加算する。
 - ・水セメント比：65%以下
 - ・スランプ：特記無き限り 18cm以下とする。
 - ・骨材寸法：25mm以下とする。
 - ・単位水量：185kg/m³以下とする。
- 



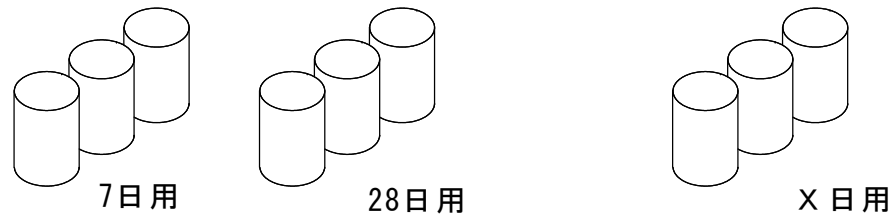
B：試験（※試験項目は、監理者判断によるものとする。）

①生コン試験(受け入れ検査)

- ・スランプ 15cm : ±2.5cm 以内。
- ・空気量 4.5% : ±1.5% 以内。
- ・塩化物量 : 0.3kg/m³以下(塩化物イオン量)。
- ・その他 : 外気温、コンクリート温度、フロー値の計測。
- ・試験結果の写真撮影
- ・試験回数 : 1回以上/1日。

② 圧縮強度試験

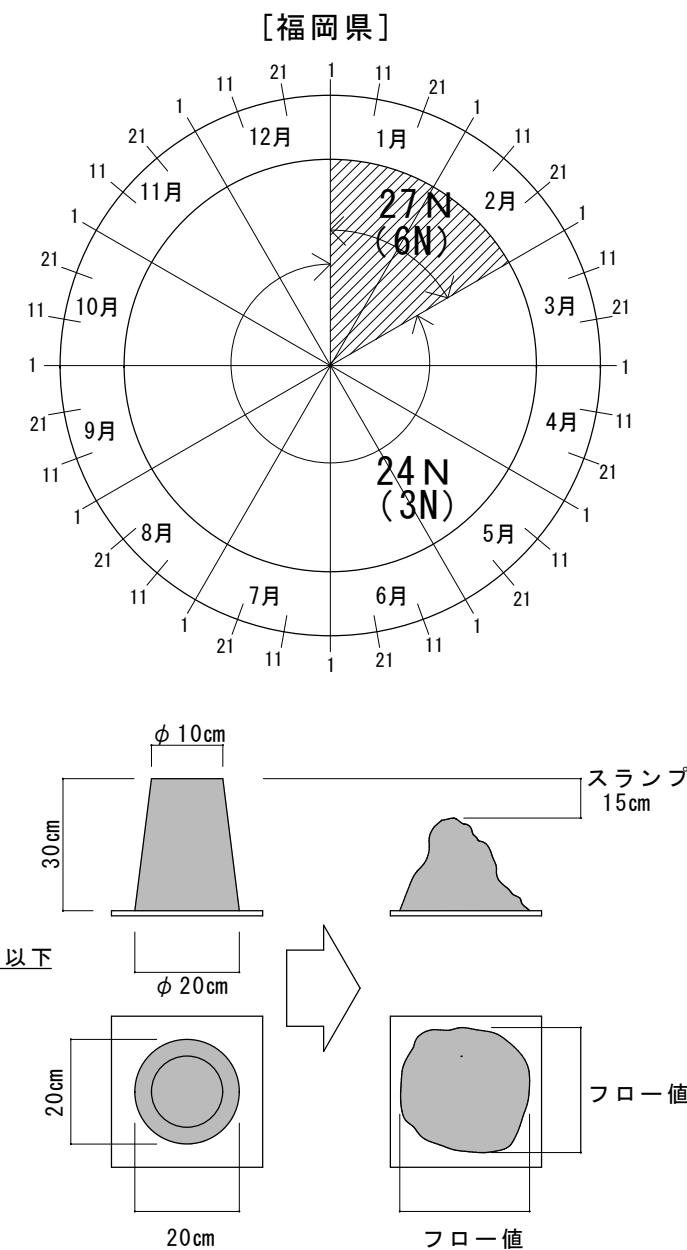
- ・試験体養生 : 現場水中養生又は標準養生とする。
- ・試験回数 : 1週(7日)強度、4週(28日)強度、必要により X D a y 強度試験を行う。



C : 打ち込み養生

- ・打ち込み : 打設位置、範囲、レベルの確認を行い、バイブレーターにより十分な突き固めを行う。
- ・養生 1 : コンクリート打設後は急激な乾燥や冬の凍結などを考慮し湿潤養生及び保護シートにより養生を行い、2℃以上を保つ。
- ・養生 2 : スラブコンクリート打設後、24時間以内は初期硬化中の為、歩行したり有害な振動を与えない事。
- ・型枠存置期間 : 平均気温 15℃以上 72時間(3日)以上
(建設省告示第110号) 平均気温 5℃～15℃未満 120時間(5日)以上
平均気温 0℃～5℃未満 192時間(8日)以上 とする。

※監理者確認の上で、コンクリート強度5Nが確認できた場合はこの限りでない。



スランプ試験

木造住宅工事 標準施工手引書

1 基礎工事

VII : コンクリート

A : コンクリート強度、調合

- ・コンクリート納品伝票
- ・呼び強度
- ・温度補正
- ・水セメント比
- ・スランプ
- ・骨材寸法
- ・単位水量

B : 試験

①生コン試験(受け入れ検査)

- ・スランプ
 - ・空気量
 - ・塩化物量
 - ・その他
 - ・試験結果の写真撮影
 - ・試験回数
- ②圧縮強度試験
- ・試験体養生
 - ・試験回数

C : 打ち込み養生

- ・ 打ち込み
- ・ 養生
- ・ 型枠存置期間

A：表面仕上

- ①ズレ、高さ、幅
- ②セパレーター処理
- ③ジャンカ
- ④クラック
- ⑤水抜き孔
- ⑥欠け

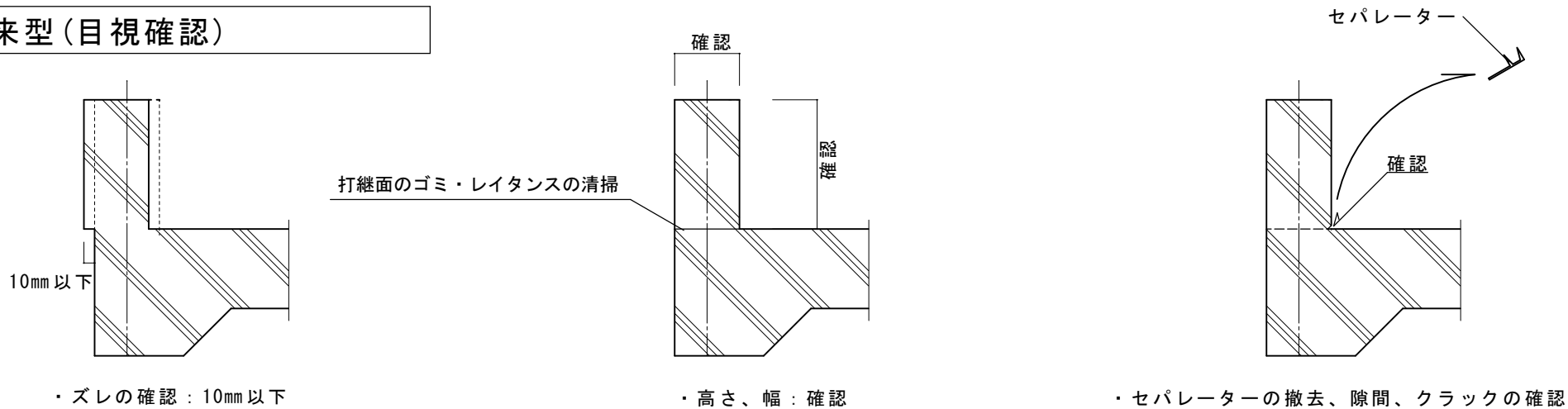
B：アンカーボルト

- ・位置、深さの確認
- ・建ち、かぶり厚さの確認
- ・ケミカルアンカーの許容数

C：コンクリートレベルの確認

Ⅷ：基礎出来型（目視確認）

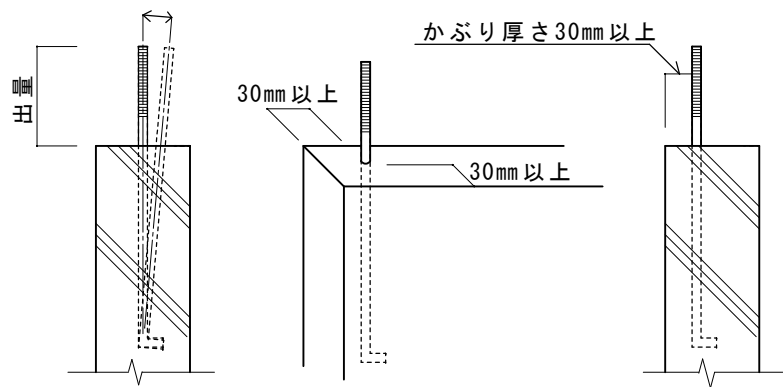
A：表面仕上



- ①ズレ、高さ、幅の確認。
- ②セパレーターの撤去：全数チェック。
- ③ジャンカ：骨材が表面に現れている場合⇒補修処理。
- ④クラック：幅 0.5ミリ以上⇒補修処理。
- ⑤水抜き孔：位置、径及び水が抜けるかの確認。
- ⑥欠け： 30mm程度の欠け⇒補修対象。

B：アンカーボルト

- ・ 1-VI-B・Cより取り付け位置、埋め込み必要深さ（出量）の確認。
- ・ 建ち（傾き）・かぶり厚さの確認。
- ・ ケミカルアンカーは原則禁止、やむを得ない場合は監理者判断により施工する。

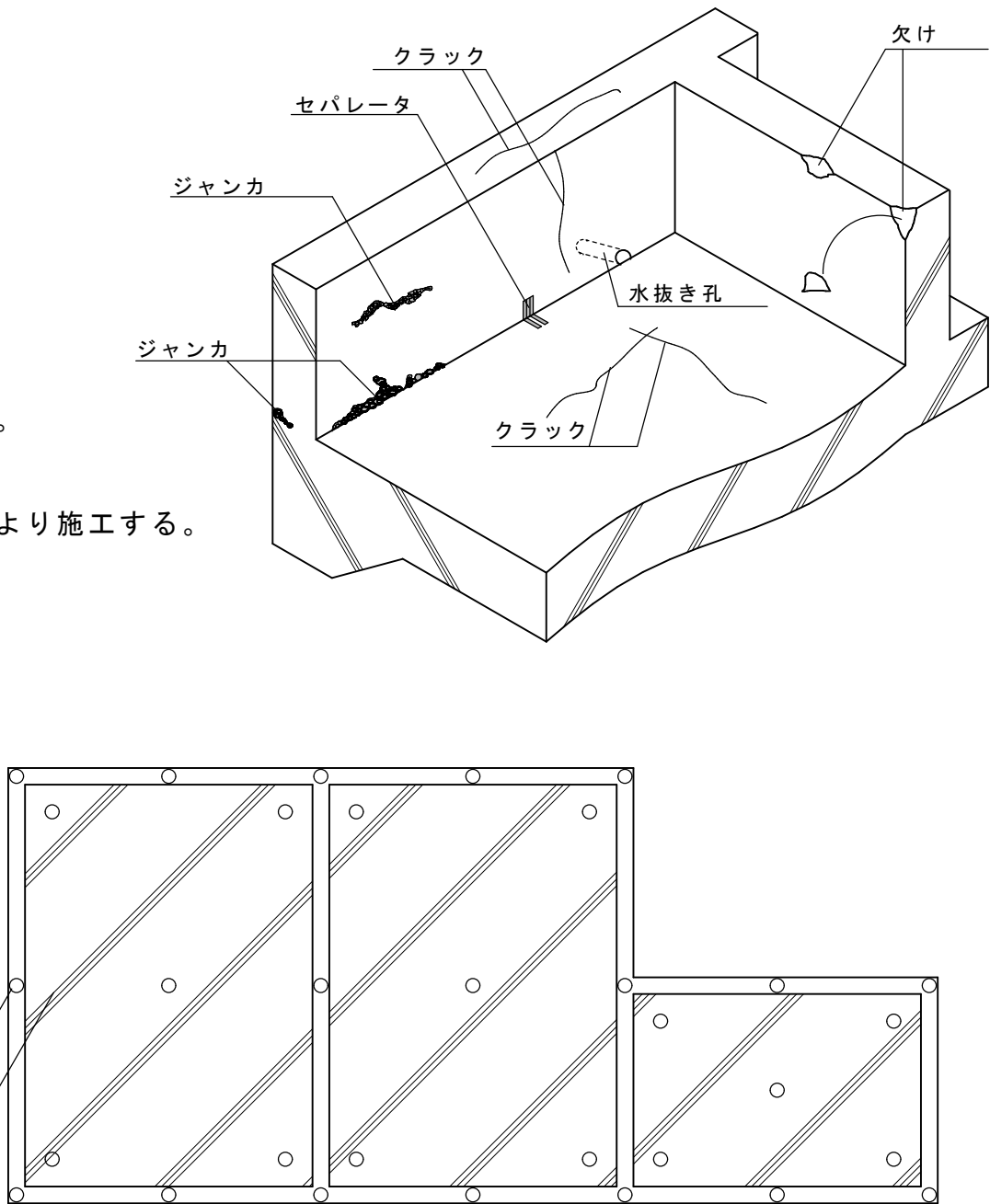


C：コンクリートレベルの確認

- 立ち上り ± 1.5mm以内。
- スラブ ± 10mm以内。

○ … 各レベルの計測箇所

立ち上り天端・スラブ天端のレベルを確認する。



作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

I：土台

A：墨出し

- ・基準墨を決定し、全ての土台の位置墨を出す。
- ・土台のズレは0mm以内とし、基礎幅を出ないこと。

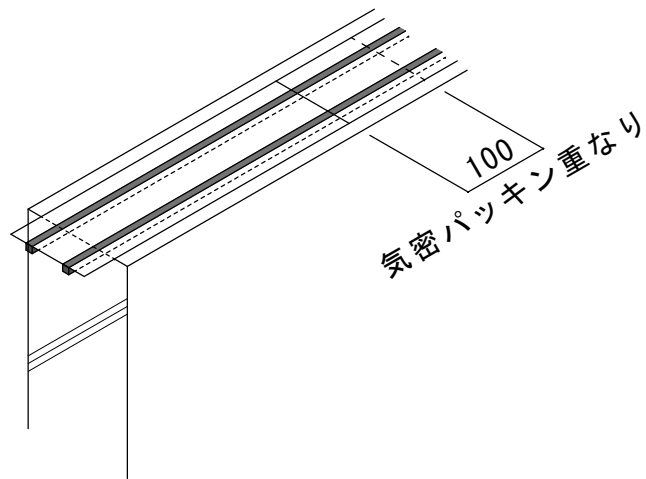
※玄関ポーチ内でヌスミを計画的に行う場合はこの限りではない。

B：土台、大引の種類

- ・特記なき限り、土台：ヒノキKD材を使用する。
- ・特記がある場合は、特記(D1樹種以上)による。

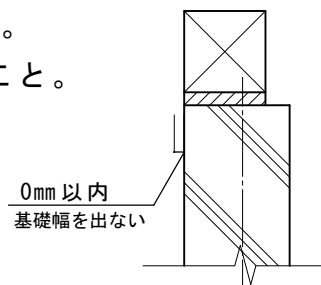
C：基礎パッキン

- ・全周気密パッキン仕様とする。
- ・気密パッキンは取付部材の上下を確認し、取り付ける。(メーカー仕様の確認)
- ・アンカーボルト位置はカッターで小さな切れ目を入れて差し込む。
- ・気密パッキンの継手は、100mm以上の重なりとし、気密切れをなくすように取り付ける。
- ・コーナー部の気密パッキンはX方向、Y方向が重なるように取り付ける。



D：水切り

- ・土台に接する外壁の下端には水切りを設ける。



高耐久性樹種…

ヒノキ、ヒバ、ベイヒ、ベイスギ、ケヤキ、クリ
ベイヒバ、タイワンヒノキ、ウェスタンレッドシーダー他

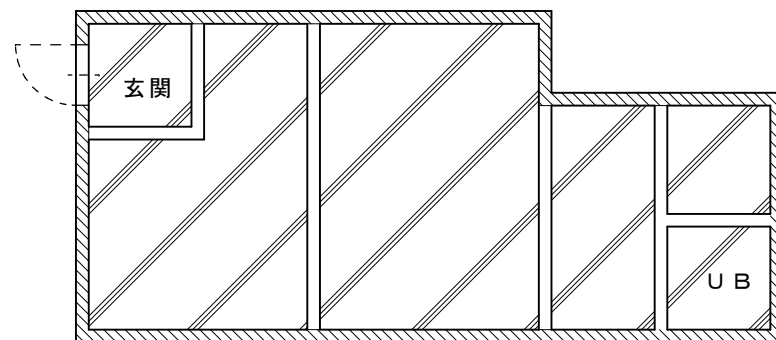
D1樹種 …

ヒノキ、ヒバ、ベイヒ、ベイスギ、ケヤキ、クリ、ベイヒバ、
タイワンヒノキ、ウェスタンレッドシーダー、スギ、ベイマツ、
カラマツ、クヌギ、ミズナラ、カプール、ケンパス、
セランガンバツ、ダグラスファー、ダフリカカラマツ、
タマラック、パシフィックコーストイエローシーダー他

気密パッキン

基礎断熱材と土台の隙間に
ウレタンを吹きこむ

基礎断熱材



…気密施工部分

木造住宅工事 標準施工手引書

2 土台工事

I：土台

A：墨出し

- ・基準墨の決定
- ・土台のズレ

B：土台、大引の種類

- ・ヒノキKD材の使用

C：基礎パッキン

D：水切り

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書

Style Design

承認

承認

承認

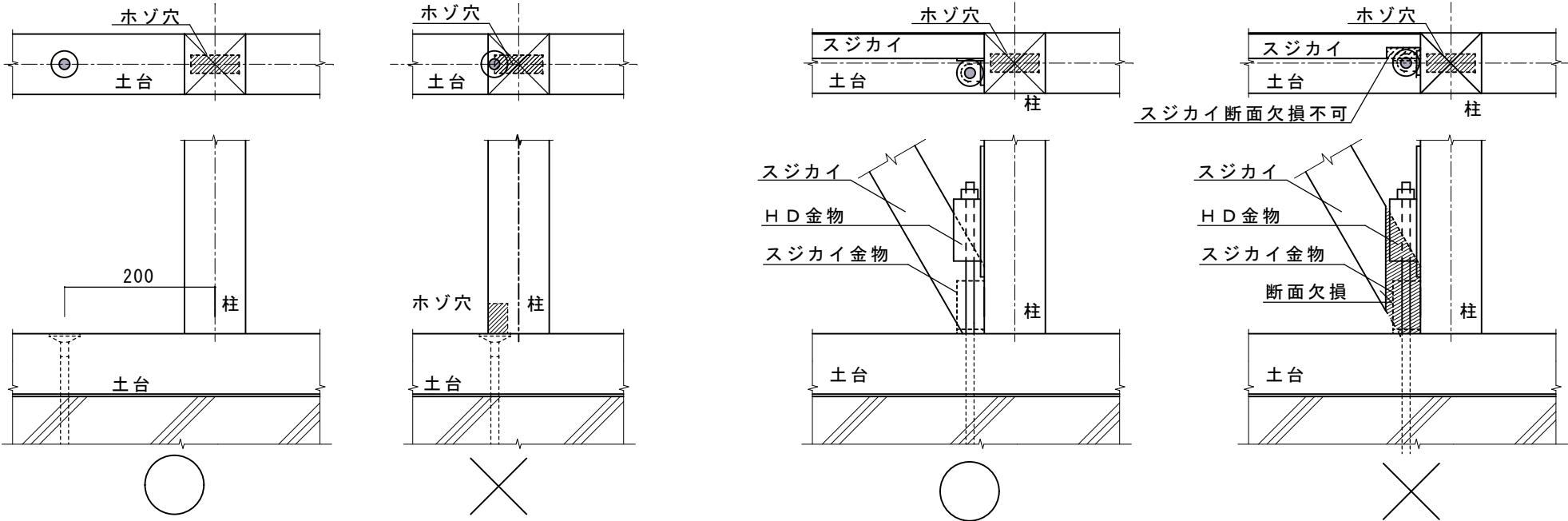
NO

201

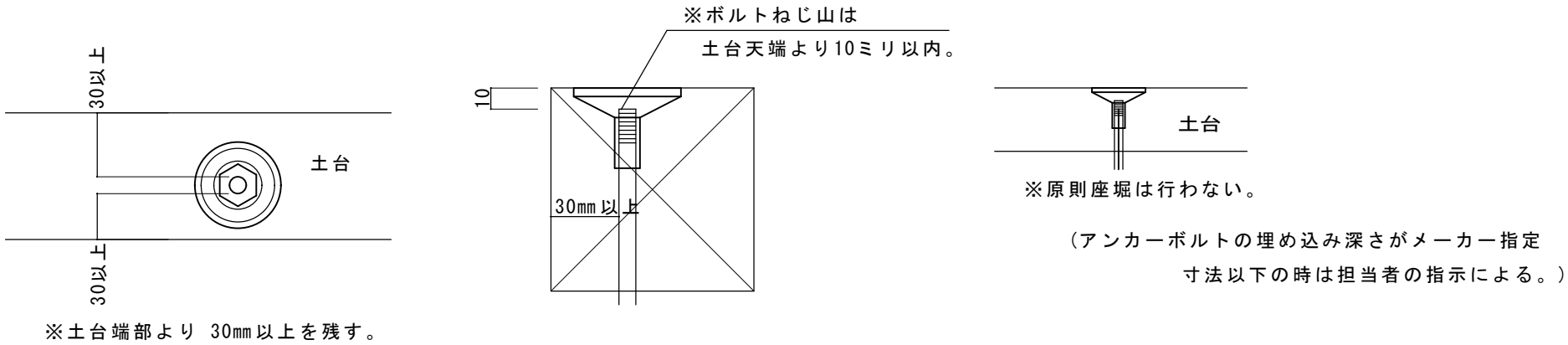
Ⅱ：アンカーボルト

A：取付位置
・基礎工事（１－Ⅵ－Ｂ図）にて確認。

B：位置の確認
①継ぎ手廻りアンカーボルト位置の確認。
②柱廻りアンカーボルト位置の確認。
③スジカイ廻りアンカーボルト位置の確認。



C：取付方法
①スクリーワッシャー仕様。



A：取付位置
・基礎工事（１－Ⅵ－Ｂ図）にて確認

B：位置の確認
①継ぎ手廻り
②柱廻り
③スジカイ廻り

C：取付方法
①スクリーワッシャー仕様

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			Style Design			

Ⅲ：大引・床束・床合板

A：大引

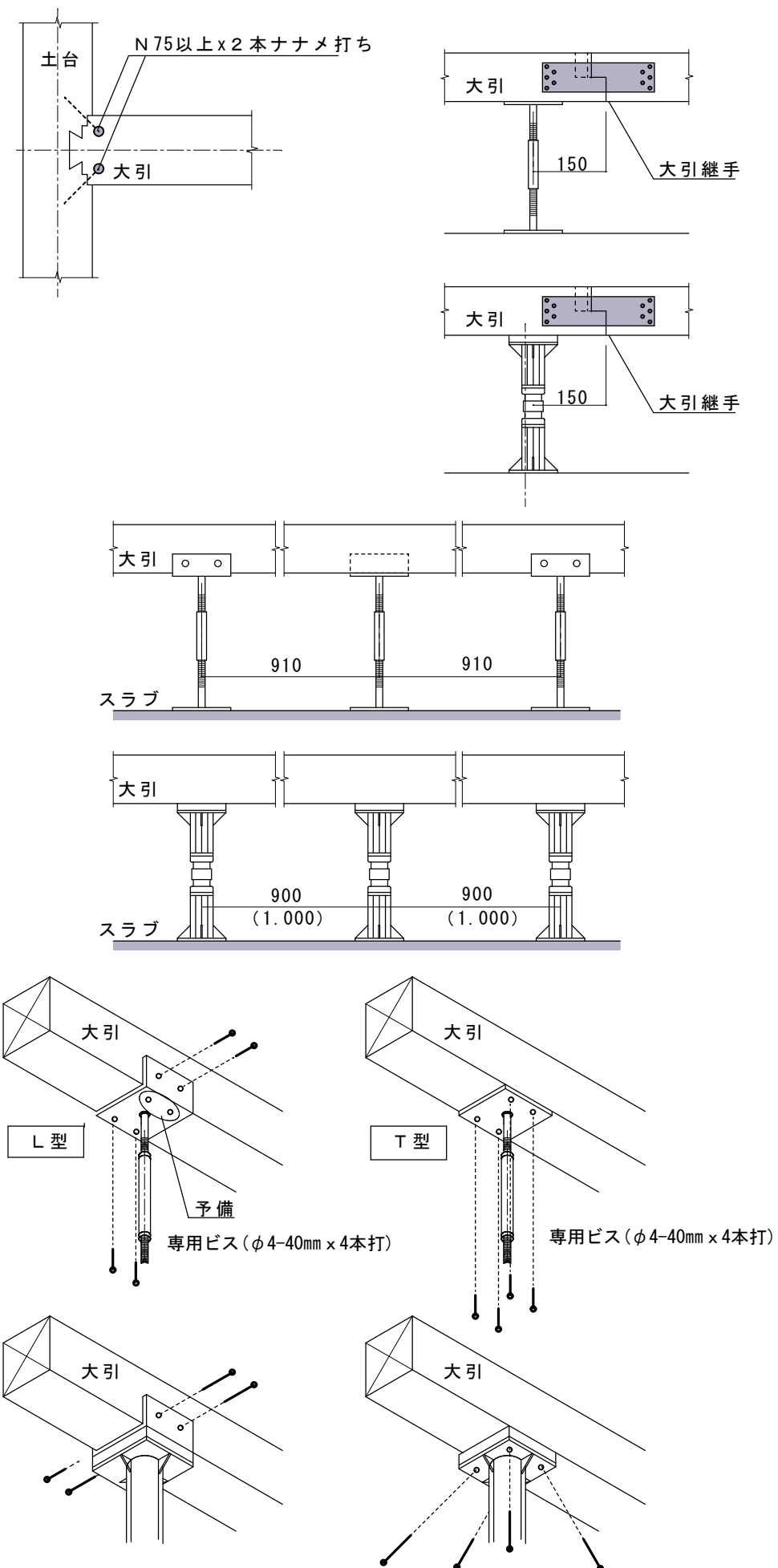
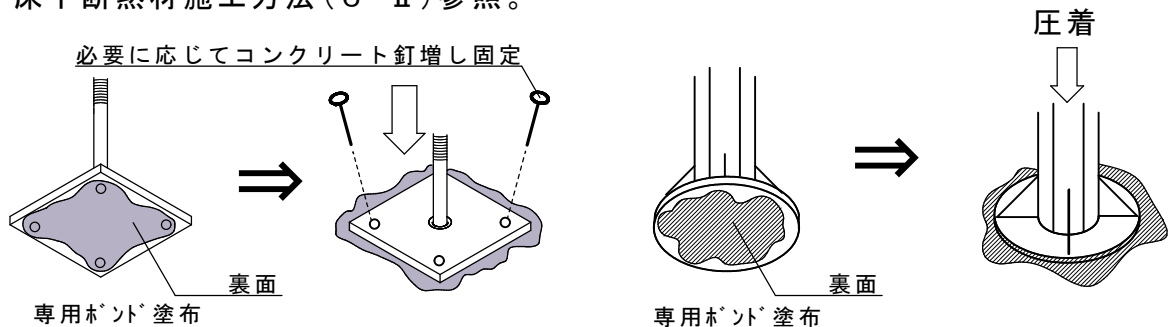
- ①土台への留め付け N75以上×2本ナナメ打ち。
- ②大引継手は原則禁止とし、やむを得ず継手が出来る場合は、腰掛蟻継とし継手位置は床束より 150mm程度を受け木側とする。
さらに片側面を平金物にて補強する事。

B：床束

- ①メーカー仕様の確認：鋼製束又はプラ束を使用する。
- ②配置
 - ・ 間隔 910mm以内に取り付。
 - ・ 大引受がL型の場合は取付が交互になるように留め付ける。
- ③留め付け
 - ・ 大引受け専用ビス4本打ち。
 - ・ 浮きの強い場合必要に応じて予備位置へのビス留めを行う。
- ④コンクリートへの固定
 - ・ コンクリート表面のゴミ、汚れ、水分、油分の無い様に十分な清掃を行う。
 - ・ 専用ボンド(コンクリートボンド)を束裏面に塗布しコンクリート面に圧着する。
 - ・ 必要に応じてコンクリート釘の増固定を行う。
- ⑤最終調整
 - ・ 接着材の硬化完了時、及び建物施工完了時に再度、束レベルの調整を行う。
(※緩み止めナットの締付けを確認すること。)

C：床合板

- ・ 軸組み床合板施工方法(3-II)参照。
- ・ 床下断熱材施工方法(6-II)参照。



A：大引

- ①土台への留め付け N75以上×2本ナナメ打ち
- ②大引継手の原則禁止

B：床束

- ①メーカー仕様の確認
- ②配置
- ③留め付け
- ④コンクリートへの固定
- ⑤最終調整

C：床合板

I：柱・間柱

A：材種、寸法

①材種

- ・特記なき限り、スギKD材を使用する。
- ・その他、特記による。

②柱寸法

- ・断面寸法は 105mm×105mm以上とする。
- ・通し柱寸法は 105mm×105mm以上とする。
- ・その他、特記寸法による。

B：建て方精度

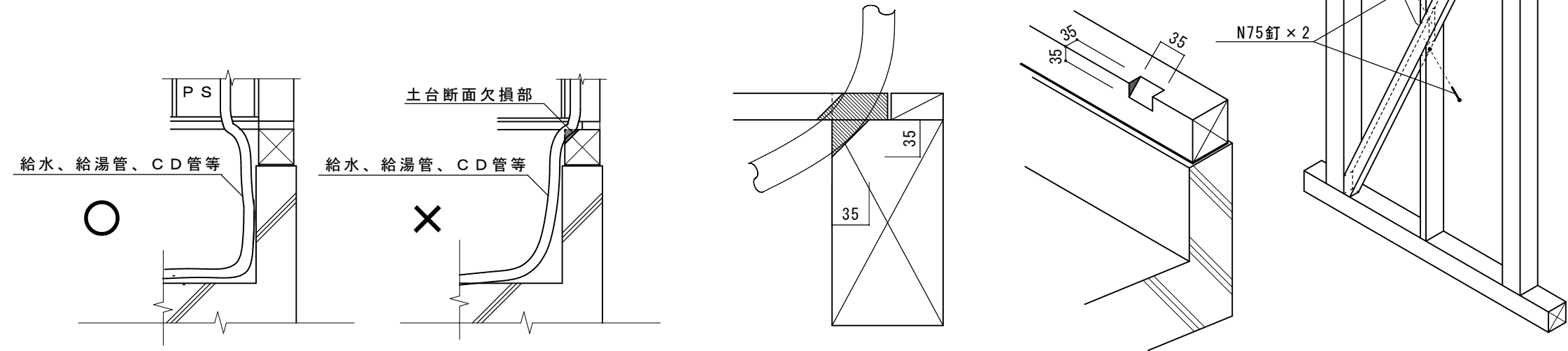
- ・建て方精度は 1/1000以内とする。

C：取付

- ・柱は建入れ直し歪み調整後、柱金物で固定する。
- ・間柱と梁、横架材との取合いは N75釘で上下 2本以上ずつ固定する。

D：欠損

- ・柱の欠損は断面積の 1/3未満としそれ以上欠きとる場合は担当者と協議の上必要な補強を行う。
- ・スジカイ取付部における間柱は、スジカイと交差する部分のみ間柱側を欠き取り N75釘を 2本打ちとする。
- ・設備配管は柱貫通、梁・横架材貫通を避けパイプスペースなど設備配管専用の空間及び取付方法を検討する。
やむを得ず梁・横架材を貫通する場合は横架材幅・高さ方向に 35mm以内、切断長さは 35mm以内とし連続して設けない事。 ※梁・土台等を欠き込む場合は断面検討を行うこと。



A：材種、寸法

①材種

②柱寸法

B：建て方精度

C：取付

D：欠損

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

Ⅱ：床合板(剛性床工法)

A：種類

- ・ J A Sに適合する構造用合板で 28mm以上の物を使用する。
- ・ 特記がある場合は特記による。

B：張り付け方法

- ・ 胴差し、梁、横架材に直接張り付ける。
- ・ 長手方向は梁に対して直角方向とする。
- ・ 原則千鳥張り施工とする。
- ・ 床合板は梁に 30mm以上重ねる。

C：留め付け

① 4周釘打ち

- ・ N75 (CN75)釘を用い、間隔 150mm以下で 4周釘打ち固定する。
- ・ 長辺方向受梁は 45mm×45mm以上とする。
受け材落とし込み後、75釘 1本を受け材天端に釘打ちする。

② 川の字釘打ち

- ・ さね加工を施した構造用合板を用いる。
- ・ N75 (CN75)釘を用い、間隔 150mm以下で合板短辺方向に川の字固定する。

③ 段差

- ・ 床合板が梁天端より下がる場合は
N90 @300で釘打ちした受材 (45mm×45mm以上)に釘打ちする。

D：開口補強

① 欠損補強

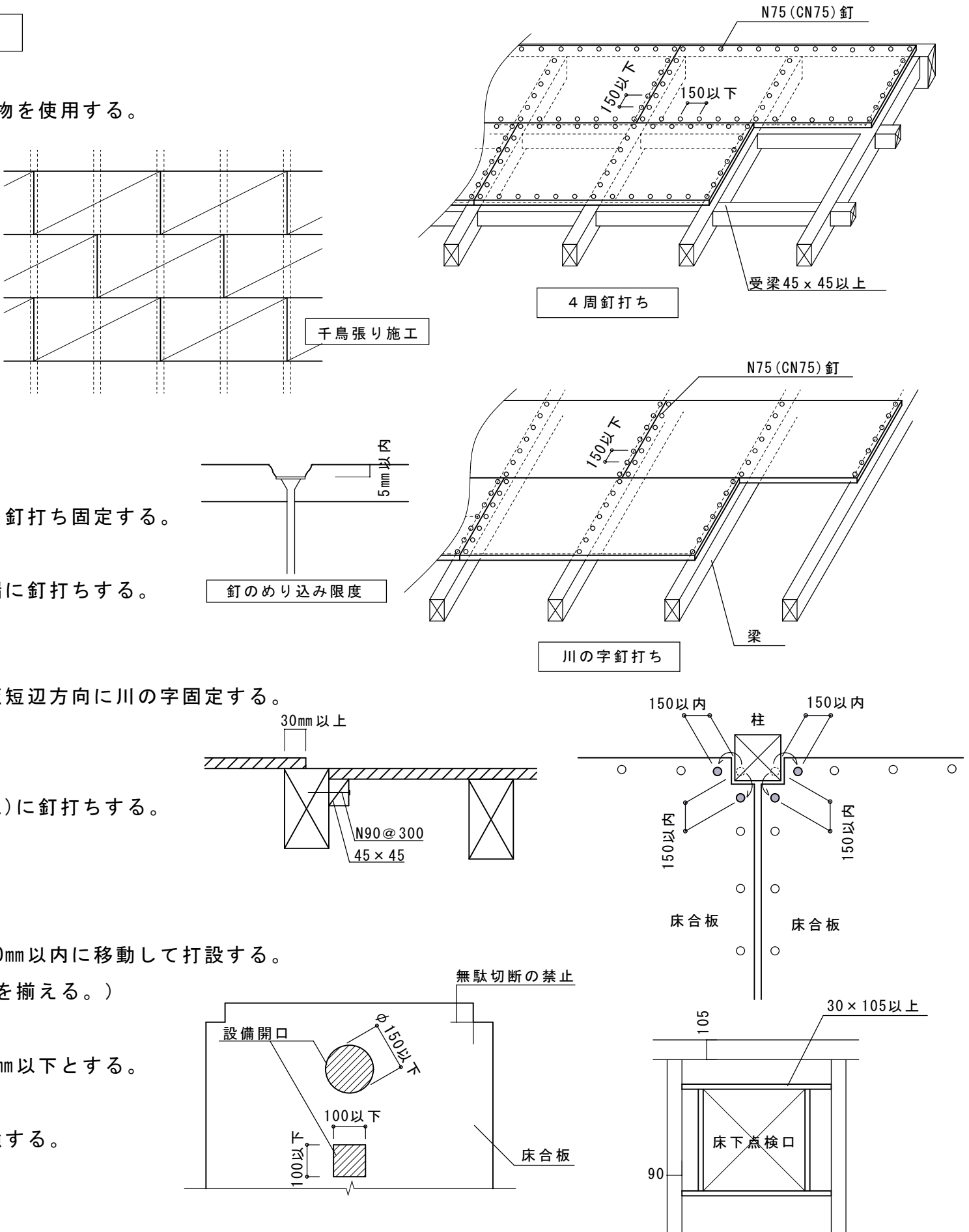
- ・ 柱等により欠損した部分はその位置より 150mm以内に移動して打設する。
(X 方向、 Y 方向共、欠損した釘の打設本数を揃える。)

② 設備開口

- ・ 最大寸法は 100mm×100mm以下、又は φ150mm以下とする。

③ 床下点検口

- ・ 床下点検口周囲は 30×105mm以上で下地補強する。



A：種類

- ・ J A S適合構造用合板 24mm以上

B：張り付け方法

- ・ 胴差し、梁、横架材に直接張り付ける。
- ・ 長手方向は梁に対して直角方向とする。
- ・ 原則千鳥張り施工とする。

C：留め付け

① 4周釘打ち

② 川の字釘打ち

③ 段差

D：開口補強

① 欠損補強

② 設備開口

③ 床下点検口

A：種類

- ・ J A S 適合構造用合板 9.0mm

B：留め付け

- ① 釘
- ② へりあき、打ち込み
- ③ 大壁仕様
- ④ 真壁仕様
- ⑤ 真壁床勝ち仕様
- ⑥ 非耐力壁

C：開口補強

- ① 端部からの距離、開口部間隔
- ② 受材補強
- ③ 開口寸法
- ④ 連続開口の禁止
- ⑤ 切り欠き

Ⅲ-1：構造用合板（9mm）

A：種類

- ・ J A S に適合する構造用合板（特類）で厚さ 9.0mm を使用するものとする。

※上記以外を使用する場合は担当者の指示による。

B：留め付け

① 釘（壁倍率：2.5倍）

- ・ N50を用い外周部、中通り部共、釘ピッチ 150mm以下で均等に打設する。

② へりあき、打ち込み

- ・ へりあき寸法は 12mm以上とし垂直に打ち込む。打ち込み深さ寸法は、1mm以内とし間柱への打ち損じ等、打設ミスは全て釘の増し打ちを行なう。

③ 大壁仕様

- ・ 柱、間柱、土台、梁（横架材）に1枚縦張りとする。
やむを得ず柱、梁以外で継ぐ場合は下地材（45mm×100mm以上）に留め付ける。

④ 真壁仕様

- ・ 受材寸法は 30mm×40mm以上とし、柱、床板、梁（横架材）に N75以上の釘を @300mm以下で留め付け、これに構造用合板を留め付ける。

⑤ 真壁床勝ち仕様

- ・ 受材寸法は 30mm×40mm以上とし、柱、土台、梁（横架材）に N75以上の釘を @200mm以下で留め付け、これに構造用合板を留め付ける。

⑥ 非耐力壁

- ・ 耐力を必要としない合板部の釘留め付けは、 @250mmを限度とする。

C：開口補強

① 端部からの距離、開口部間隔

外周部開口及び開口間隔は合板端部より 100mm以上離す。

② 受材補強

- ・ 開口大きさが 100mmを超え合板幅の 1/3以内の開口部はその開口部周囲を 30mm×60mm以上の受材で補強する。

③ 開口寸法

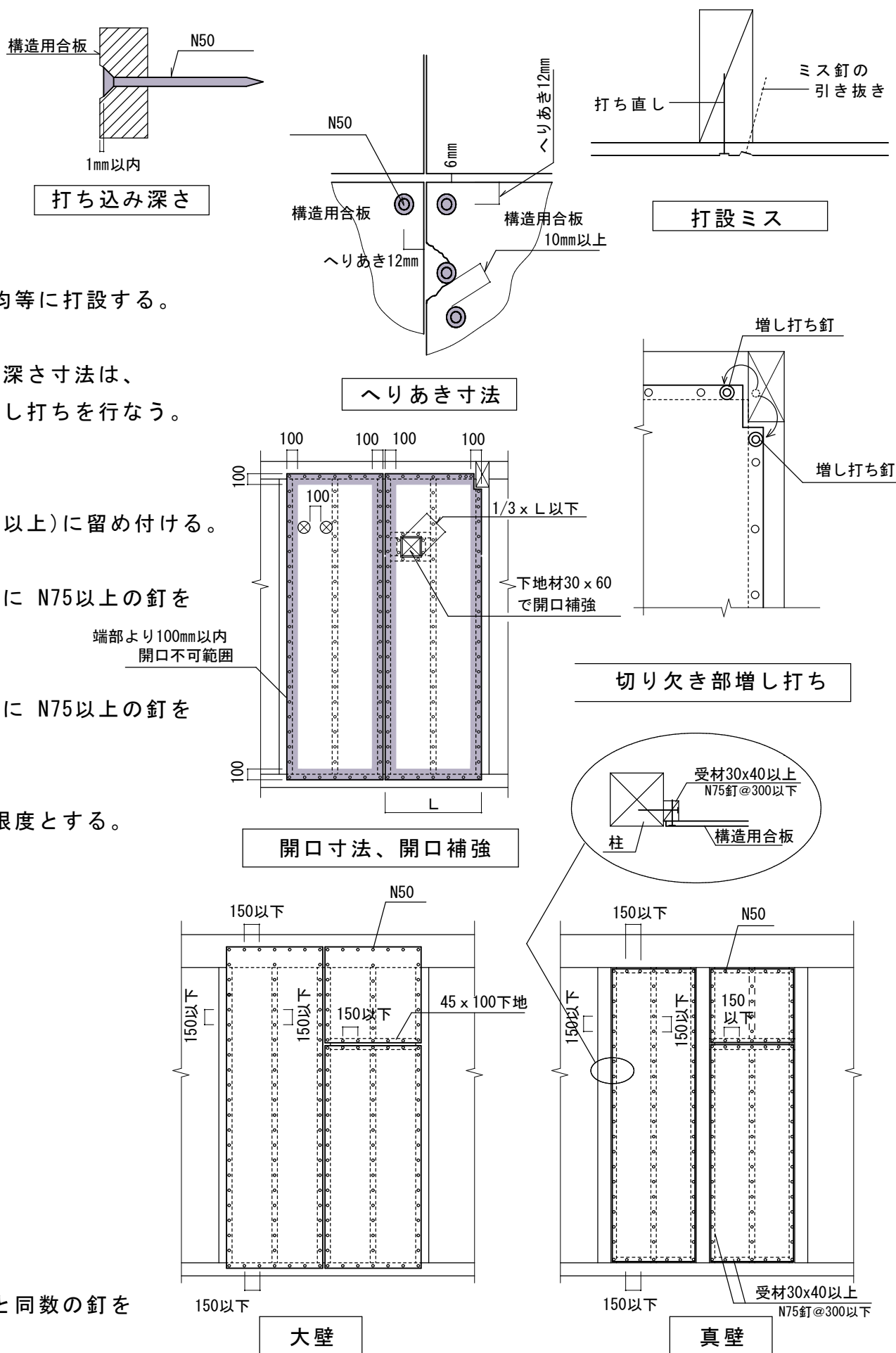
- ・ 合板幅の 1/3を超える開口部は設けない事。

④ 連続開口の禁止

- ・ 補強を必要とする開口部は連続して設けない事。

⑤ 切り欠き

- ・ 大梁等により切り欠きした場合は欠損部分に打設する釘と同数の釘を縦方向、横方向共に切り欠きした端部に増し打ちする事。



作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書
Style Design

承認	承認	承認

NO	303

Ⅲ-2：ダイライトMS

※「ダイライトMS」施工要領書及び行政の指導により施工する事

A：種類

- ・ダイライトMS 9.0mmを使用する。
- ・上記以外を使用する場合は担当者の指示による。

B：留め付け

①釘

- ・N50釘を用い外周部釘ピッチ 100mm以下、内周部釘ピッチ 200mm以下で均等に打設する。

②へりあき、打ち込み

- ・釘打ち位置は面材端部から 12mm以上とし垂直に打ち込む。打ち込み深さ寸法は 1mm以内とし間柱への打ち損じ等、打設ミスは全て釘の増し打ちを行う。

③留め付け方法

- ・入隅部分を除き柱、間柱、土台、梁（横架材）に1枚縦・直張りとする。
やむを得ず柱、梁以外で継ぐ場合は下地材（45x45mm以上）に留め付ける。
- ・入隅部分は 45×45以上の受材を N90で 200mm以内に柱に留め付け、
その受材に留め付ける。
- ・耐力壁の最両端部は 105×105mm以上の柱とする。

④非耐力壁

- ・耐力を必要としない釘留め付けは、@250mm程度とする。

C：開口補強（耐力壁）

①開口可能材

- ・ダイライトMSの製品幅使用部分でのみ開口可能（切断部は不可）。

②端部からの開口可能距離

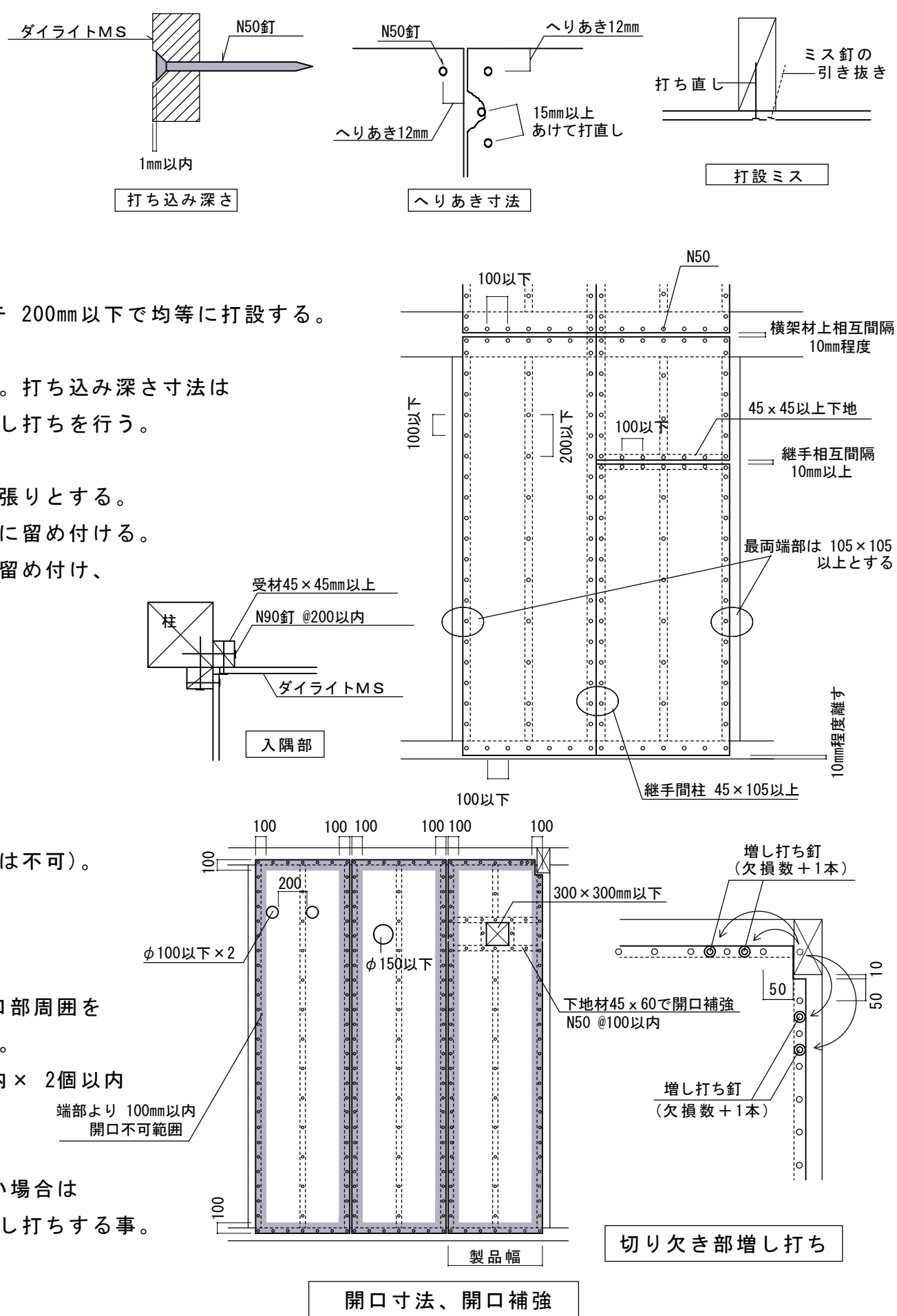
- ・外周部開口及び開口間隔は合板端部より 100mm以上離す。

③開口寸法・補強

- ・開口大きさが 150mmを超え 300mm以内の開口部はその開口部周囲を 45mm×60mm以上の受材で補強し 100mm以内で釘打ちする。
- ・補強なしの開口は直径 150mm以内× 1個、直径 100mm以内× 2個以内
- ・開口が複数となる場合は 200mm以上の間隔を空ける。

④切り欠き・増打ち

- ・大梁等により切り欠きした場合や金物等で釘打ちできない場合は
欠損釘と〔同数+1本〕以上の釘を縦方向、横方向共に増し打ちする事。



Ⅲ-2：ダイライトMS

A：種類

- ・ダイライトMS 9.0mm

B：留め付け

①釘

②へりあき、打ち込み

③留め付け方法

④非耐力壁

C：開口補強（耐力壁）

①開口可能材

②端部からの開口可能距離

③開口寸法・補強

④切り欠き・増打ち

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書
Style Design

承認	承認	承認

NO	304

Ⅲ-3：ヘビーウォール

※「ヘビーウォール」設計施工マニュアル及び行政の指導により施工する事

A：種類

- ①設計図書に指定する、ヘビーウォール規格断熱パネルを使用する。
- ②断熱材の厚みは、柱寸法 105×105以上：t=60mm以上とする。

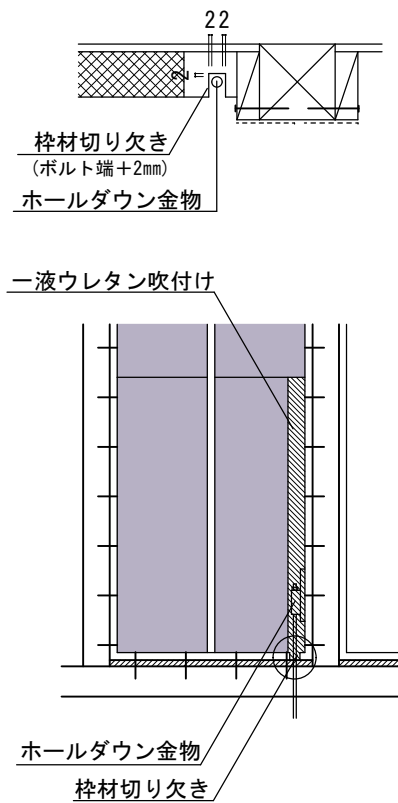
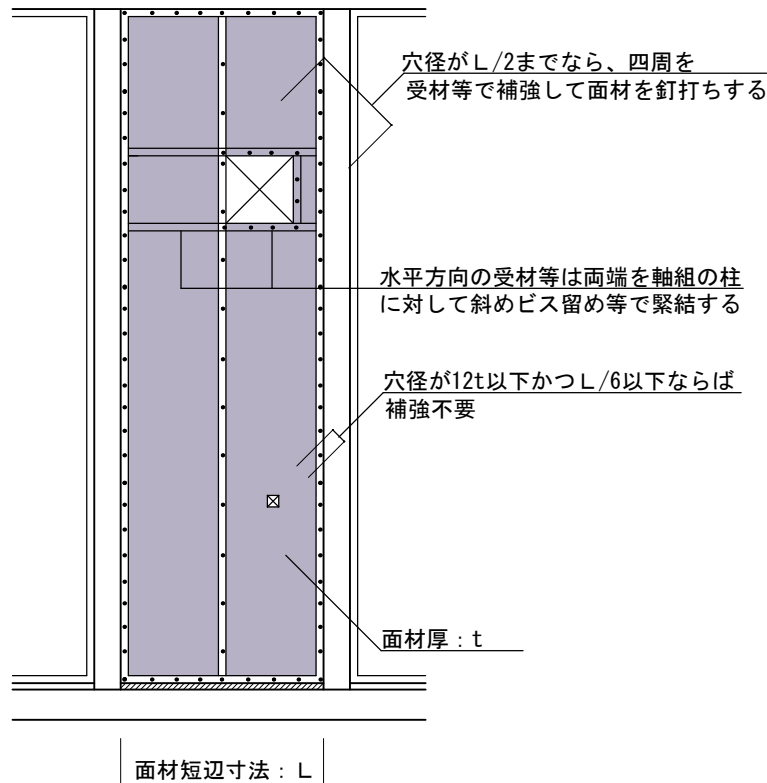
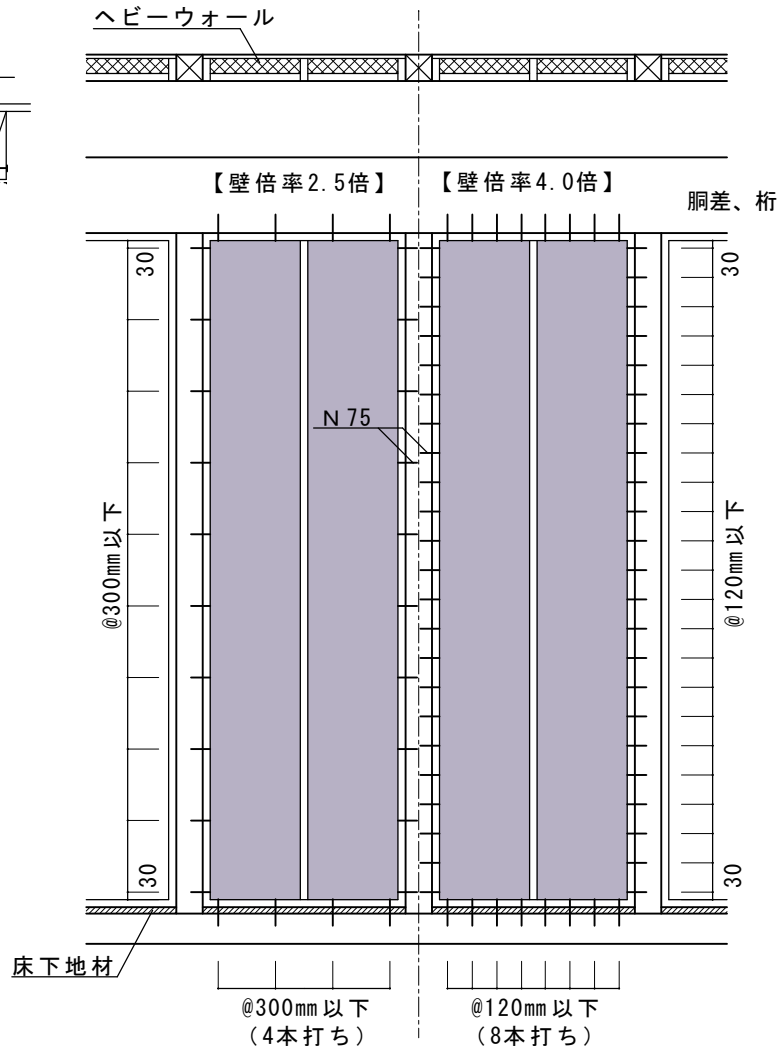
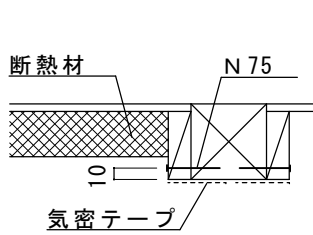
B：留め付け

- ①N 75釘を用い枠材を介して柱、土台、横架材の柱幅内部に留め付ける。
- ②短辺方向の枠材と軸組材はN 75釘で上下とも留め付け、
壁倍率2.5倍の場合は@300mm以下で、壁倍率4.0倍の場合は@120mm以下で留付ける。
- ③長辺方向の枠材と軸組材との留め付けはN 75釘で縁端距離 30mmを確保し、
壁倍率2.5倍の場合は@300mm以下で、壁倍率4.0倍の場合は@120mm以下で留付ける。
- ④床下地材（構造用合板 t=28mm以下）はN 75釘で@150mm以内で留め付ける。
- ⑤非耐力壁となるヘビーウォールはN 75釘で縁端距離 30mmを確保し、
釘間隔@450mm程度で留め付ける。
- ⑥ヘビーウォールは突起物や柱金物（ホールダウンボルトは除く）の無い
位置で取り付ける。
- ⑦ヘビーウォール枠材と柱、床、梁、横架材の見付け面には気密テープを
用いて気密処理を行う。
- ⑧ホールダウン金物の取り付く場合は、アンカーボルト位置の枠材及び、
ウレタンパネルを現場で切り欠き加工し、
金物廻りの隙間を一液ウレタンで
断熱処理する。

C：開口補強

※耐力壁面材の穴あけについては、技術的助言 1335号に基づき行う。

- ①小開口を設ける事が出来る範囲は、
面材部分（構造用MDF）の枠が無い範囲とする。
- ②穴径が 12t以下かつL/6以下の小開口は補強不要。
- ③開口大きさが ②の範囲を超え合板幅の
1/2以内の開口部はその開口部周囲を
受材で補強する。
- ④合板幅の 1/2を超える開口部は設けない事。
- ⑤補強を必要とする開口部は連続して設けない事。



木造住宅工事 標準施工手引書

3 軸組工事

Ⅲ-3：ヘビーウォール

A：種類

- ①ヘビーウォール規格断熱パネル
- ②断熱材の厚み

B：留め付け

- ①N 75釘枠材留め付け
- ②短辺方向 壁倍率2.5倍：@300mm以下
壁倍率4.0倍：@120mm以下
- ③長辺方向 壁倍率2.5倍：@300mm以下
壁倍率4.0倍：@120mm以下
- ④床下地材@150mm以内打ち
- ⑤非耐力壁@450mm程度打ち
- ⑥ヘビーウォール取付位置
- ⑦気密テープ処理
- ⑧ホールダウン金物位置の切り欠き

C：開口補強

- ①小開口範囲
- ②補強不要な小開口
- ③補強必要な小開口
- ④最大開口寸法
- ⑤連続した開口部の禁止

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			Style Design			
						NO 305

IV：スジカイ耐力壁

A：位置、寸法、方向

- ・設計図書によりスジカイ寸法、取付位置、取付方向等を確認する。

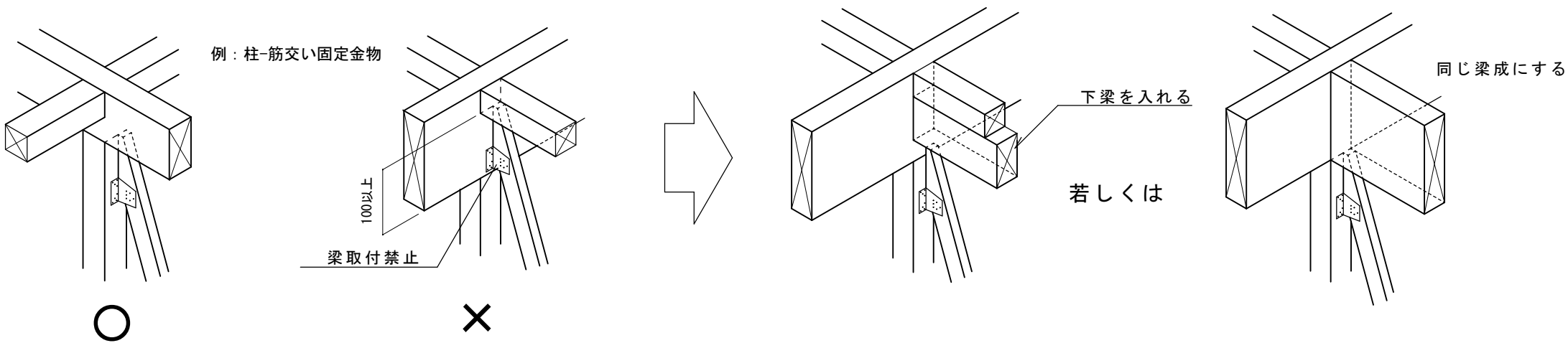


B：スジカイ取付

- ①スジカイ欠損の禁止：必ず間柱側を切り欠く事。
- ②間柱交差部の釘打ち：間柱～スジカイ取合い部は、N75釘×2本打ちとする。
- ③スジカイの割れ：人為的かつ接合ビスにかかる割れが生じた場合には、取換えを検討する。
- ④スジカイの節：目安として 20mm以上の節抜けがある場合は、取換えを検討する。

C：スジカイプレート

- ①認定品の確認：スジカイプレートはZマーク、Sマーク、Dマーク、及び認定品（同等金物・性能金物）を使用する。
- ②留め付け：スジカイプレートの留め付けは、柱-スジカイ-横架材に固定する。
但しメーカー認定品等で柱-スジカイ2か所固定の場合は横架材への固定に注意する。
プレートビスは柱・筋交いに垂直に打ちつけ、柱背割れなど耐力上弱くなる部分は避けること。
- ③梁成の確認：プレカット図作成時に交差する梁の梁成が 100mm以上の差がある場合は金物の種類により梁成の指示を行う。



A：位置、寸法、方向

- ・設計図書による確認

B：スジカイ取付

- ①スジカイ欠損の禁止
- ②間柱交差部の釘打ち
- ③スジカイの割れ
- ④スジカイの節

C：スジカイプレート

- ①認定品の確認
- ②留め付け
- ③梁成の確認

V：構造金物

A：取付位置、種類

①設計図書による確認

- ・設計金物図面により取付位置、取付強度の確認を行う。

②使用構造金物

- ・構造金物はZマーク、Sマーク、Dマーク及び認定品（同等金物・性能金物）を使用する。

B：柱金物

①直接アンカー

- ・15kN以上は基礎から直接アンカーとする。

②金物強度の足し算

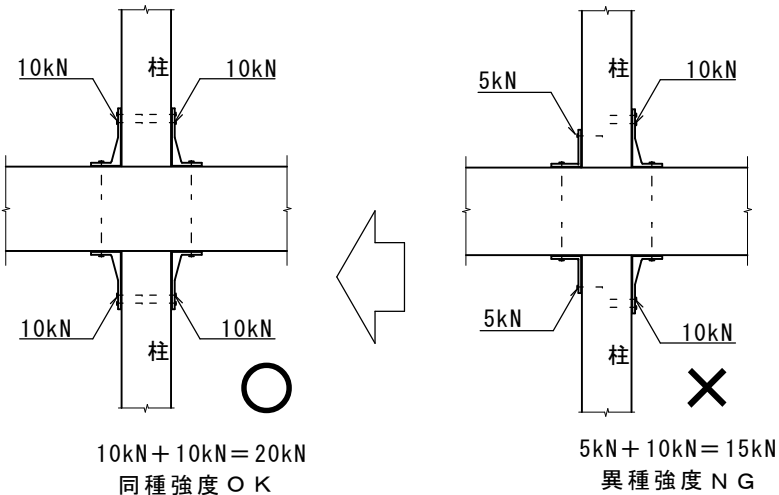
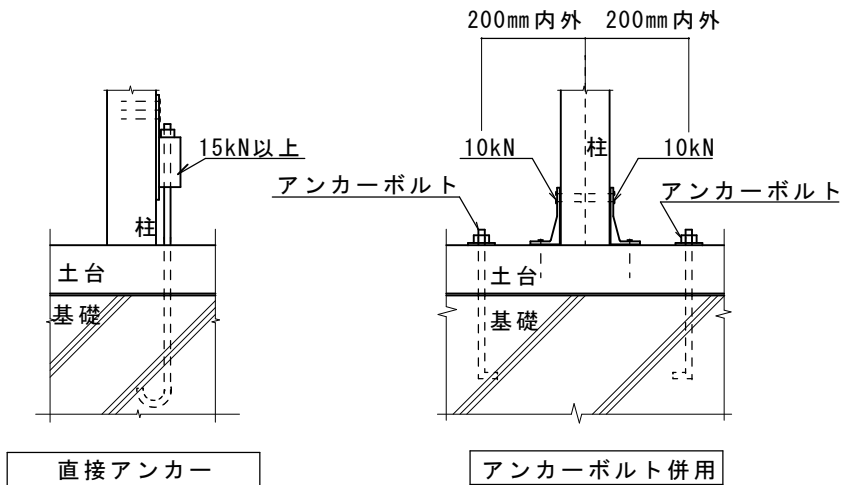
- ・異種強度の柱金物の足し算禁止。
但し同種強度の場合のみ足し算可（行政確認が必要）。
又、土台において $10\text{kN} + 10\text{kN} = 20\text{kN}$ とする場合は、それぞれ金物取付位置にアンカーボルトが必要。

③異種強度金物の取付禁止

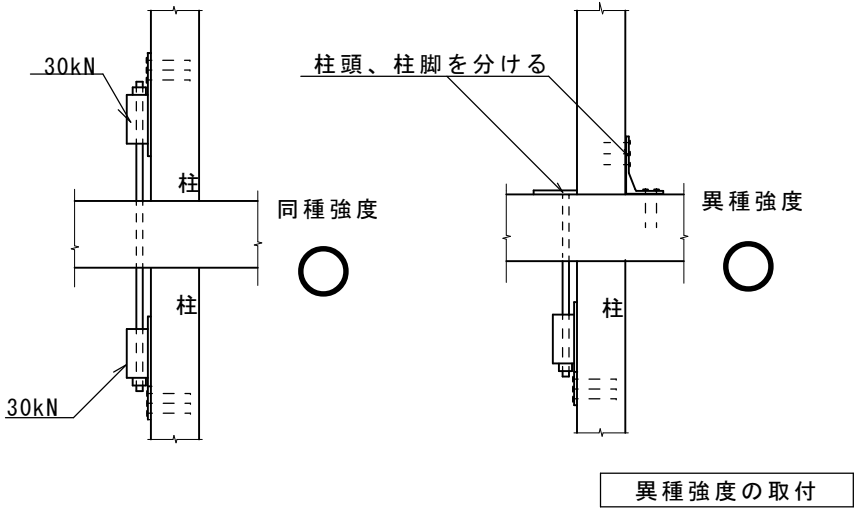
- ・異種強度の柱頭、柱脚ホールダウン金物の取付禁止
弱い方のホールダウン金物が先行して破壊する為、強い方のホールダウン金物に揃える。

④ボルト側耐力の確認

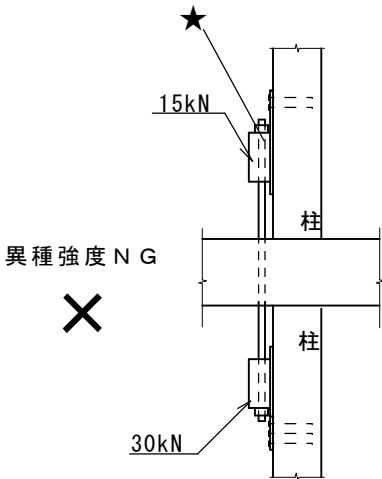
- ・ホールダウン金物取付時の座付ボルトの強度の確認。
・座付ボルトの引張耐力が、ホールダウン金物以上の耐力が必要。



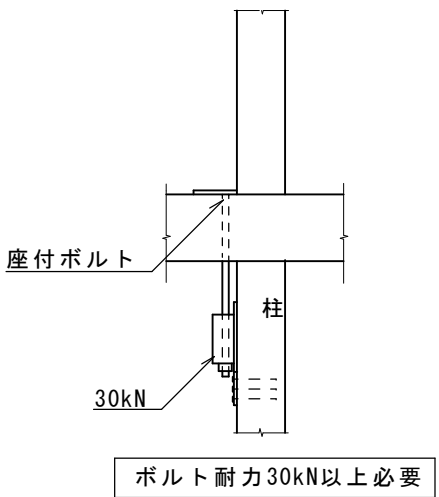
金物強度の足し算



異種強度の取付



異種強度 NG



ボルト耐力30kN以上必要

A：取付位置、種類

①設計図書による確認

②使用構造金物

B：柱金物

①直接アンカー

②金物強度の足し算

③異種強度の取付

④ボルト側耐力の確認

B：柱金物

⑤主側梁への取付

⑥取付方向確認

⑦使用ビスの確認

⑧取付金物の選択

⑨指定柱金物の釘、本数の確認

C：その他金物

①金物どうしの干渉禁止

②短冊金物

③羽子板ボルト

④その他

V：構造金物

B：柱金物

⑤柱金物は原則主側梁に取付とし梁～梁取付としない事。

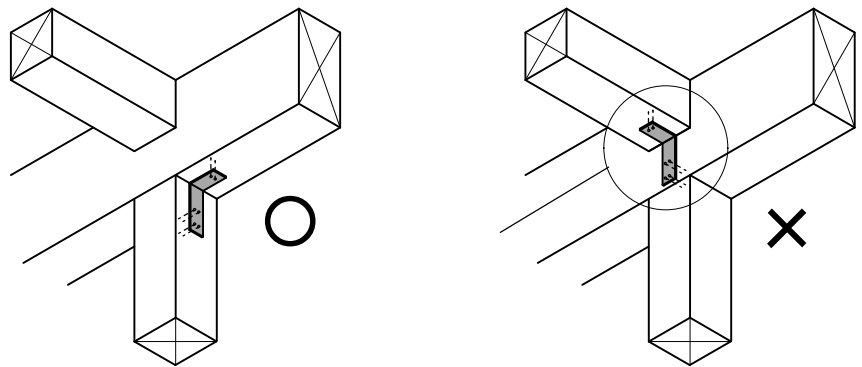
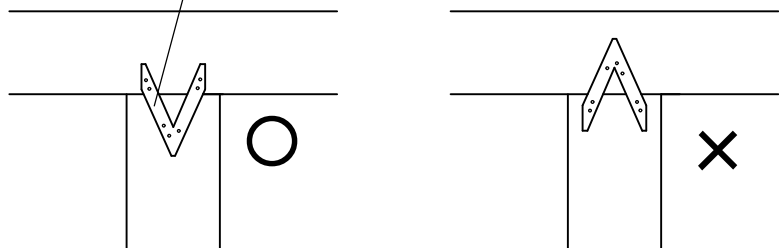
⑥金物は刻印等で柱側取付方向を確認し正確に取付ける。

⑦横架材使用ビスと柱側使用ビスを確認し正確に取付ける。

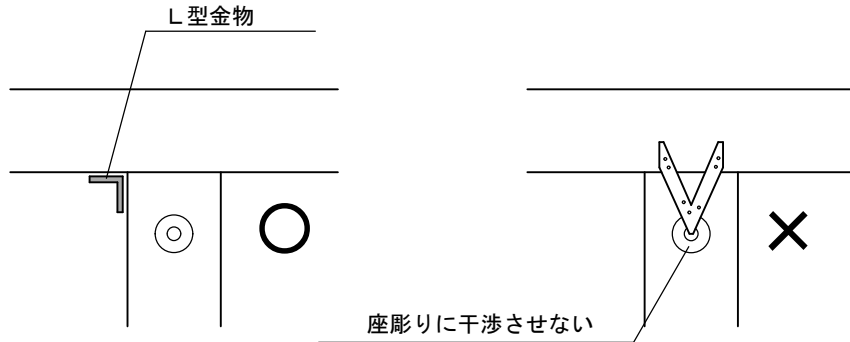
⑧座彫り部分に金物がかかる場合、同等の別タイプの金物を選択する。

⑨使用する柱金物は指定されたビス、本数を確認し割れの無い様に留め付ける。

柱刻印に合わせる



梁同士の取り付けにならないこと。



座彫りに干渉させない

C：その他金物

①取付金物同士が干渉する場合は、取付位置を変更し干渉しないように留付ける。

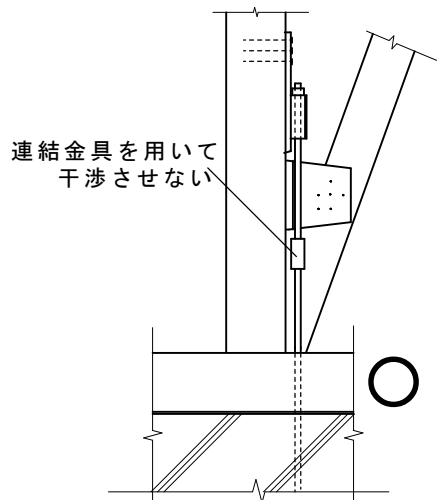
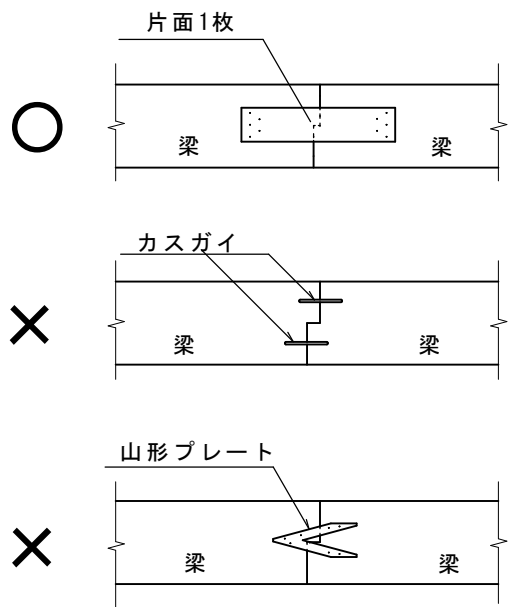
②梁の継手位置には、構造図に基づき専用短冊金物を片面1枚以上取り付ける。

③梁の仕口部分には羽子板ボルトを取付け、木材取付面ボルト部には座金を使用する。

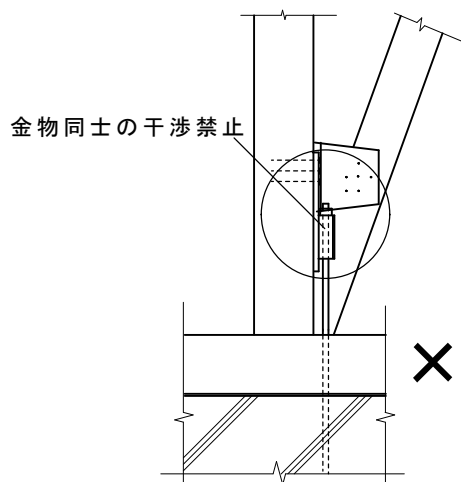
④その他

・ボルトのネジ山は、3山以上出るように締め付ける。

・ネジ部の浮き、ナットの緩みが無いことを確認する。



連結金具を用いて干渉させない



金物同士の干渉禁止

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

VI：防腐・防蟻

A：防腐・防蟻措置

- ①樹種による防腐、防蟻処理
耐久性区分D1樹種を用いた製材、集成材（JAS適合）。
K3相当以上の防腐、防蟻処理部材（工場処理）。
- ②構造による防腐、防蟻処理
外壁内に通気層を設け通気構造とした外壁の軸組及び外壁の下地材。
軒の出を900mm以上とした真壁構造。
- ③薬剤処理による防腐、防蟻処理
木材保存協会、又は（社）日本しろあり対策協会認定の防腐防蟻処理剤による現場塗布。
- ④その他、特記仕様書による。

B：範囲

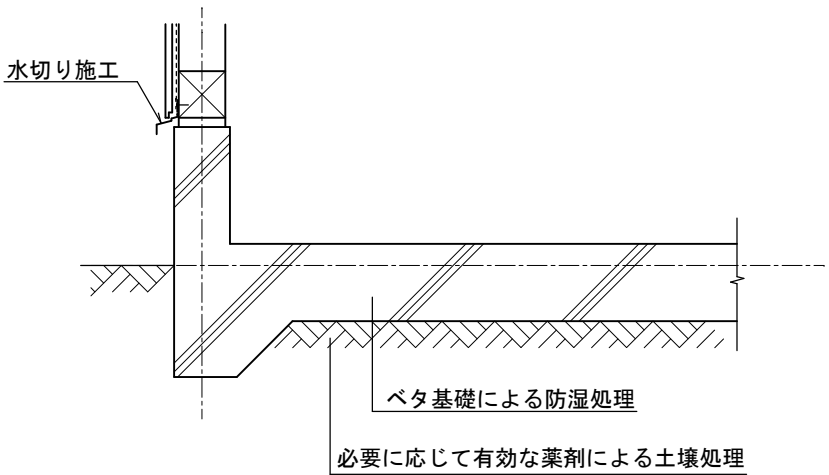
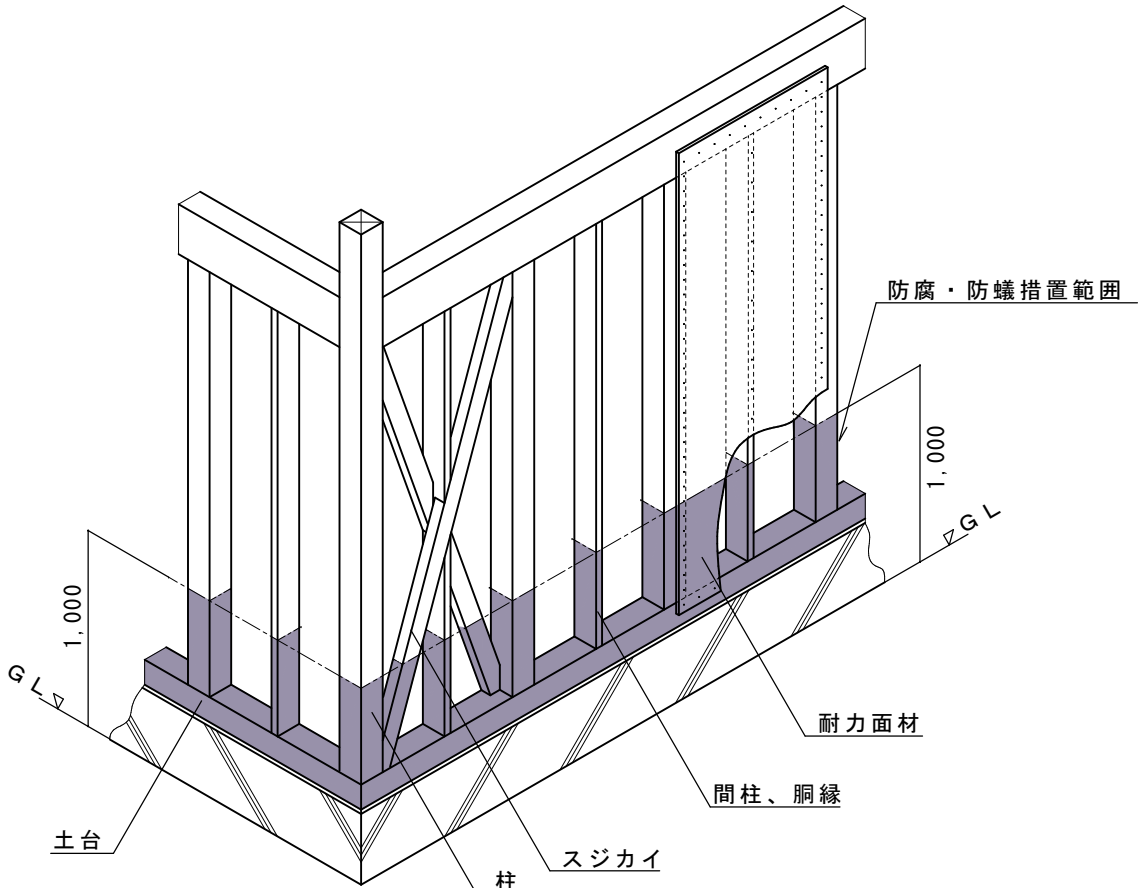
- ①GL+1,000mm以内の部分
- ②軸組の部材
柱、スジカヤ、土台、耐力面材。
外壁部下地材（ラス下地、胴縁等）。

C：土台の防腐・防蟻

- ①樹種（2-I-B参照）
高耐久性樹種の使用（JAS適合）。
K3相当以上の防腐、防蟻処理部材（工場処理）。
- ②上記樹種+外壁下端水切り施工
- ③その他、特記仕様書による。

D：床下地盤面の防湿防蟻措置

- ①鉄筋コンクリートのベタ基礎
- ②有効な土壌処理



木造住宅工事 標準施工手引書

3 軸組工事

VI：防腐・防蟻

A：防腐・防蟻措置

- ①樹種による防腐、防蟻処理
- ②構造による防腐、防蟻処理
- ③薬剤処理による防腐、防蟻処理
- ④その他

B：範囲

- ①GL+1,000mm以内
- ②軸組の部材

C：土台の防腐・防蟻

- ①樹種
- ②水切
- ③その他

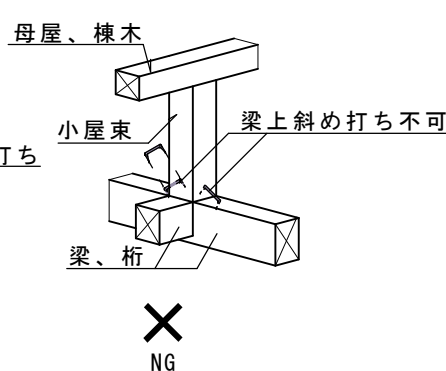
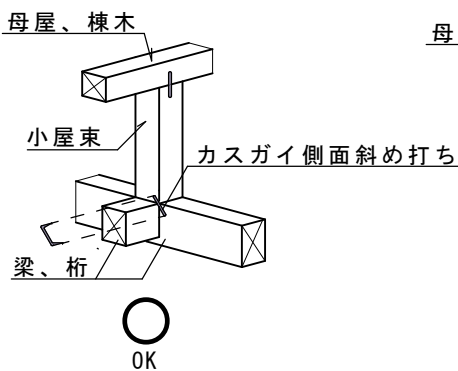
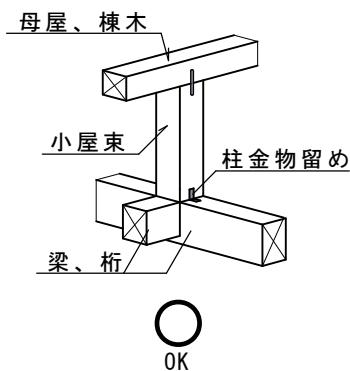
D：床下地盤面の防湿防蟻措置

- ①鉄筋コンクリート
- ②有効な土壌処理

Ⅶ：小屋組

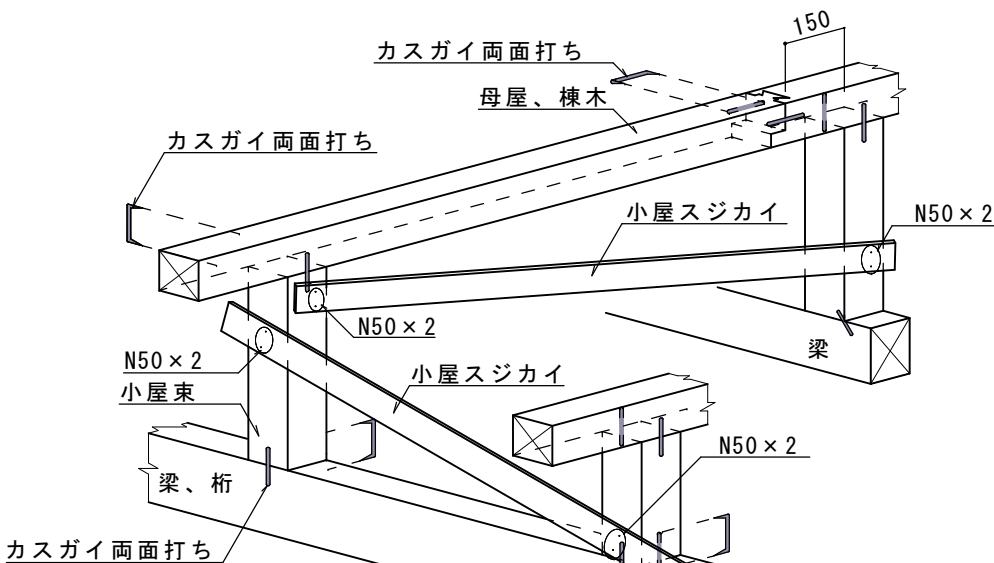
A：小屋束

- ①材種：米松KD材、又は集成材(JAS適合品)とする。
- ②断面寸法：105mm×105mm以上とする。
- ③カスガイ：原則両面打ち、又は柱金物留めとする。



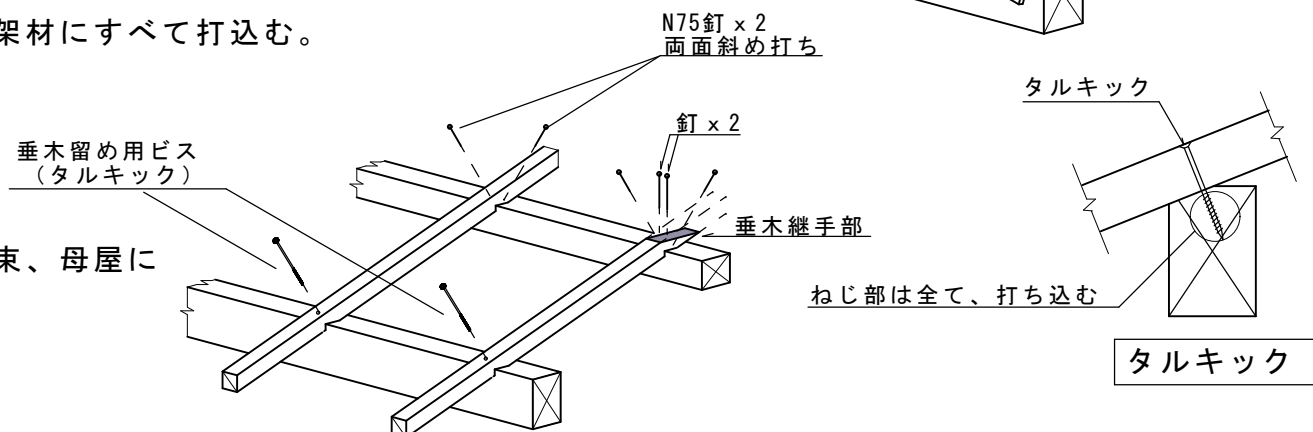
B：母屋、棟木

- ①材種：米松KD材、又は集成材(JAS適合品)とする。
- ②断面寸法：105mm×105mm以上とする。
- ③継手仕様：束より150mm程度持ち出し、腰掛鎌継又は腰掛蟻継とし、両面カスガイ打ちとする。



C：垂木

- ①断面寸法：45mm×60mm以上とし、荷重、軒の出等により特記する。
- ②継手仕様：乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし釘2本打ちとする。
- ③留め付け：軒先以外の留め付けはN75釘で側面2本斜め打ちとする。
- ④軒先金物：軒先部(片流れ上端部)の留め付けは、タルキック又は同等性能以上のものを用いて、全ての垂木を留め付ける。タルキックを使用する場合はネジ部を横架材にすべて打込む。

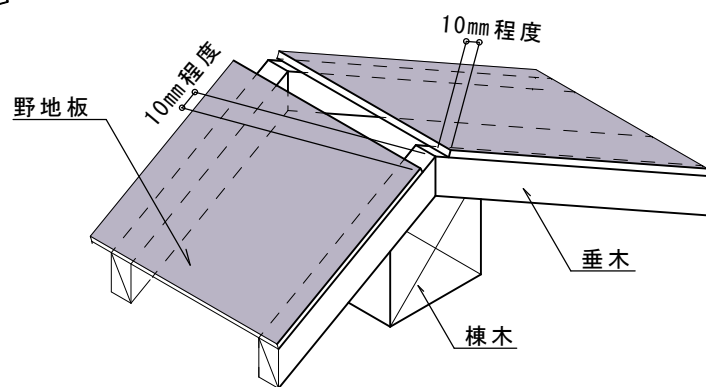


D：小屋スジカイ

- ①断面寸法：断面寸法は12mm×90mm以上とする。
- ②留め付け：梁行方向、桁行方向にバランスよく取付、束、母屋にN50釘2本打ちとする。

E：野地板

- ①特記なき限り、厚さ12mm以上の構造用合板(JAS適合品)とする。
- ②割り付けは垂木と直交するように千鳥に割り付け、N50釘を150mmピッチで打ち付ける。
- ③棟換気がある場合は棟部合板を10mm+10mm=20mm程度開ける。



木造住宅工事 標準施工手引書

3 軸組工事

Ⅶ：小屋組

A：小屋束

- ①材種
- ②断面寸法
- ③カスガイ両面打ち

B：母屋、棟木

- ①材種
- ②断面寸法
- ③継手仕様

C：垂木

- ①断面寸法
- ②継手仕様
- ③留め付け
- ④軒先金物

D：小屋スジカイ、振れ止め

- ①断面寸法
- ②留め付け

E：野地板

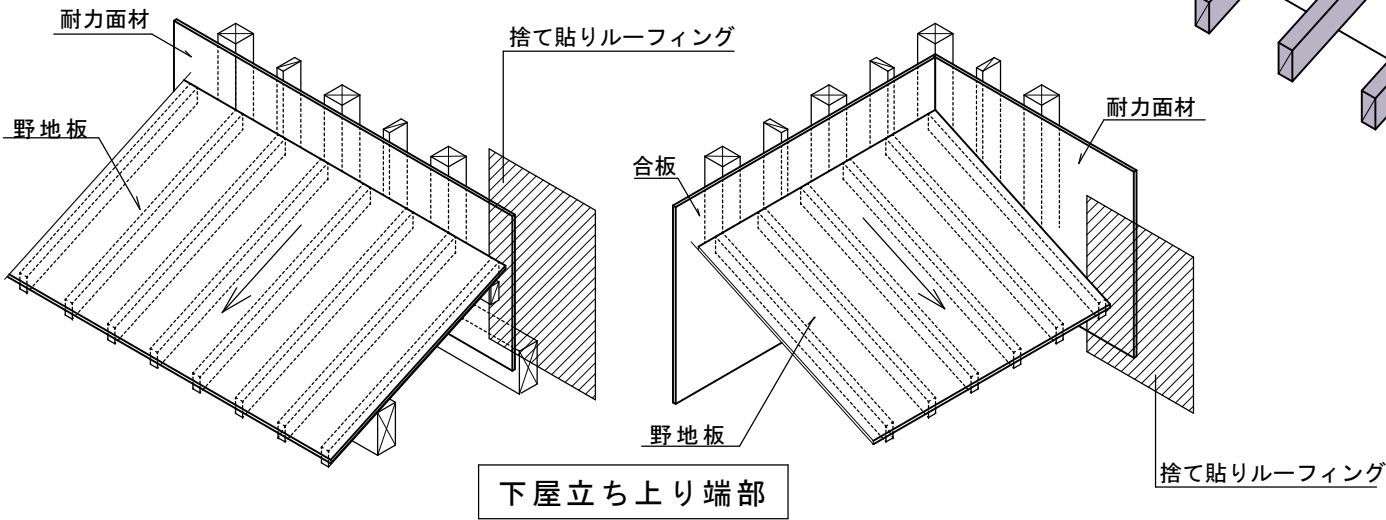
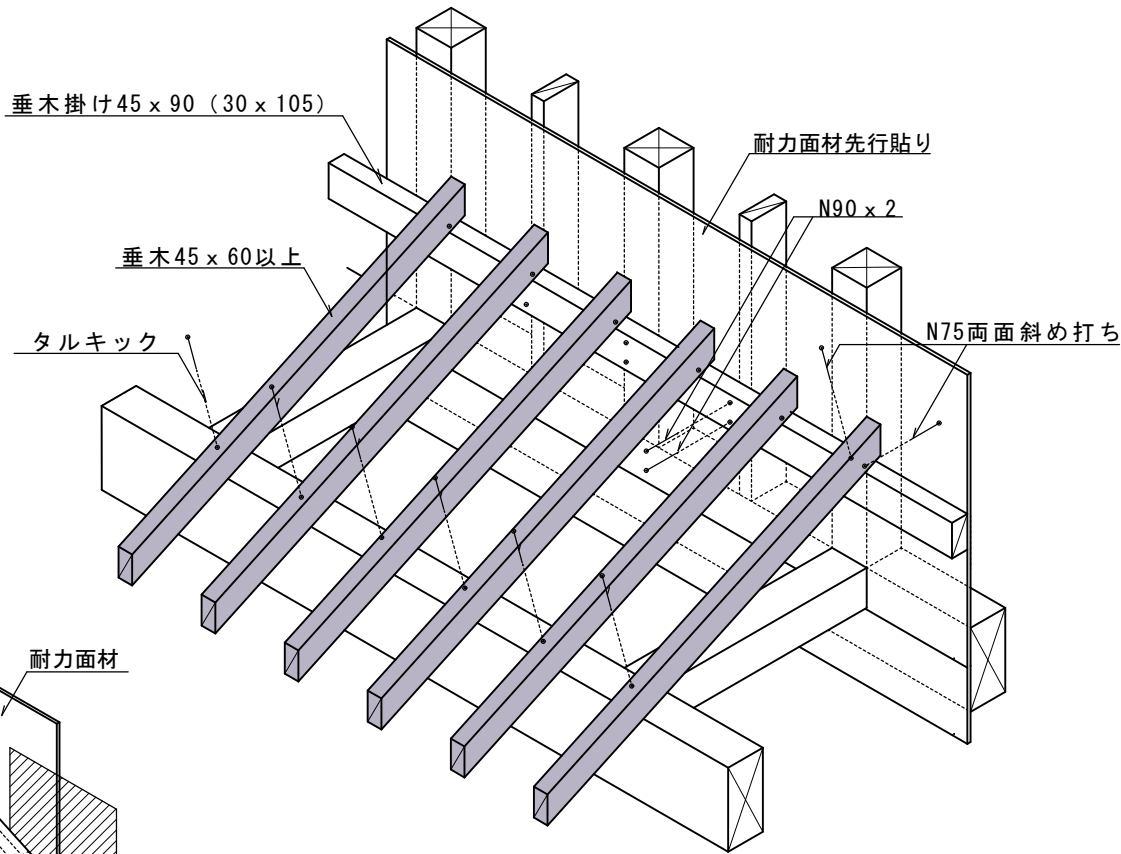
- ①構造用合板
- ②留め付け
- ③棟換気

Ⅷ：下屋、軒天

※各部材寸法は参考数値とし必要に応じた寸法材を使用すること。

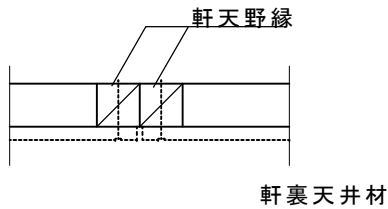
A：下屋廻り

- ①垂木掛け 45mm×90mm(30mm×105mm)を柱、間柱にN90釘 2本平打ちとする。
- ②垂木は 45mm×60mm以上とし垂木掛けに N75両面斜め打ちとする。
- ③垂木は軒先横架材に軒先金物留めとする。
- ④下屋廻り野地板合板は壁立ち上り端部に、ルーフィングの捨張りを差し込む。

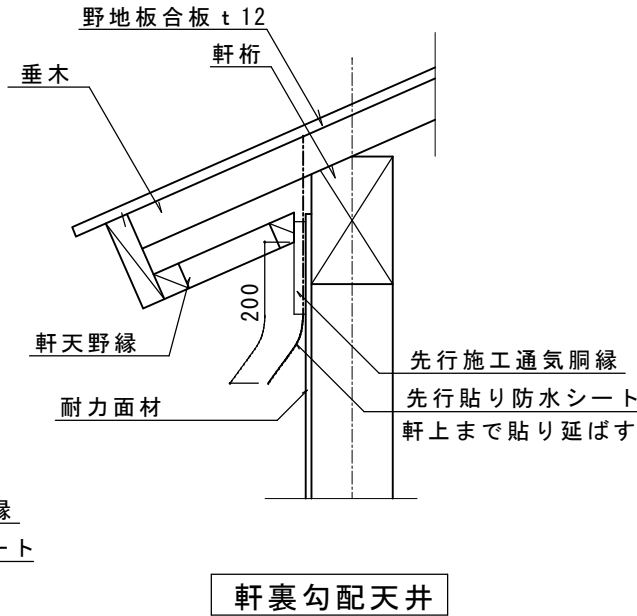
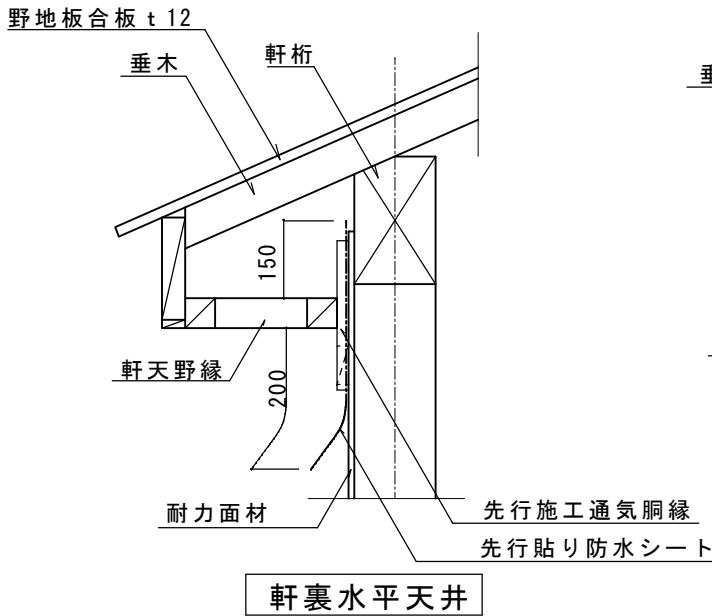


B：軒天廻り

- ①防水シート、通気胴縁を軒天上部へ 100mm以上、下部へ 200mm以上、先行留め付けを行う。
- ②天井野縁 @303mm程度で留め付ける。
ジョイント部分はビス(釘)のへり空きが確保できる下地材を使用する。



軒天材ジョイント部分



作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

Ⅸ：バルコニー

A：バルコニー詳細（鋼板防水仕様）

①防水下地合板

- ・厚さ 12mm合板を 2枚張り（鋼板ジョイント部は1枚張り）とし、指示寸法に割り付ける。

②排水勾配

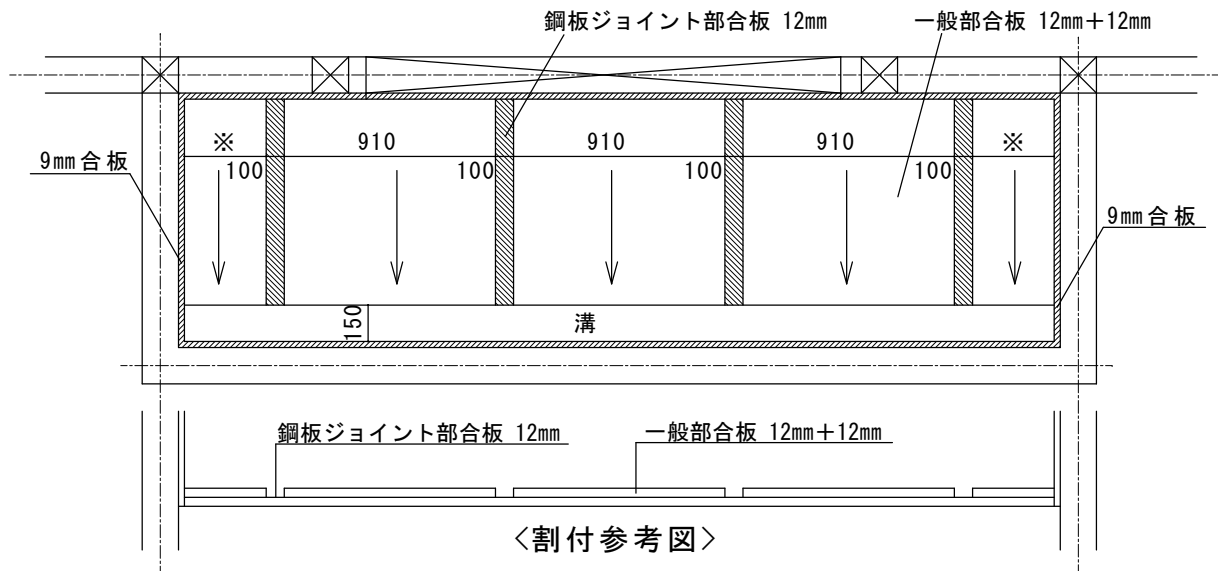
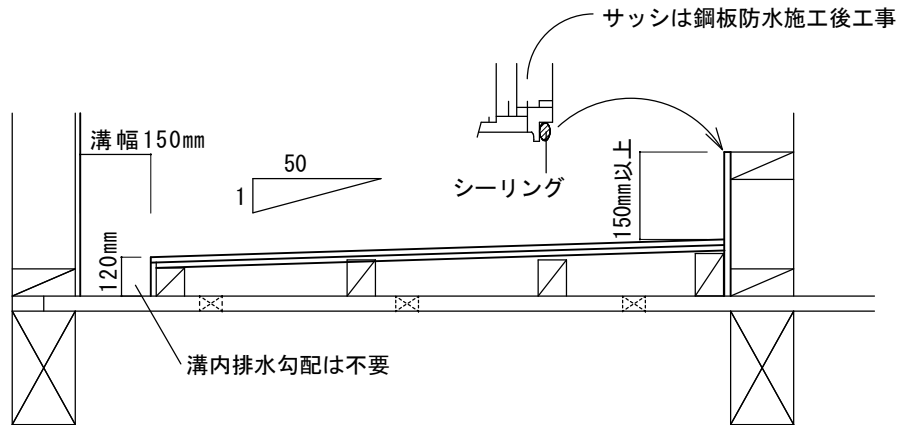
- ・床下地合板は 1/50の勾配とし、溝部分に排水勾配はとらない。

③防水層下地高さ

- ・サッシ下部立上りは 150mm以上とし、溝幅は合板巾 150mm、溝深さ 120mm 以上とする。

④サッシ取り付け

- ・アルミサッシは鋼板バルコニー施工後取付とし取り合い部にコーキングを施工し取り付ける。
- ・サッシ取付後、ビス打ちを行う場合はビス頭にコーキング処理を行う。



※現場によりジョイント割付位置は担当者の指示を受けること

※バルコニー床：自治体によりモルタル等、不燃材による仕上げが必要な場合があるので確認する事。

A：バルコニー詳細

①防水下地合板

②排水勾配

③防水層下地高さ

④手摺高さ

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			Style Design			

I-1：壁ボード下地

※省令準耐火仕様の場合は、特記仕様書により施工する。

A：下地

①天井部、足元下地、PBビス留め下地を取り付ける。

②左右継手下地は間柱 45mm巾以上とする。

巾 45mm未満の下地にジョイントが来る場合は、
両側に 35mm幅以上の下地補強をする。

③内、外部で防火構造仕様が必要とされる外壁面
については梁下、妻壁までPBを張り上げる。



B：石膏ボード

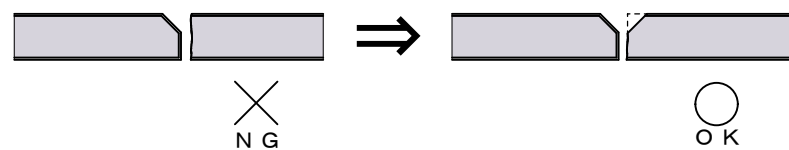
①石膏ボードは主に 厚み 12.5mm

寸法 910×1820(3'×6')又は910×2420(3'×8')を使用する。

②石膏ボードは不陸や目違いを生じない様に留め付ける。

③ボード周囲切断面にはヤスリ掛け、テーパ処理を施す。

④石膏ボードは原則として床から天井まで、1枚の
ボードで張り上げる。やむを得ず、途中で継ぐ場合は、
下地を取り付ける。



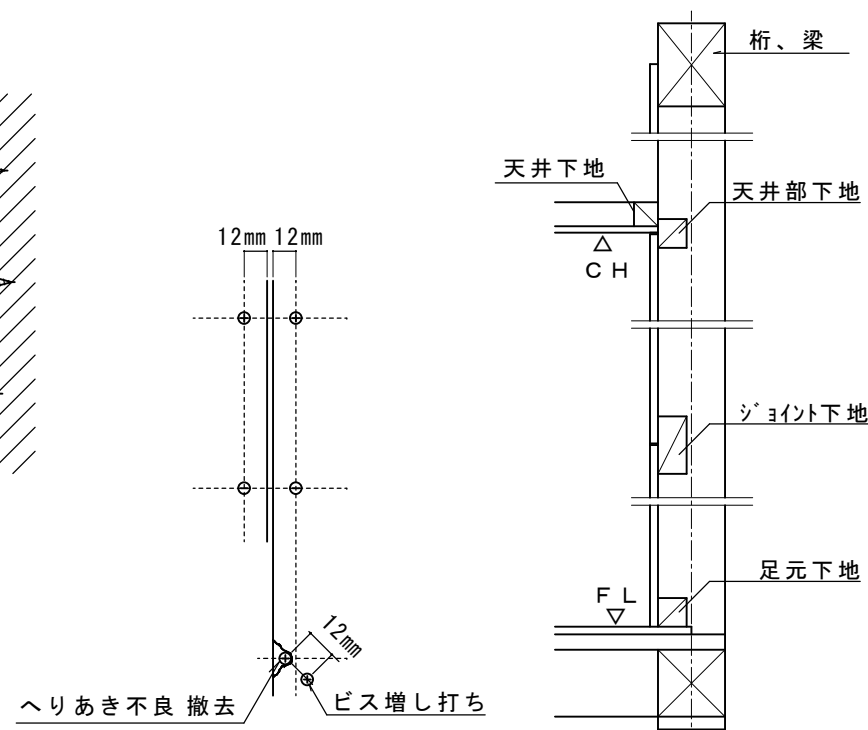
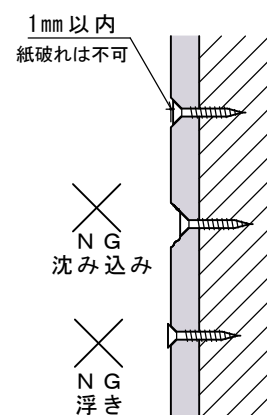
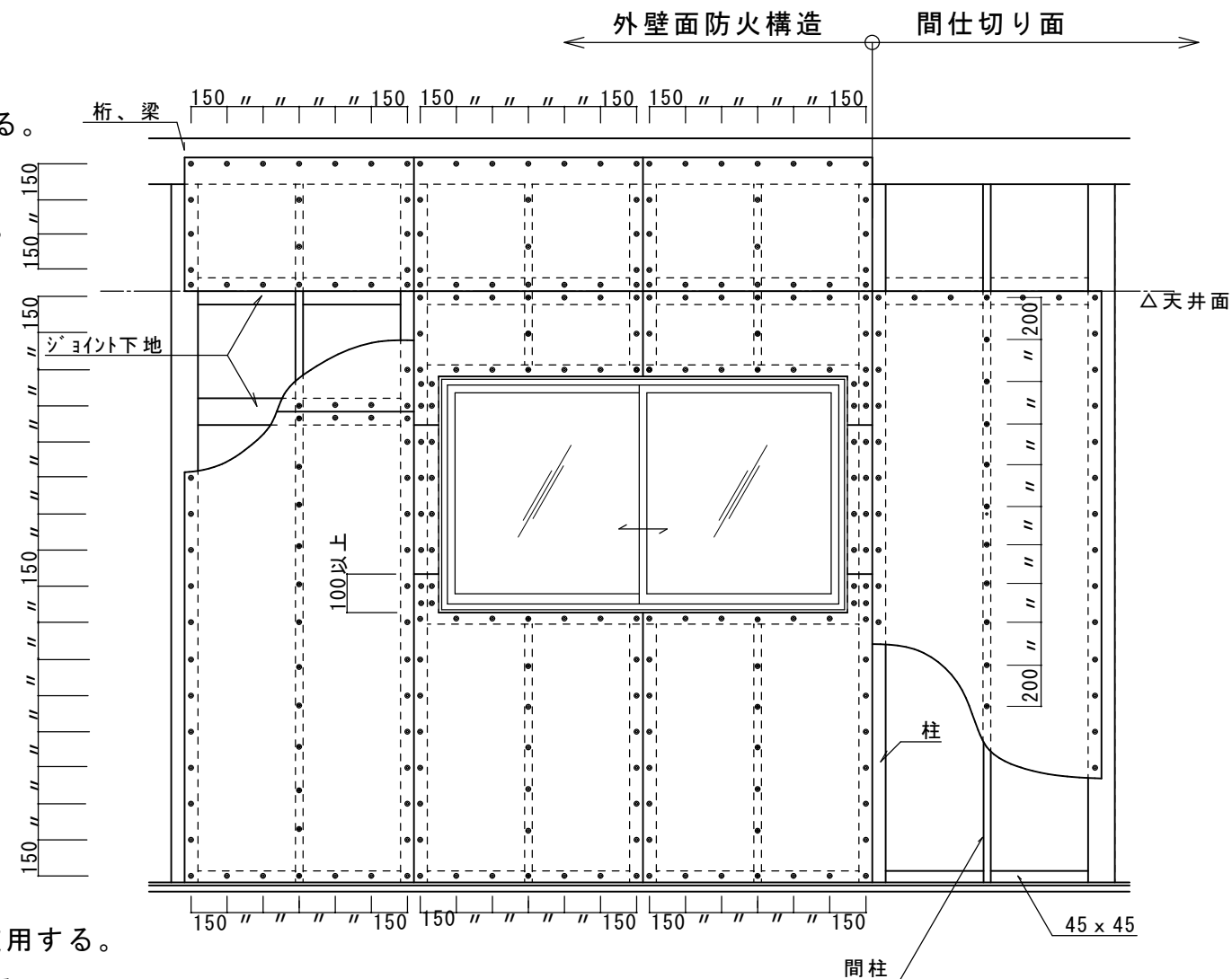
C：ビス留め

①ビス長さはL=28mm以上とする。

②壁PBのビスピッチは、外周部 @150mm程度、中通り部 @200mm程度とする。

③ビス取付位置はボード端部より 12mm以上残し、沈み込みに注意する。

④ボード端部の亀裂やボード表面紙の破れがある場合はビスを撤去し、
12mm以上の間隔を開けて、増し打ちする。



木造住宅工事 標準施工手引書

4 造作工事

I-1：壁ボード下地

A：下地

①留め付け

②ジョイント部下地

③防火構造

B：石膏ボード

①厚み、寸法

②留め付け

③切断面の処理

④継手部分

C：ビス留め

①ビス長さ

②ビスピッチ

③ビス取付位置

④ビス打ち込み状態

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

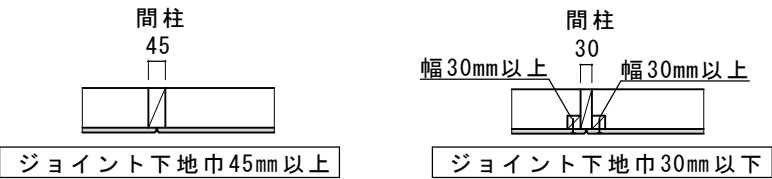
木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
Style Design			

NO	401

I -2：壁ボード下地（省令準耐火仕様）

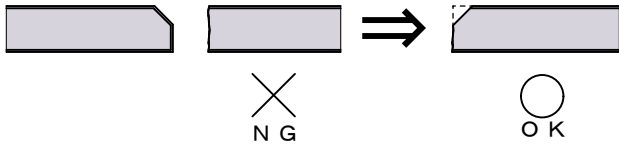
A：下地

- ①天井部、足元下地は30mm×38mm以上を取り付ける。
- ②左右継手下地は間柱 45mm巾以上とする。
巾 45mm未満の下地にジョイントが来る場合は、
両側に 30mm幅以上の下地補強をする。
- ③内、外部で防火構造仕様が必要とされる外壁面
梁下、妻壁までPBを立ち上げる。



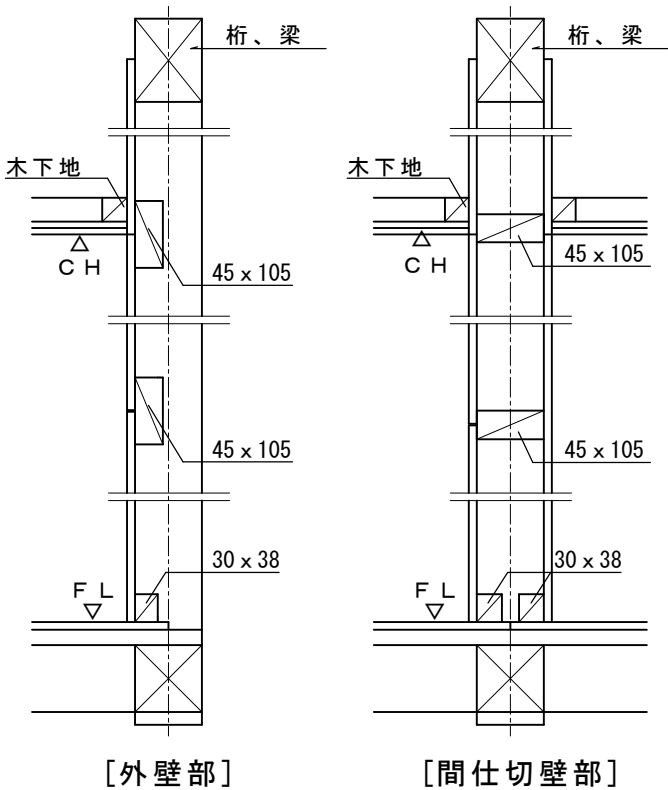
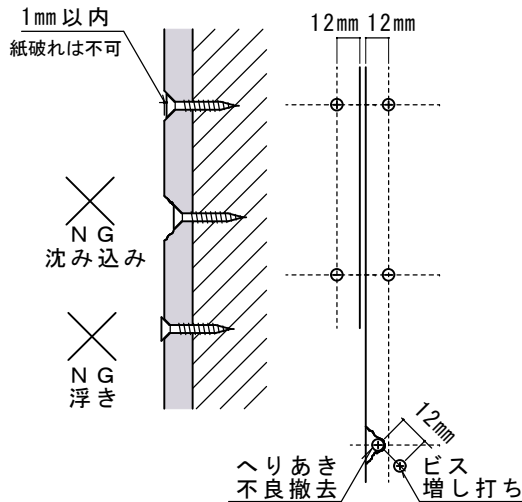
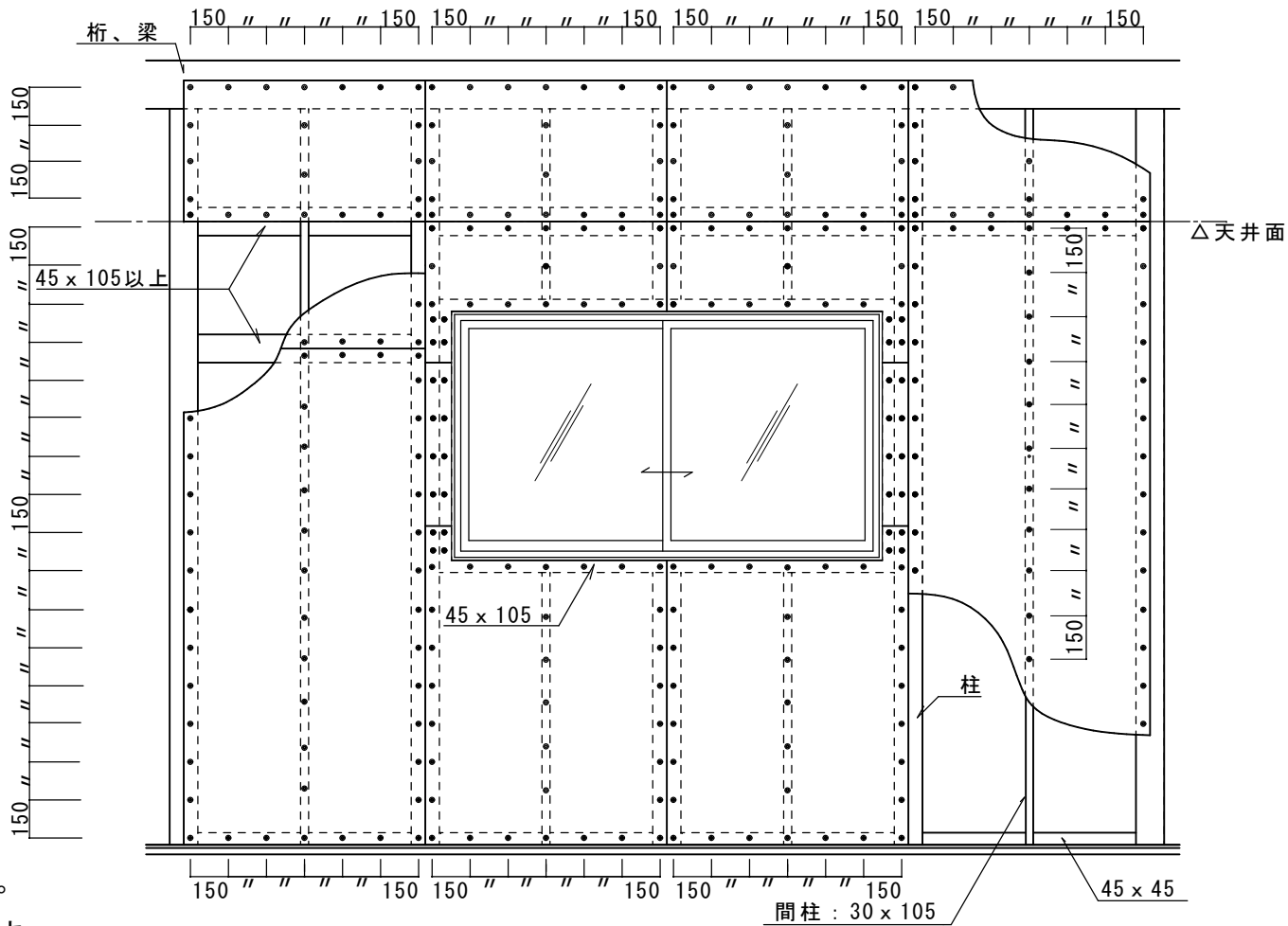
B：石膏ボード（12.5mm）[省令準耐火仕様]

- ①石膏ボードは主に 厚み 12.5mm
寸法 910×2420(3'×8')を使用する。
- ②石膏ボードは不陸や目違いを生じない様に留め付ける。
- ③ボード周囲切断面にはヤスリ掛け、テーパ処理を施す。
- ④石膏ボードは原則として床から天井まで、1枚の
ボードで張り上げる。やむを得ず、途中で継ぐ場合は、
下地 45mm×105mm以上を取り付ける。



C：ビス留め

- ①ビス長さはL=28mm以上とする。
- ②壁PBのビスピッチは、外周部 @150mm以下、中間部 @150mm以下とする。
- ③ビス取付位置はボード端部より 12mm以上残し、沈み込みに注意する。
- ④ボード端部の亀裂やボード表面紙の破れがある場合はビスを撤去し、
12mm以上の間隔を開けて、増し打ちする。



4 造作工事

I -2：壁ボード下地（省令準耐火仕様）

A：下地

- ①留め付け
- ②ジョイント部下地
- ③防火構造

B：石膏ボード

- ①厚み、寸法
- ②留め付け
- ③切断面の処理
- ④継手部分

C：ビス留め

- ①ビス長さ
- ②ビスピッチ
- ③ビス取付位置
- ④ビス打ち込み状態

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

承認	承認	承認

A：下地

- ①吊木
- ②野縁受
- ③野縁

B：石膏ボード

- ①石膏ボード
- ②配置
- ③留め付け
- ④切断面の処理

C：ビス留め

- ①ビス長さ
- ②ビスピッチ
- ③ビス取付位置
- ④ビス打ち込み状態

Ⅱ-1：天井ボード下地

※省令準耐火仕様の場合は、特記仕様書により施工する。

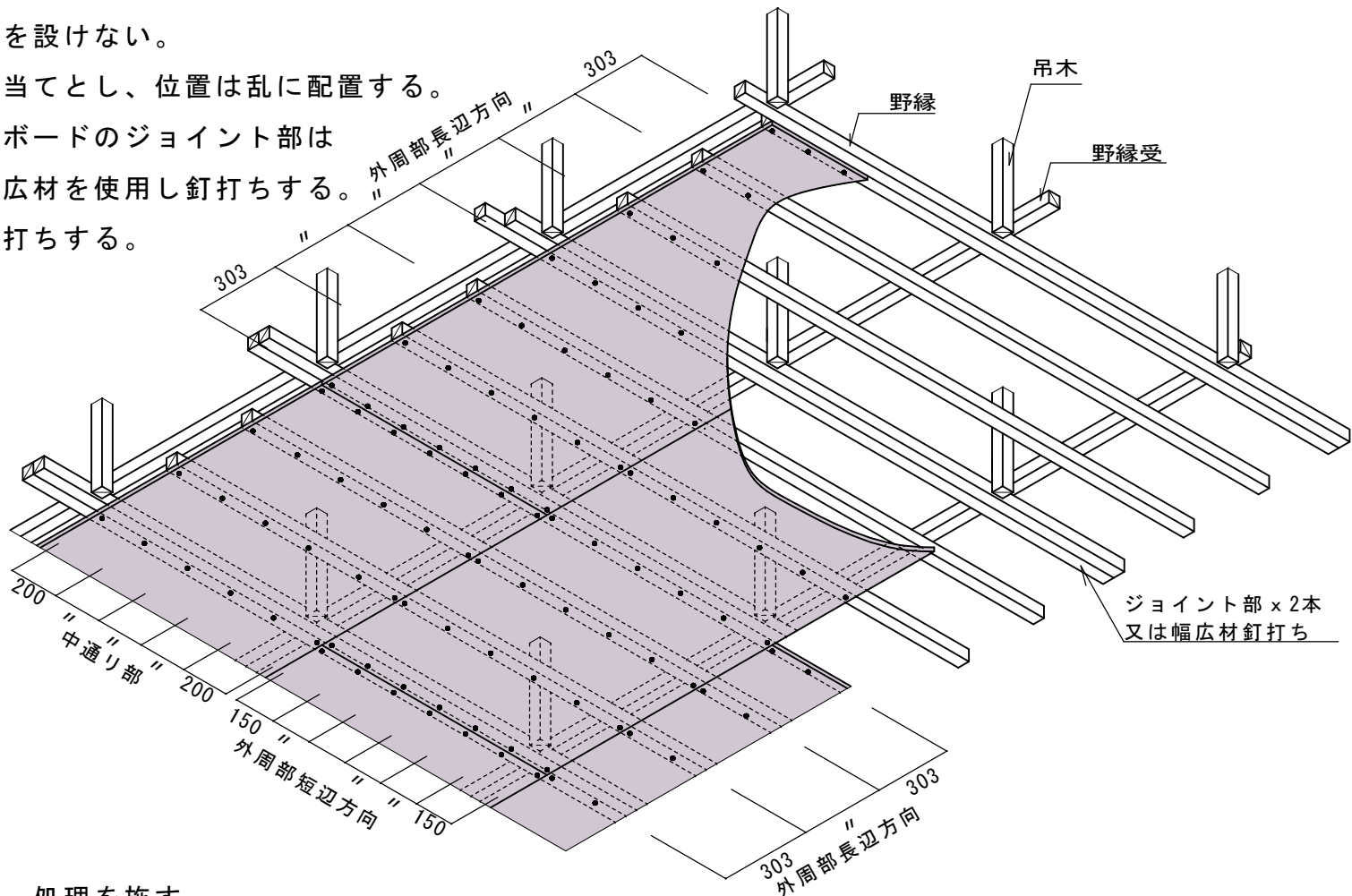
A：下地

- ①吊木：吊木ピッチは 910mm程度とし、野縁と野縁受の交差部に取り付ける。
- ②野縁受：野縁受ピッチは 910mm程度とし、所定のむくりを設ける。
- ③野縁：野縁、野縁受には原則として継手を設けない。

やむを得ず設ける場合には添え木当てとし、位置は乱に配置する。

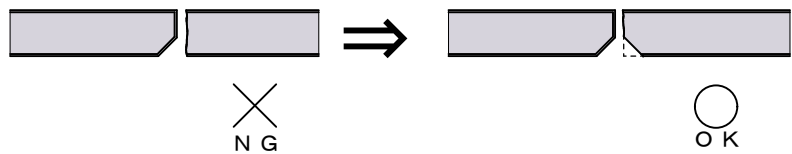
野縁のピッチは 303mm程度とし、ボードのジョイント部は野縁流れ方向に 2本重ね、又は幅広材を使用し釘打ちする。

際野縁は柱、間柱に添え付け、釘打ちする。



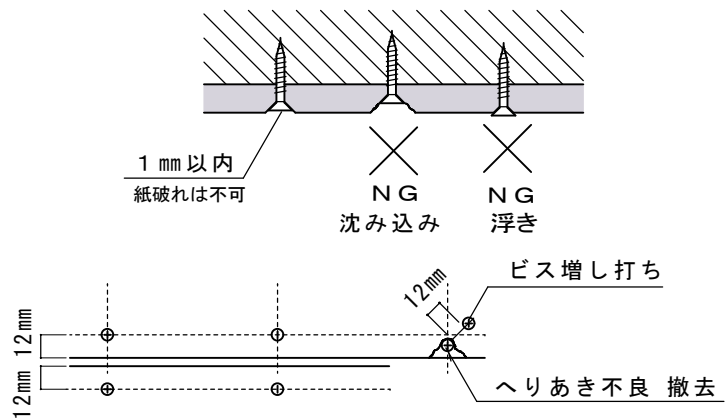
B：石膏ボード

- ①石膏ボードは厚み 12.5mmを使用する。
- ②石膏ボード長手は野縁と直交するように配置し乱に張り付ける。
- ③留め付け：石膏ボードは不陸や目違いを生じないように留め付ける。
- ④ボード周囲切断面にはヤスリ掛け、テーパ処理を施す。



C：ビス留め

- ①ビス長さはL=28mm以上とする。
- ②天井PBのビスピッチは、外周部短辺方向 @150mm程度、長辺方向 @303mm程度 中通り部 @200mm程度とする。
- ③ビス取付位置はボード端部より 12mm以上残し、沈み込みに注意する。
- ④ボード端部の亀裂やボード表面紙の破れがある場合はビスを撤去し、12mm以上の間隔を開けて、増し打ちする。



作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

Ⅱ-2：天井ボード下地（省令準耐火仕様）

A：下地

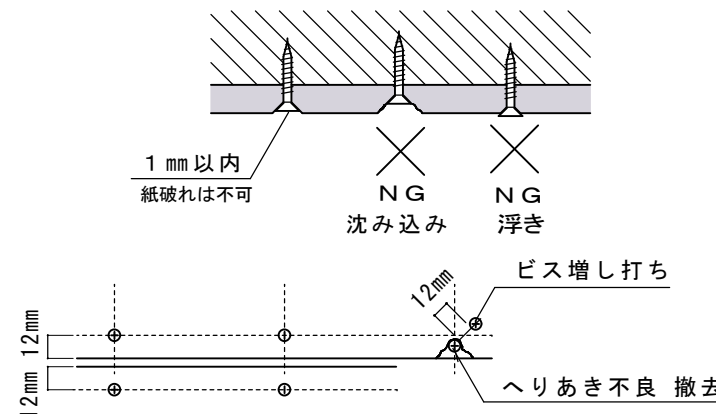
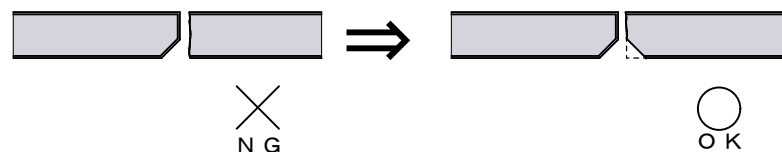
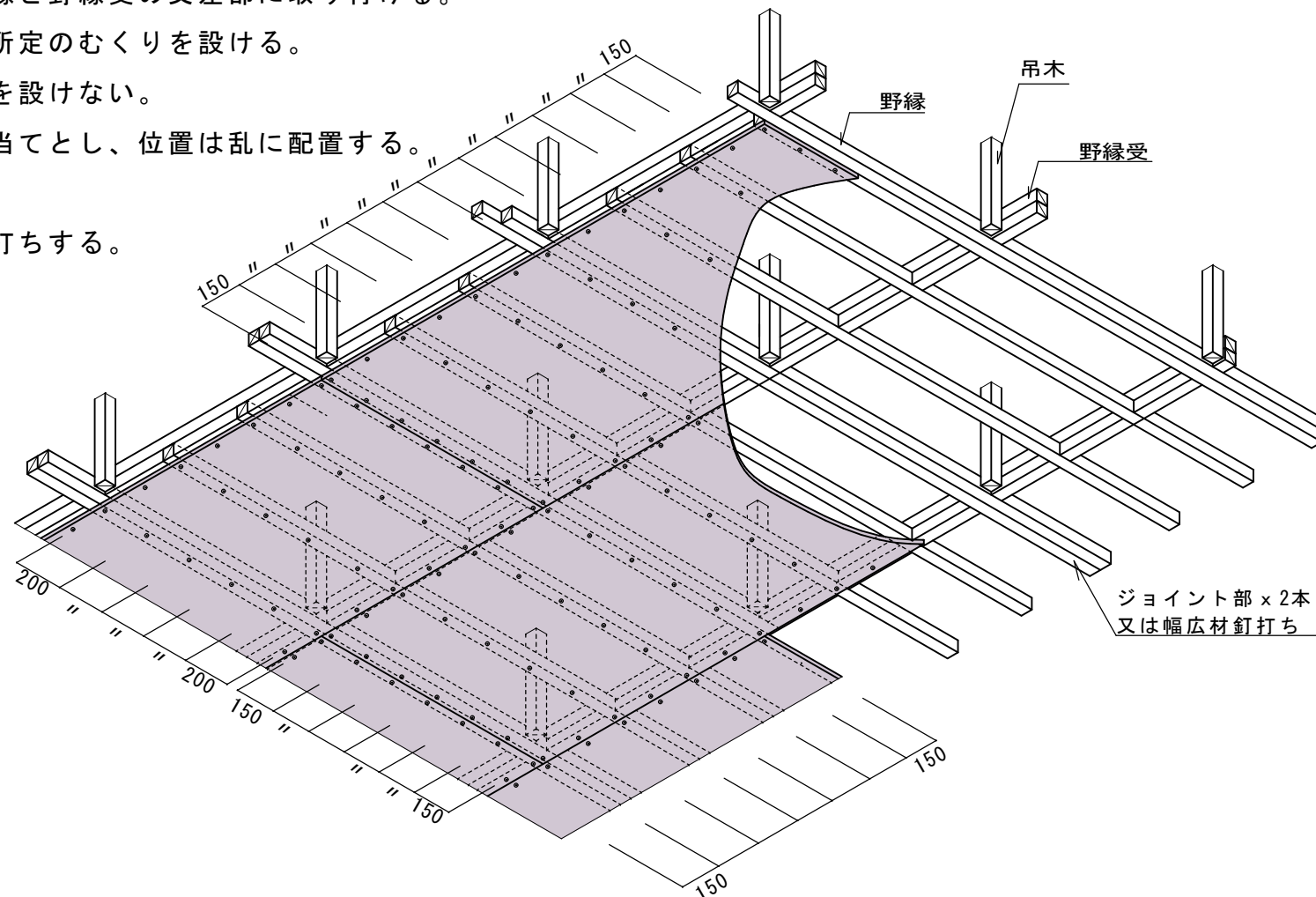
- ①吊木：吊木ピッチは 910mm程度とし、野縁と野縁受の交差部に取り付ける。
- ②野縁受：野縁受ピッチは 910mm程度とし、所定のむくりを設ける。
- ③野縁：野縁、野縁受には原則として継手を設けない。
やむを得ず設ける場合には添え木当てとし、位置は乱に配置する。
野縁のピッチは 303mm程度とする。
際野縁は柱、間柱に添え付け、釘打ちする。

B：石膏ボード

- ①省令準耐火仕様で上階に部屋のある場合：
強化石膏ボード 厚み 12.5mmを使用し
天井下地材裏面にグラスウール厚さ90mm
を隙間なく敷設する。
省令準耐火仕様で上階に部屋のない場合：
石膏ボード 厚み 12.5mmを使用する。
- ②石膏ボード長手は野縁と直交
するように配置し乱に張り付ける。
- ③留め付け：石膏ボードは不陸や
目違いを生じないように留め付ける。
- ④ボード周囲切断面にはヤスリ掛け、テーパー処理を施す。

C：ビス留め

- ①ビス長さはL＝32mm以上とする。
- ②天井PBのビスピッチは、外周部 @150mm以下、中央部 @200mm以下とする。
- ③ビス取付位置はボード端部より 12mm以上残し、沈み込みに注意する。
- ④ボード端部の亀裂やボード表面紙の破れがある場合はビスを撤去し、
12mm以上の間隔を開けて、増し打ちする。



A：下地

- ①吊木
- ②野縁受
- ③野縁

B：石膏ボード

- ①石膏ボード種類 厚み
- ②配置
- ③留め付け
- ④切断面の処理

C：ビス留め

- ①ビス長さ
- ②ビスピッチ
- ③ビス取付位置
- ④ビス打ち込み状態

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			Style Design			

A：階段手摺高さ

①手摺下地補強

②手摺壁

B：棚高さ

・クロゼット棚

・押入中段、枕棚

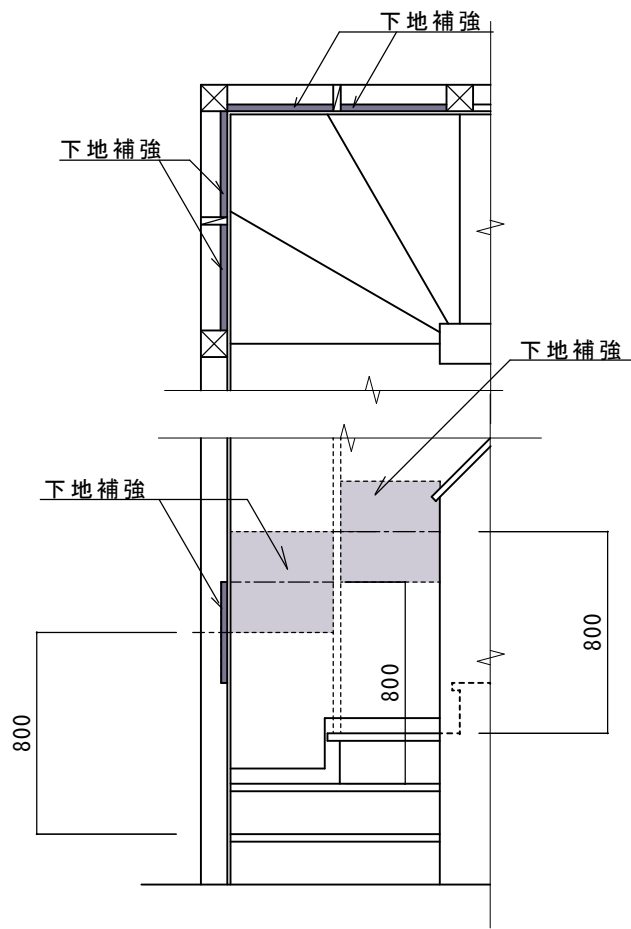
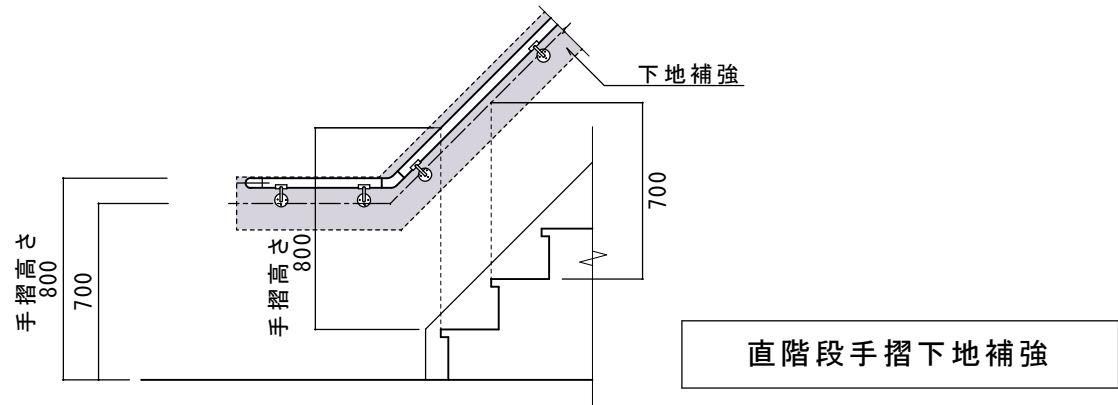
Ⅲ：手摺高さ、棚高さ、下地（参考）

※下記各寸法数値については参考値とし、都度確認するものとする。

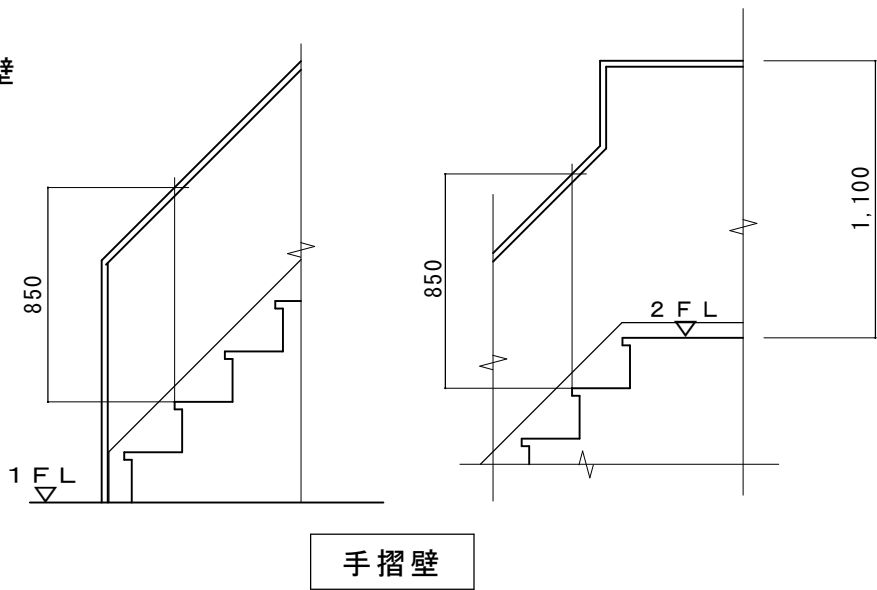
A：階段手摺高さ

①手摺下地補強

- ・直階段：階段鼻先から H=700mmを中心 to 上下範囲に下地補強を取り付ける。
- ・廻り階段：階段踏板から H=800mmを中心 to 上下範囲に下地補強を取り付ける。

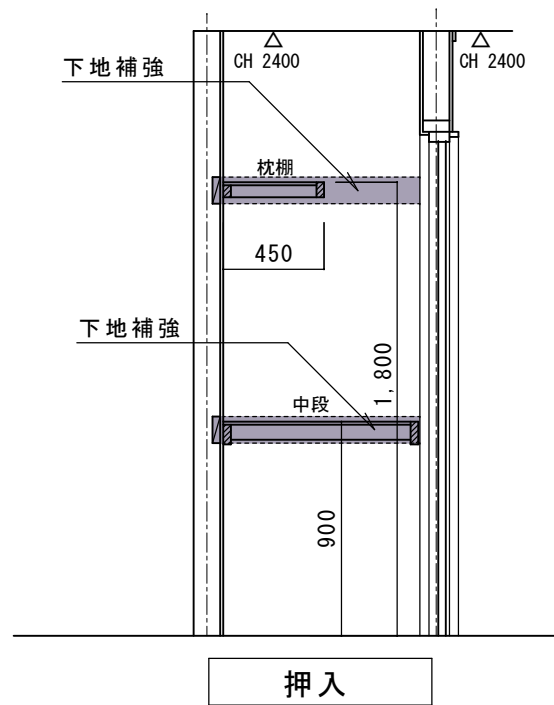
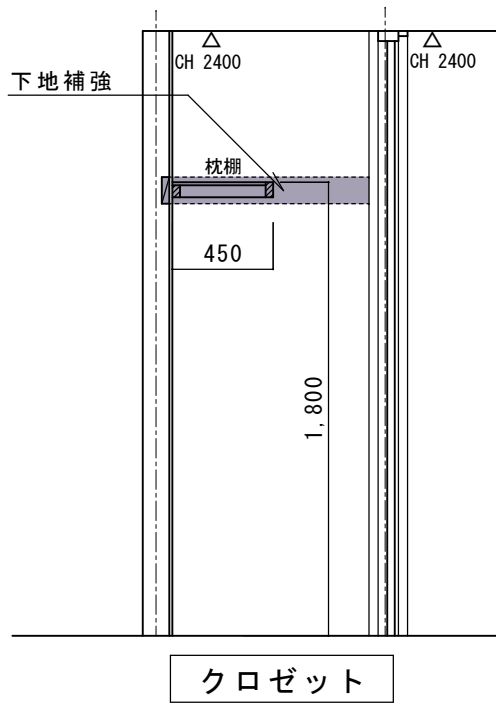


②手摺壁



B：棚高さ

- ・棚取付側面、背面には下地補強を取付ける。

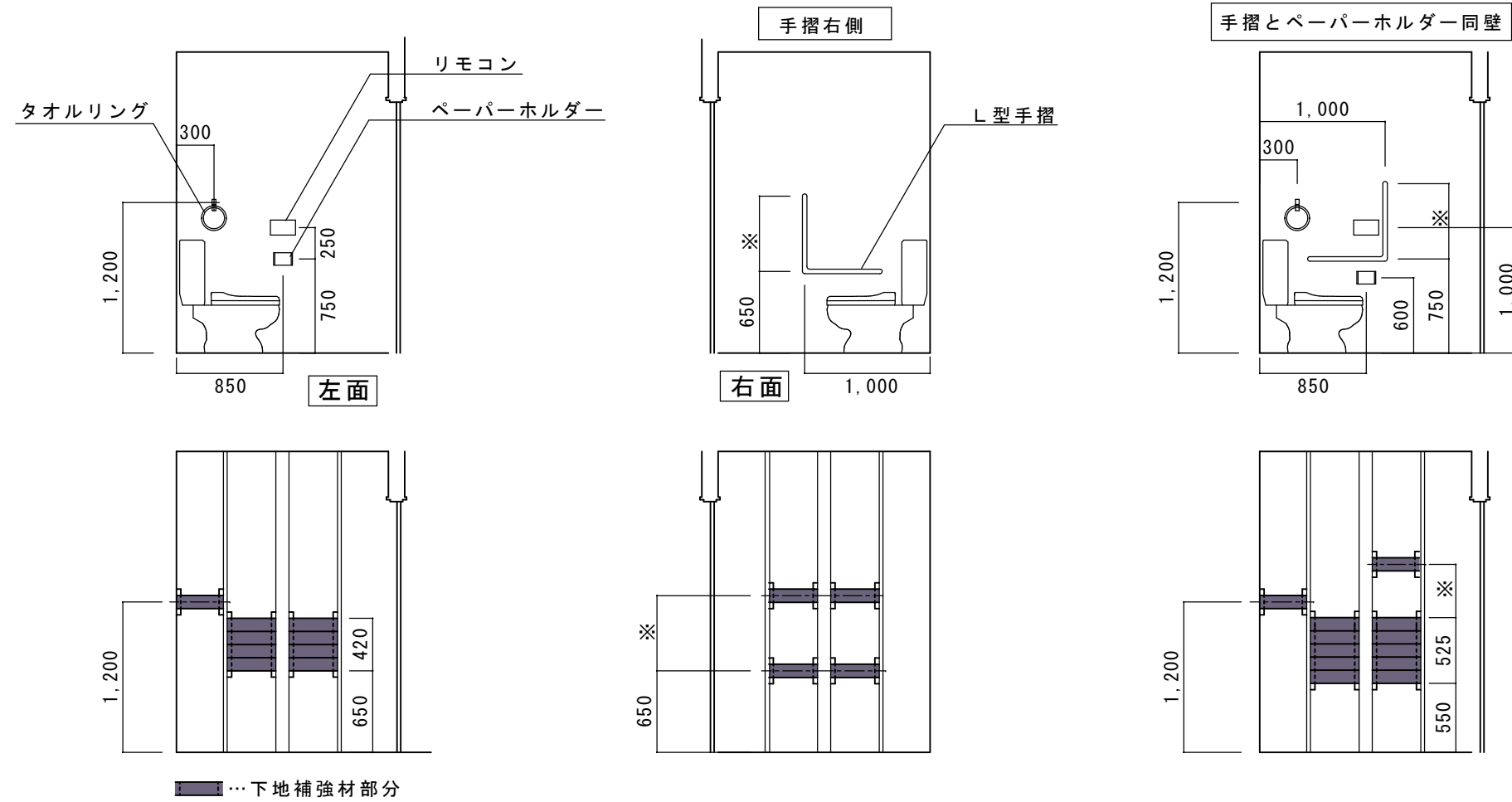


IV：設備機器取付補強下地（参考）

※下記各寸法数値については参考値とし、都度確認するものとする。

A : トイレ廻り備品下地

- ・トイレ廻り備品取付部には、下図を参考に補強用下地材の取付を行う。



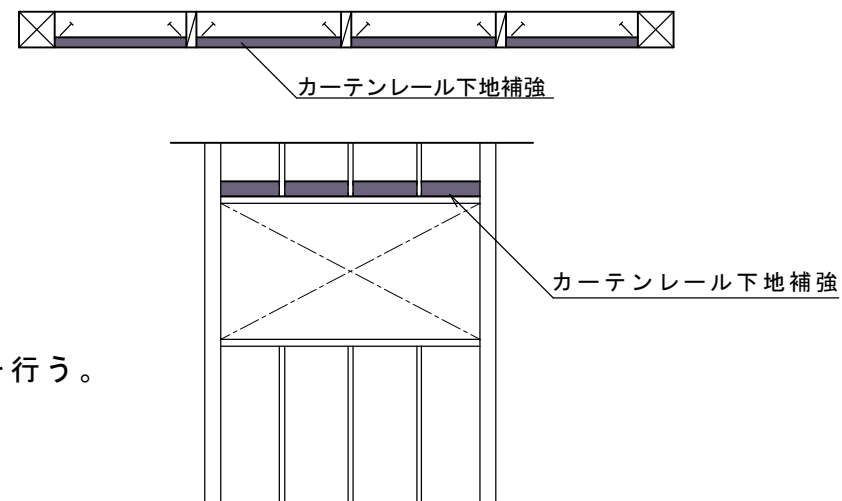
B : カーテンレール下地

- ・カーテンレール取付部には補強用下地材の取付を行う。

C : その他

- ・ 流し台、及び吊戸棚
- ・ 洗面化粧台
- ・ 玄関収納庫

— 各機器寸法、及び補強寸法確認の上、下地材の取付を行う。



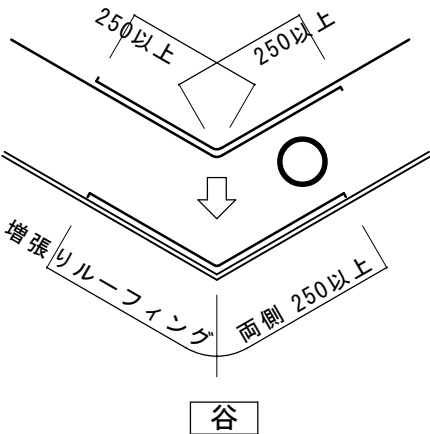
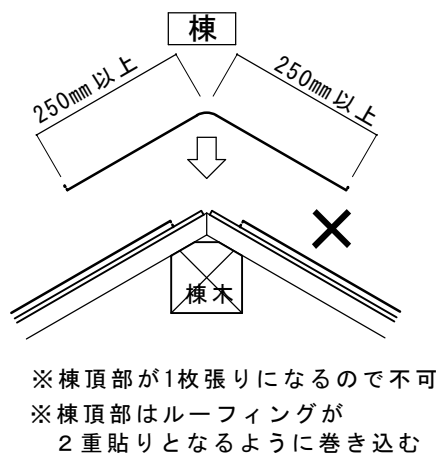
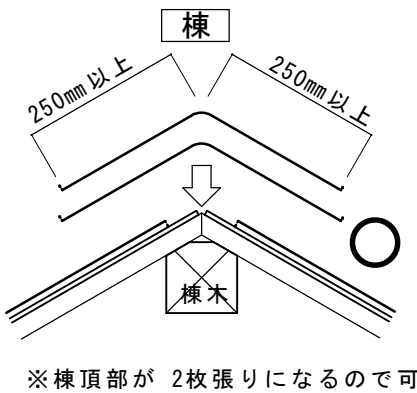
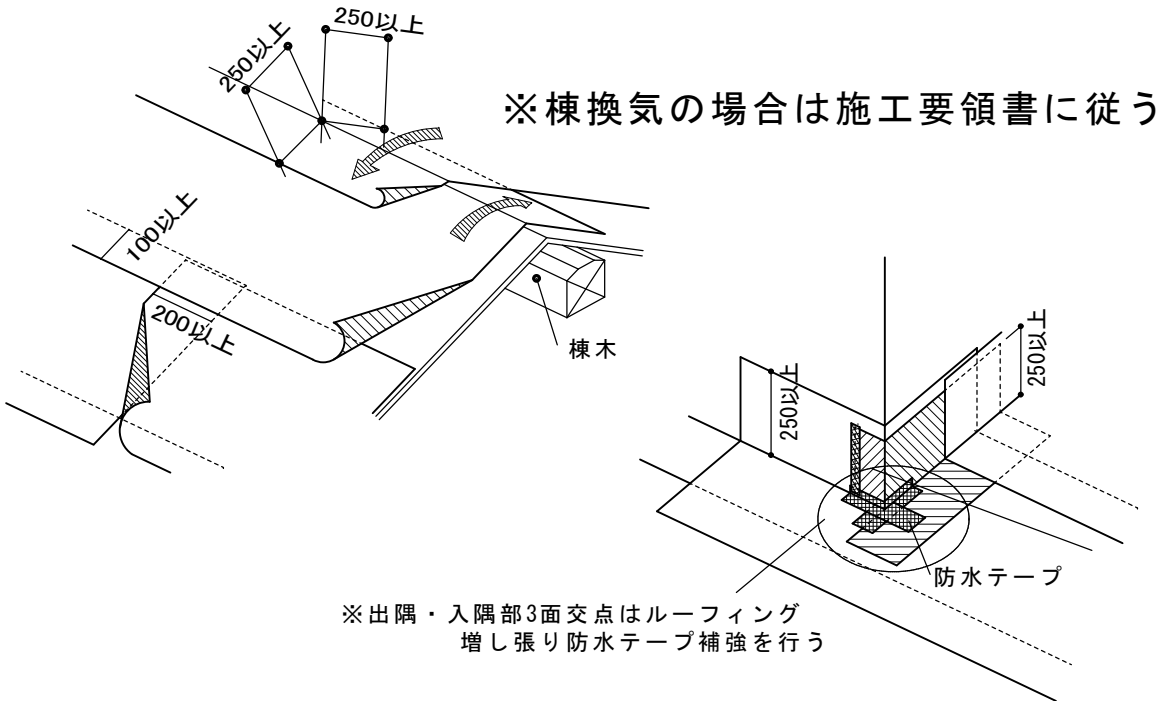
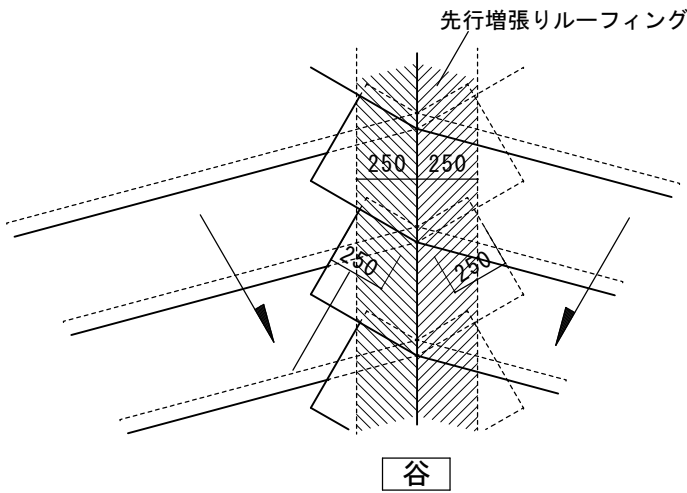
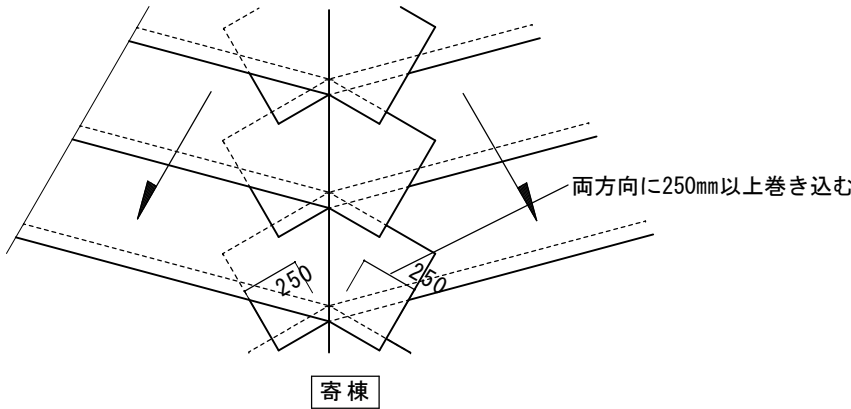
I：屋根ルーフィング

A：材種

- ・下ぶき材はアスファルトルーフィング 940又はこれと同等以上の防水性能を有するものとする。

B：重ね合わせ

- ①流れ方向上下は 100mm以上重ね合わせる。
- ②流れ方向左右は 200mm以上重ね合わせる。
- ③棟頂部・寄棟頂部は両方向へそれぞれ 250mm以上巻き込む。
- ④谷底部は増張りルーフィングを両方向へそれぞれ 250mm以上かつ下ぶきルーフィングをそれぞれ 250mm以上巻き上げる。
- ⑤壁面部の巻き上げ高さは 250mm以上かつ雨押さえ上端より50mm以上とする。



A：材種

- ・アスファルトルーフィング940

B：重ね合わせ

- ①流れ方向上下
- ②流れ方向左右
- ③棟頂部・寄棟頂部
- ④谷底部
- ⑤壁面部

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

承認	承認	承認

C：下屋回り

- ①立上りルーフィングの巻き上げ
- ②捨て貼りルーフィングの施工

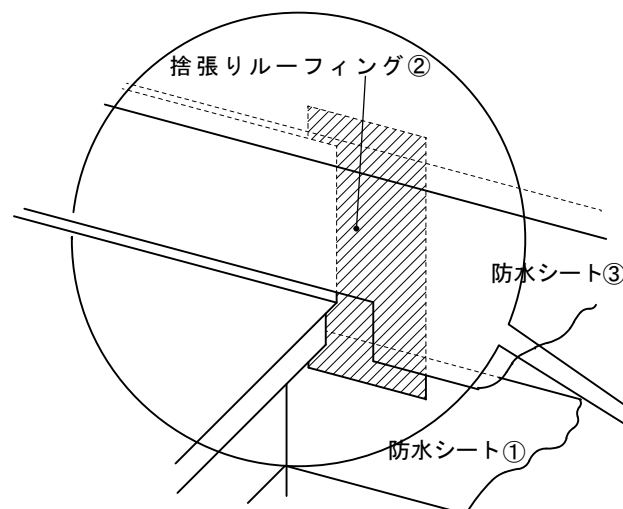
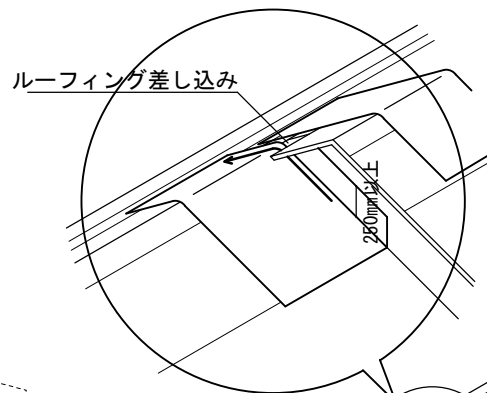
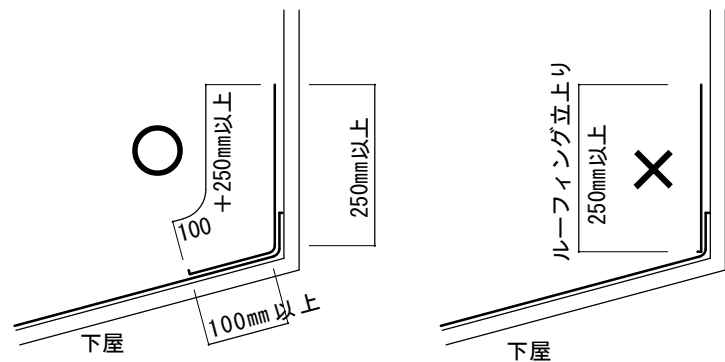
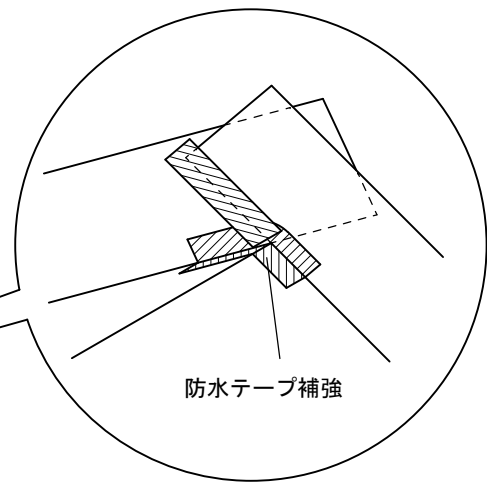
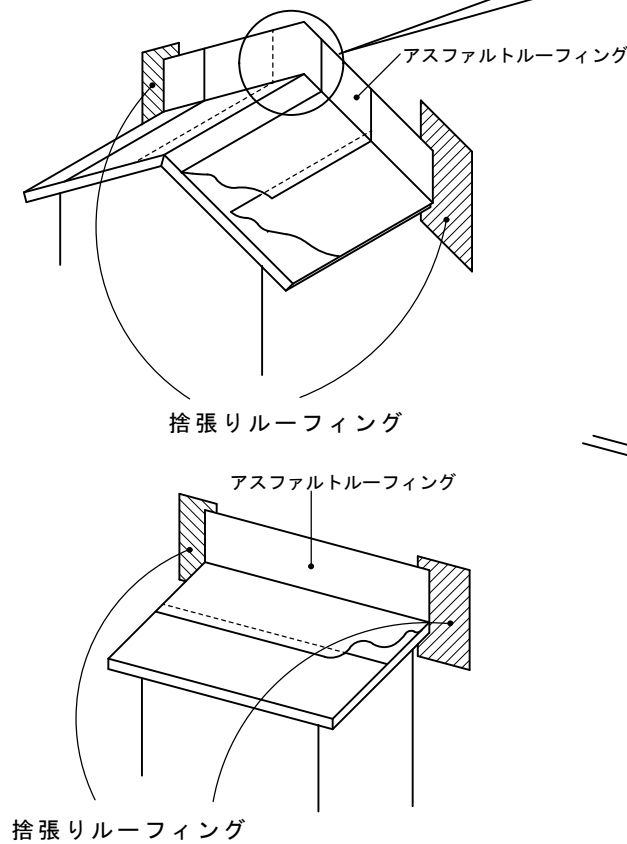
D：縦桟木の施工

- ①縦桟木（流水テープ）の施工
- ②排水桟木等の施工

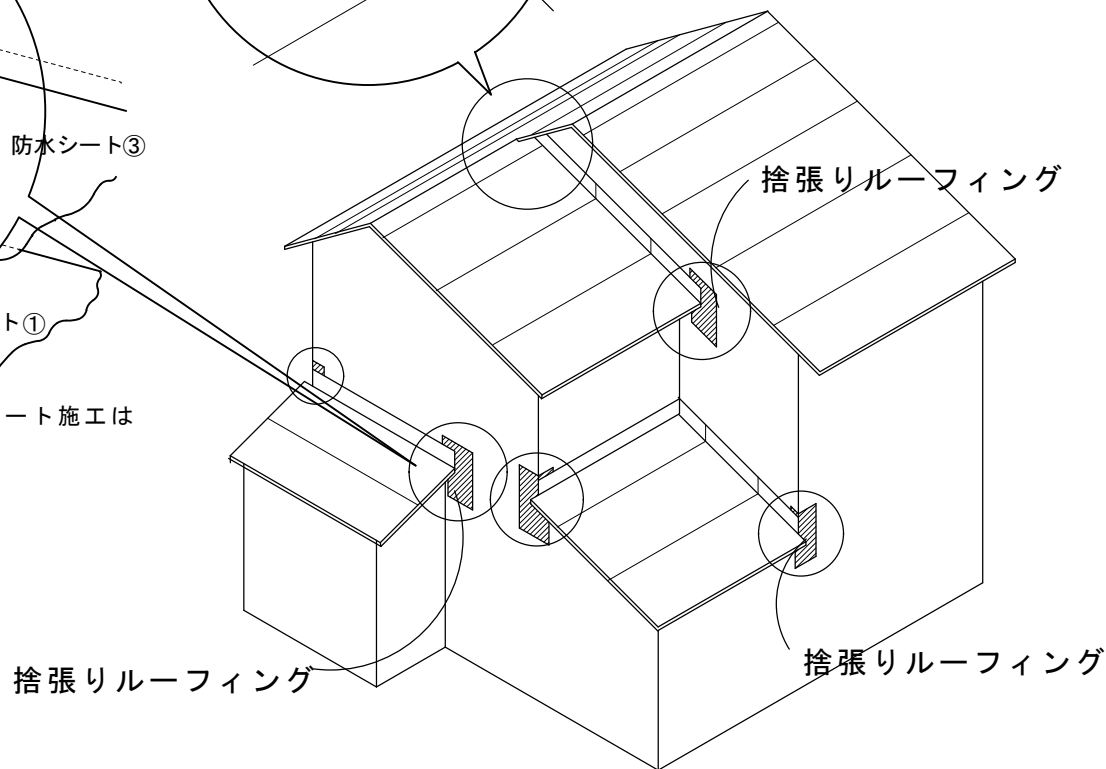
I：屋根ルーフィング

C：下屋回り

- ①立上りルーフィングの巻き上げ
 - ・立上りルーフィングは流れ方向に100mm以上重ね合せる。
- ②端部捨て張りルーフィングの施工

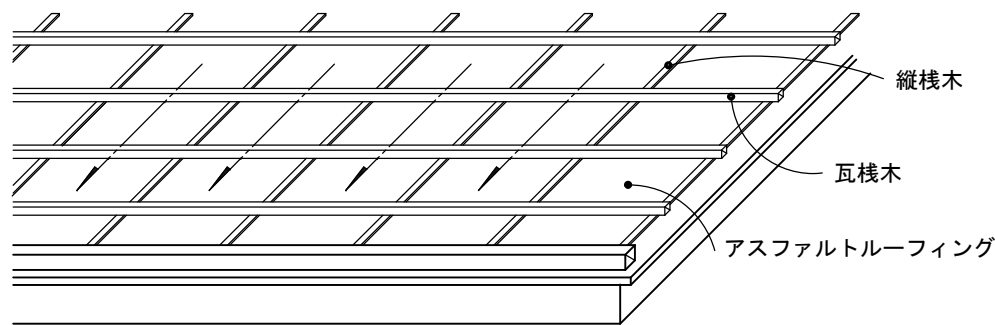
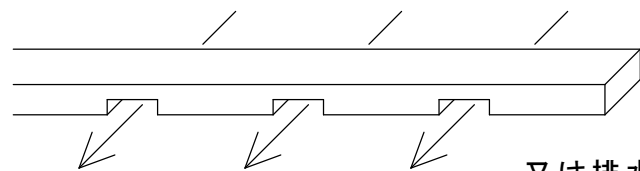


※ルーフィング捨て張り部分の防水シート施工は
①防水シート
②捨て張りルーフィング
③防水シート の順とする



D：縦桟木の施工

- ①瓦屋根桟木下には流れ方向に縦桟木（又は流水テープ）を取付け排水空間を設ける。
- ②縦桟木を施工しない場合は排水桟木等を使用し排水空間を設ける。



又は排水桟木

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書			承認	承認	承認
訂正日								
			S t y l e D e s i g n					

Ⅱ：バルコニー防水

A：防水層

①防水層 立上がり高さ

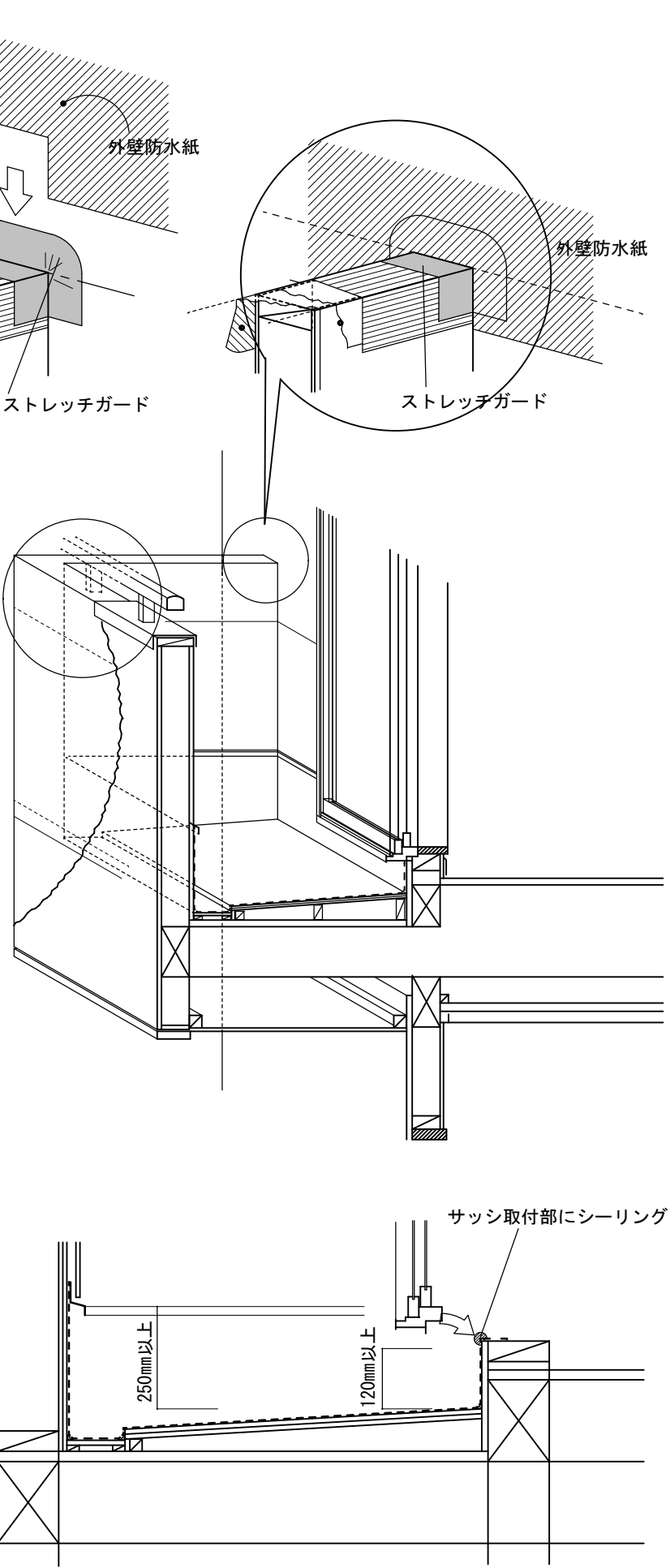
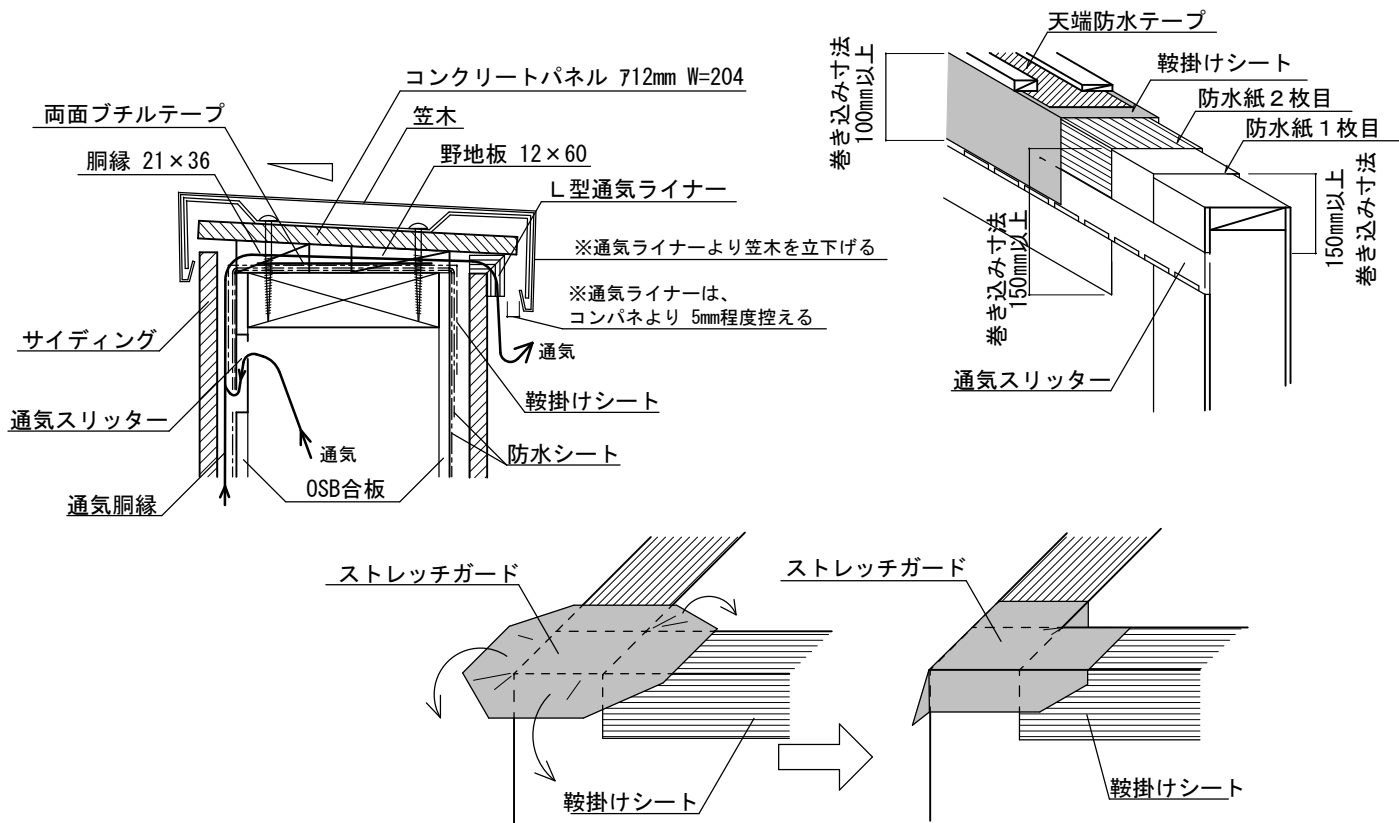
- ・ 開口部下 立上がり高さは 120mm 以上。
- ・ 一般部立上がり 高さは水上天より 250mm 以上。
- ・ アルミサッシと防水層の取り合い部分はシーリング処理を行う。

②手すり天端

- ・ 防水紙は手すり壁の上端部でそれぞれ 150mm 以上巻き込み、鞍かけシートを両側へ 100mm 以上かぶせる。
- ・ 笠木の固定金具は弾性系両面テープで防水紙と密着させる。
- ・ 手摺出隅、入隅の三面交点部分はストレッチガード、又は同等性能以上のものを用いて止水処理をする。
- ・ 手摺外部には通気スリッターを取付け、手摺内部の通気空間を確保する。
- ・ 手摺内部には L 型通気ライナーを取付け、通気層の通気空間を確保する。

③手すり外壁取り合い部

- ・ 天端巻き込み防水シートは壁部分に立ち上げ三面交点（ピンホール）を両面防水テープにより止水する。
- ・ 天端巻き込みシート上部に壁防水シートをかぶせ入り隅部分をストレッチガード、又は同等性能以上のもので処理をする。



木造住宅工事 標準施工手引書

5 防水・通気工事

Ⅱ：バルコニー防水

A：防水層

①防水層立上がり高さ

②手すり天端

③手すり外壁取り合い部

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
Style Design			

NO	503

A：防水紙

B：透湿防水シート

①重ね合わせ寸法

- ・上下方向 90mm 以上
- ・左右方向 150mm 以上
- ・出隅、入隅 100mm 以上

②防水シートの留め付け方法

- ・張り延ばし
- ・留め付けピッチ
- ・水切り、板金への留め付け
- ・穴あき補修

Ⅲ：乾式通気工法

A：防水紙

- ・通気工法とした場合の防水紙は透湿防水シート又は、これと同等以上のものとする。

B：透湿防水シート

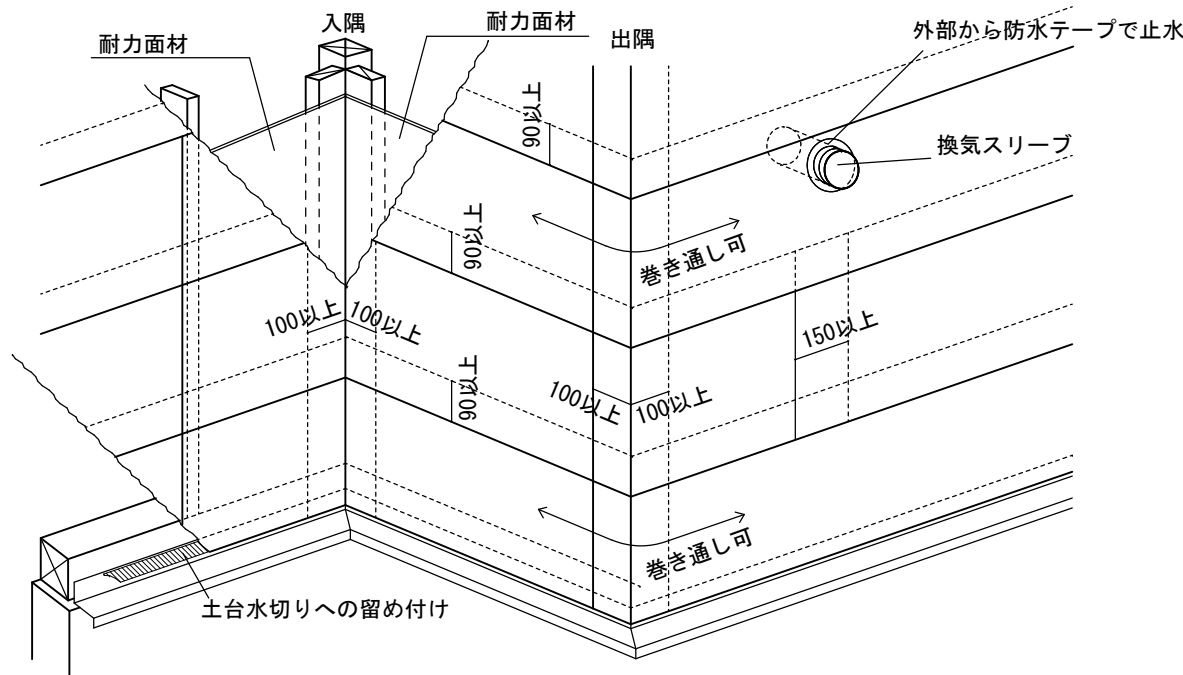
①重ね合わせ寸法

- ・上下 90mm 以上 左右 150mm 以上。
- ・出隅・入隅は両方向に 100mm（※1）以上。

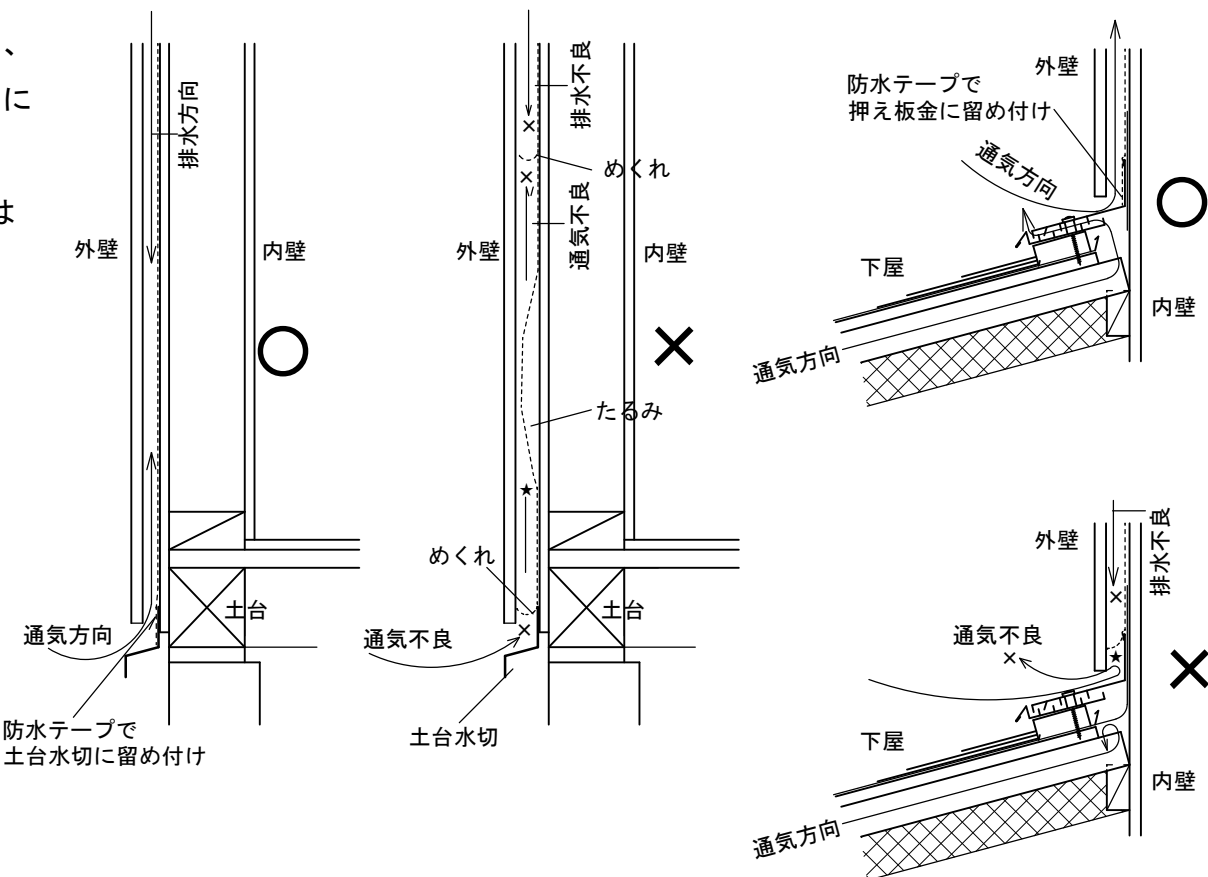
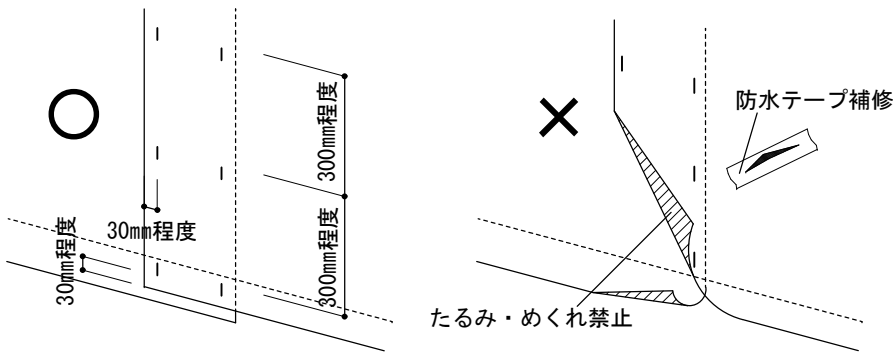
（※1その他メーカー指定寸法）

②防水シートの留め付け方法

- ・防水シートの留め付け時はしわやたるみめくれの無いように張り延ばし継目部分は 300mm 間隔で留め付ける。
- ・通気障害、排水障害が起きないように端部の留付けを確実に行う。（端部留め付け 30mm 程度）
- ・土台水切り、屋根押さえ板金への端部留め付けは通気障害、排水障害が起きないように防水テープによる留付けを確実に行う。
- ・破れ、穴あきが生じた場合には防水テープによる補修 又は防水シートの増張りを行う。



※透湿防水シートの施工は各メーカーの施工要領書に従う



作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書
Style Design

承認	承認	承認

NO	504

Ⅲ：乾式通気工法

D：設備等配管貫通部

①設備貫通部の止水

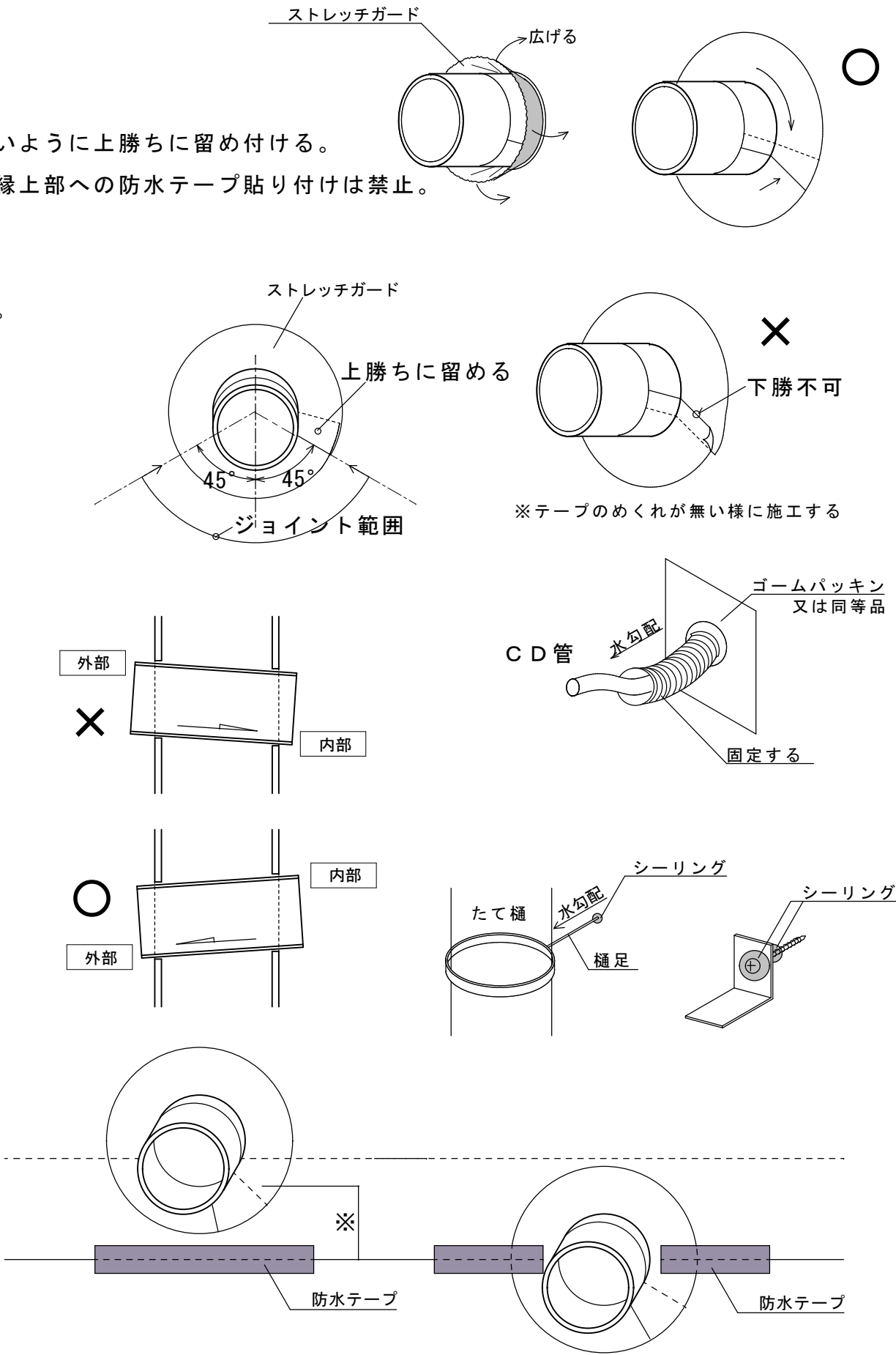
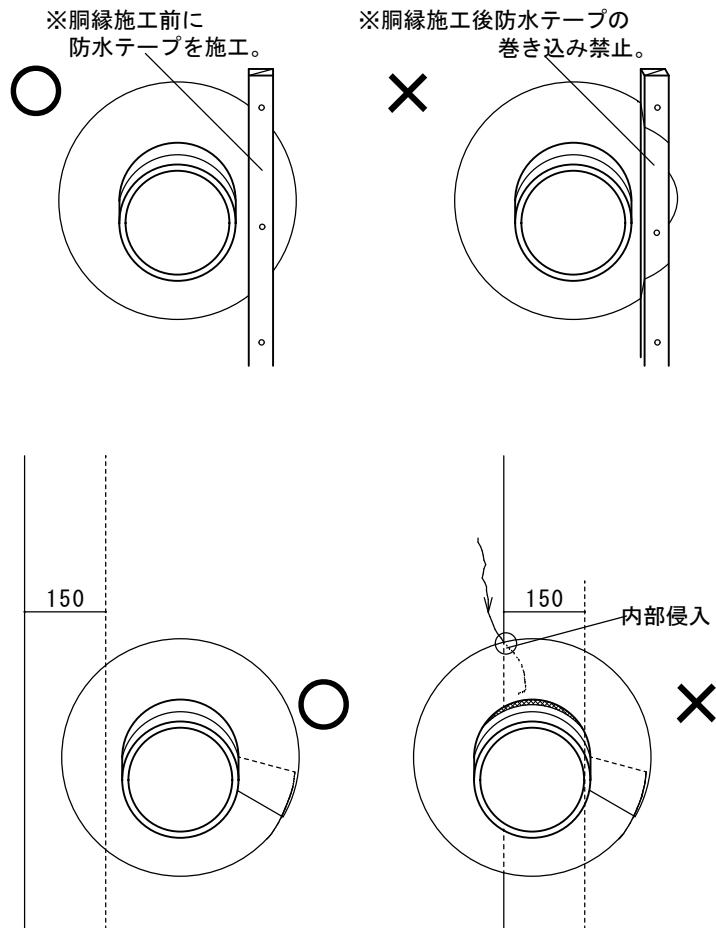
- ・設備貫通部はストレッチガードを用いてピンホールのできないように上勝ちに留め付ける。
- ・防水テープの張り上げは通気胴縁施工前に行い、隣接する胴縁上部への防水テープ貼り付けは禁止。

②設備貫通パイプの取付

- ・設備貫通パイプは外部側へ排水するように排水勾配を設ける。
- ・設備貫通パイプは原則防水シートの継手位置には設けない。

③その他貫通部

- ・外壁完成後に施工する樋足ネジの外壁貫通部及び、器具取付時のビス貫通部分にはシーリング等により止水を行う。



〔防水シート重ね部止水処理〕

D：設備等貫通部

①設備貫通部の止水

- ・ストレッチガードによる止水処置

- ・通気胴縁取り合い

②設備貫通パイプの取付

- ・排水勾配
- ・取り付け位置

③その他貫通部

作成日	2019. 06. 12	備考
訂正日		

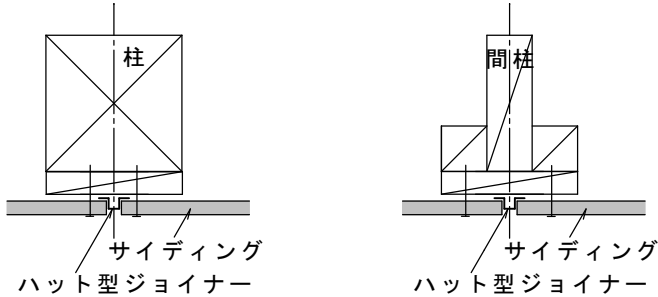
木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
Style Design			

NO	506

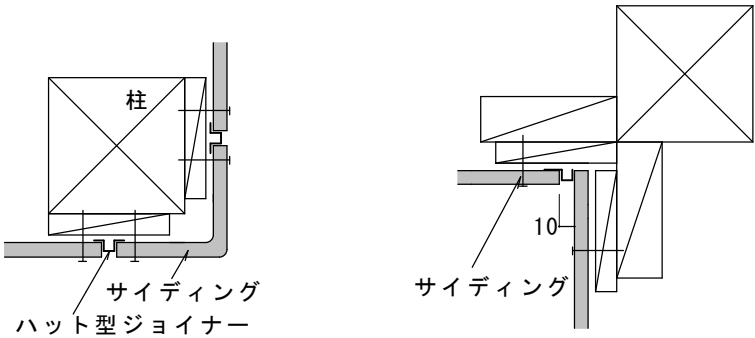
IV：通気胴縁（サイディング）

A：通気胴縁

- ①通気胴縁は、45×15mm 以上・90×15mm 以上を使用する。
- ②通気胴縁の仕上げ面は、不陸が2mm以下となるように調整する。
- ③胴縁は間隔500mm以下で躯体に留め付け。留め付け釘（N65）は、間隔500mm以下とする。
- ④開口部 四周に胴縁を施工しない仕様の場合、縦胴縁仕様の場合は開口部左右のみ、横胴縁仕様の場合は、開口部上下のみに、胴縁を施工する。
- ⑤開口部 四周に胴縁を施工する仕様の場合、開口部周りには、四周に胴縁を取り付ける仕様 又は 補強胴縁を取り付ける仕様で施工する。
（開口部廻りの胴縁は通気空間を 30mm程度確保する。）
- ⑥縦目地部は、90mm幅又は45mm 2 列の縦胴縁を取付け、サイディング釘の端打ち寸法を確保する。
（間柱に縦目地がくる場合、補強材を入れる。）
- ⑦同質出隅とサイディングの接合部では、90mm又は45mm幅 2 列の縦胴縁を取付け、サイディング釘の端打ち寸法を確保する。
- ⑧入隅両端に、90mm幅又は45mm幅 2 列の縦胴縁を取付ける。
（軸組の場合、胴縁を取付け出来るよう補助材を入れる。）

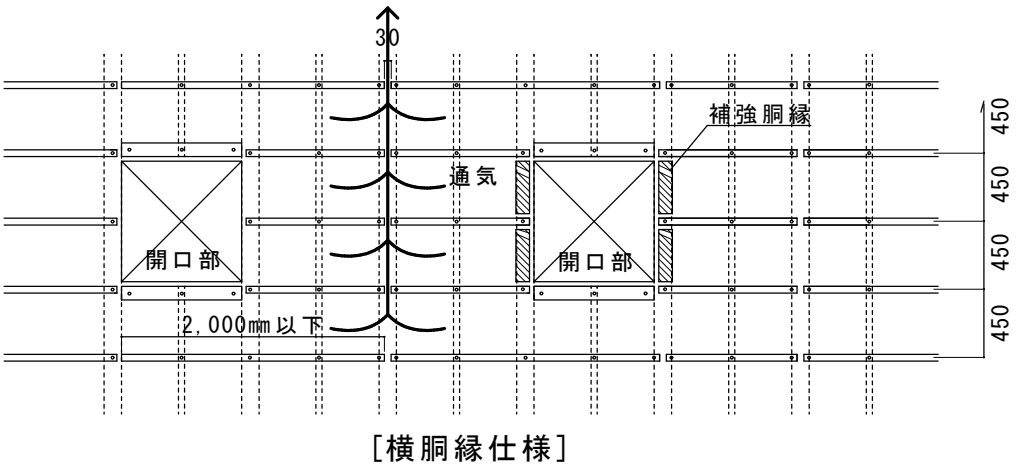
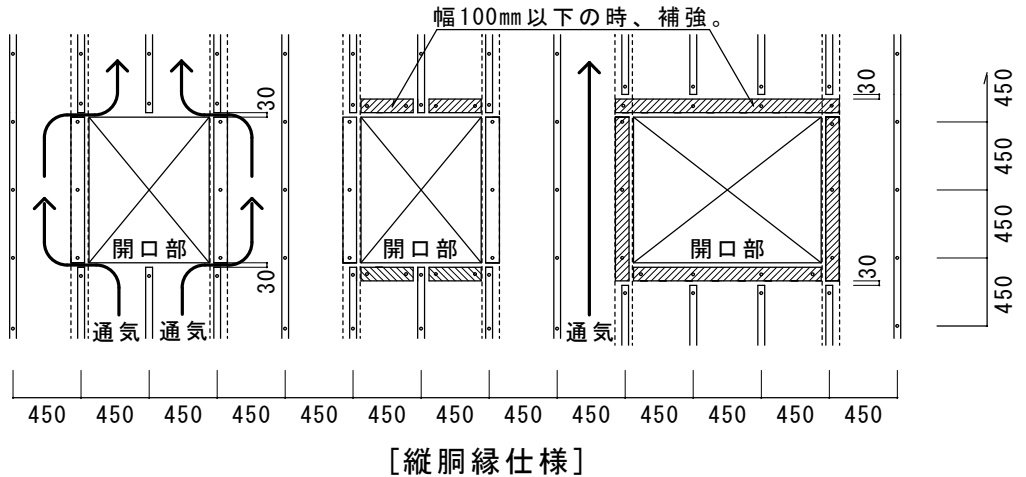
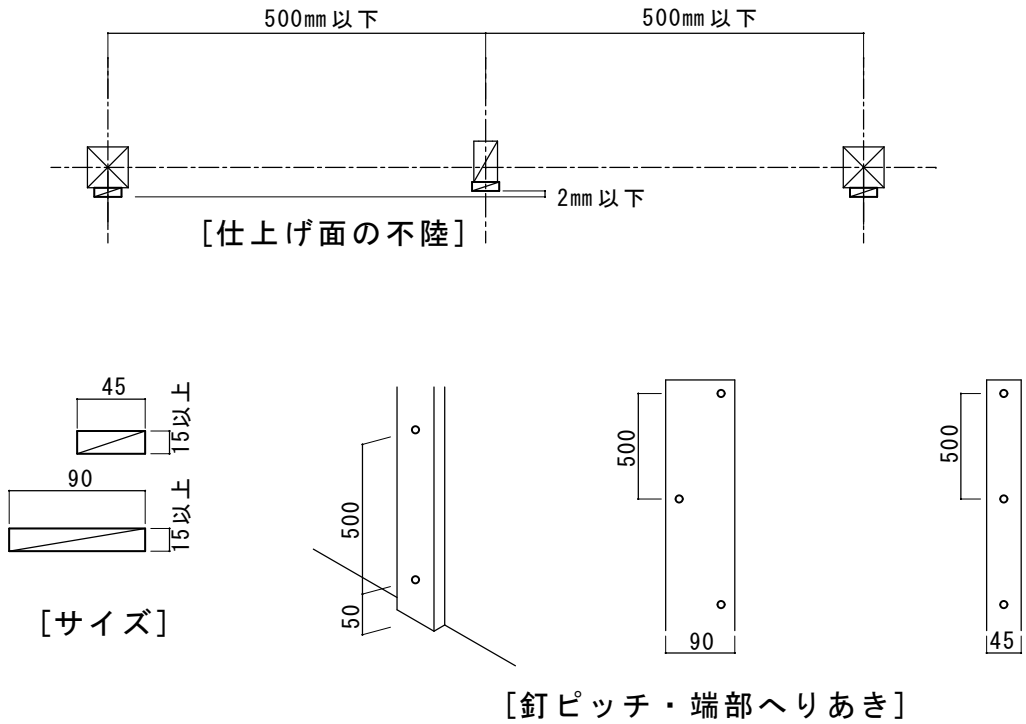


[たて目地部]



[出隅目地部]

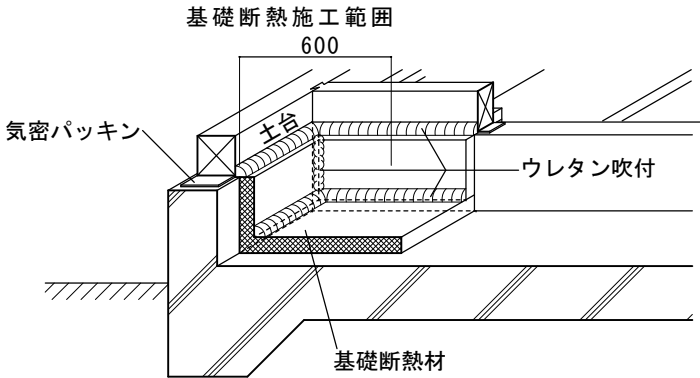
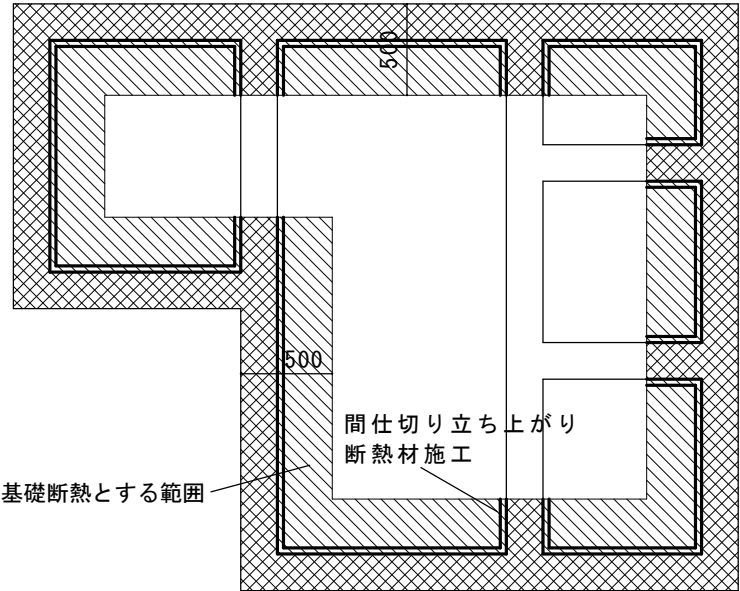
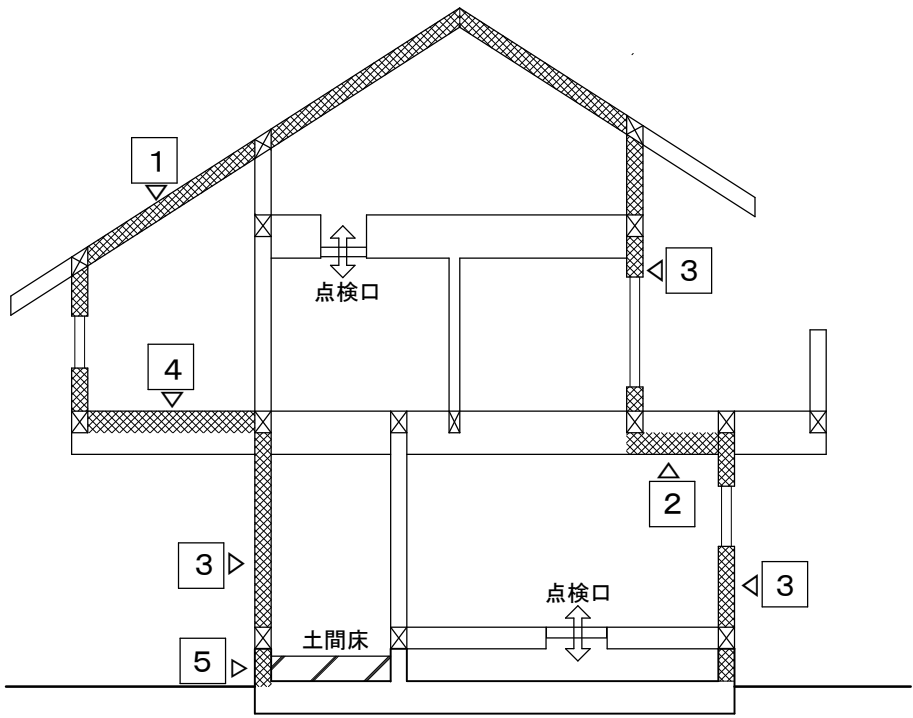
[入隅目地部]



IV：通気胴縁（サイディング）

A：通気胴縁

- ①胴縁寸法
- ②不陸調整
- ③留め付け釘
- ④開口部周りの補強
- ⑤開口部周りの補強（四周）
- ⑥目地部下地
- ⑦出隅部下地
- ⑧入隅部下地



I：断熱構造とする部分(充填断熱)

A：部位

- ①屋根 1
- ②外気に接する天井 2
- ③外気に接する壁 3
- ④床 ・外気に接する床 4
- ⑤土間床外周部 ・外気に接する部分 5

B：材質・厚さ

・各部位ごとに材質及び厚さを設計図書により確認する。

C：すきま

・各部位の施工後に断熱材すきま、気流の流入箇所、室内側の防湿、外部側の通気を確認する。

II：基礎断熱 5 ※1

A：基礎断熱 5 ※1:□数字はI：断熱構造とする部分参照

- ①押出法ポリスチレンフォーム又は同等性能以上 t=30を使用する。
- ②基礎断熱施工範囲は基礎立上り端部より 600mmの範囲とし熱橋となる間仕切り部、土間床部まで施工する。
- ③床下への外気の流入を防ぐため気密パッキン材を使用する。
- ④断熱材は基礎内法寸法に合わせて正確に計測し、基礎立上り、土間床、基礎天端に隙間なく留め付ける。
- ⑤3mmを超える隙間には発泡系断熱材等で隙間を埋める。

6 断熱工事

I：断熱構造とする部分(充填断熱)

A：部位

- ①屋根
- ②天井
- ③壁
- ④床
- ⑤土間床外周部

B：材質・厚さ

C：すきま

II：基礎断熱 5

A：基礎断熱 5

- ①材種
- ②施工範囲
- ③床下気密
- ④断熱材の留め付け
- ⑤断熱材の隙間処理

Ⅲ：壁断熱(ウレタンフォーム)

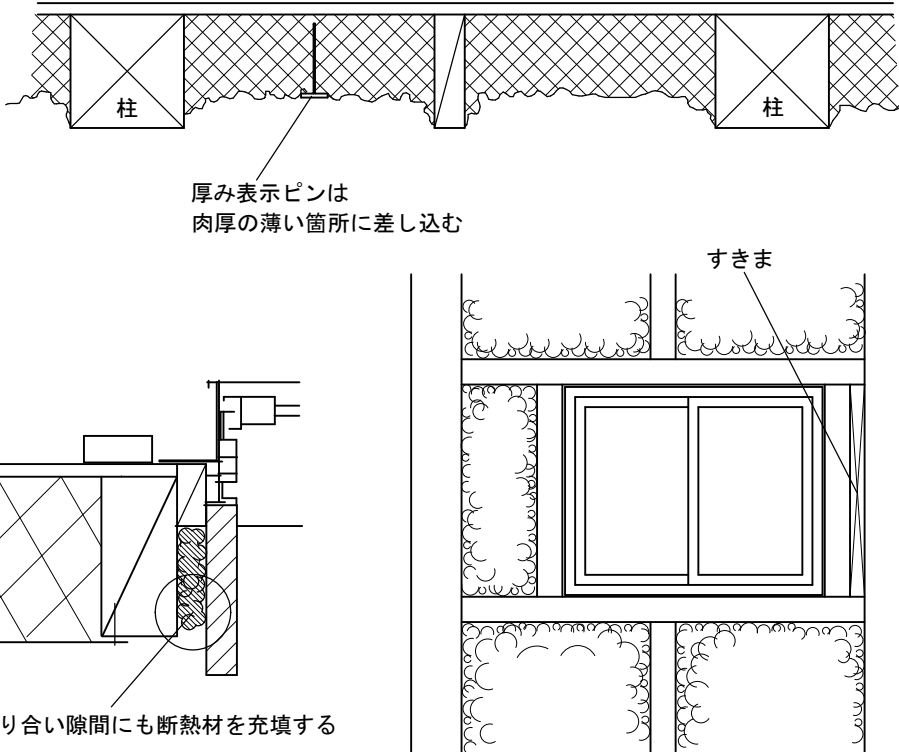
Ⅳ：外気に接する床(ウレタンフォーム)

A：断熱材

- ①吹付けウレタンフォーム 壁断熱：t=90mm、
外気に接する床断熱：t=135mmを使用する。
- ②断熱材の施工前に各設備配管、BOX等の取付を確認する。

(※VA線等発熱の恐れがある部材には、発泡材の吹付けは行わない。)
- ③発泡系断熱材施工は、施工業者の責任施工とし、各部養生、吹付け範囲、
吹付け厚さの打ち合わせを確実に行うこと。
- ④開口部周囲にできる小さな隙間にも断熱材を充填すること。
- ⑤断熱材施工後、厚み表示ピンを1個／2.0mピッチ程度で差し込む。

厚み表示ピンがない場合には計測ゲージにより厚さを確認し
計測寸法を記録すること。

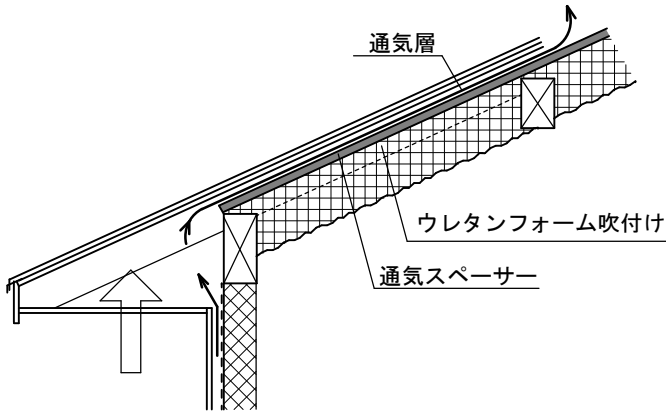
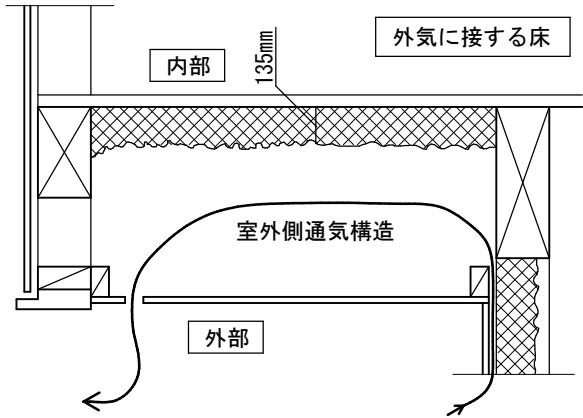
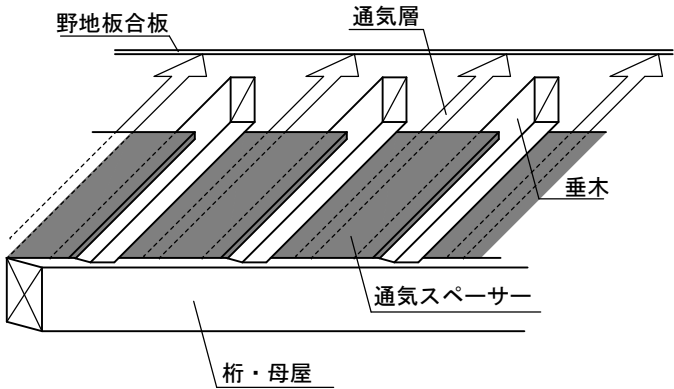


V：屋根断熱(ウレタンフォーム)

A：発泡系断熱材

- ①吹付けウレタンフォーム t=185mmを使用する。
- ②断熱材施工前日までに専用通気スパーサーの取付を行う。
- ③発泡系断熱材施工は、施工業者の責任施工とし、各部養生、吹付け範囲、
吹付け厚さの打ち合わせを確実に行うこと。
- ④断熱材施工後、厚み表示ピンを1個／2.0mピッチ程度で差し込む。

厚み表示ピンがない場合には計測ゲージにより厚さを確認し
計測寸法を記録すること。



A：断熱材

- ①吹付けウレタンフォーム
- ②施工準備
- ③責任施工
- ④サッシ周りの隙間
- ⑤厚みの計測

A：発泡系断熱材

- ①吹付けウレタンフォーム
- ②通気スパーサーの取付
- ③責任施工
- ④厚みの計測

I：給排水衛生・ガス設備工事

A：配管計画

- ・設備配管の排水経路、貫通位置を示した施工図（フリーハンド可）を作成し担当者の承認を受ける。

B：配管経路

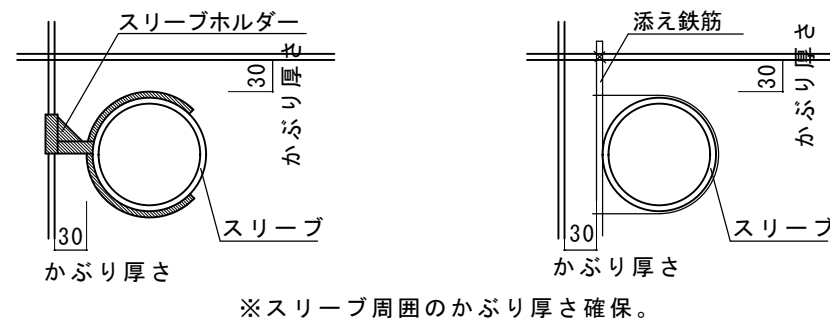
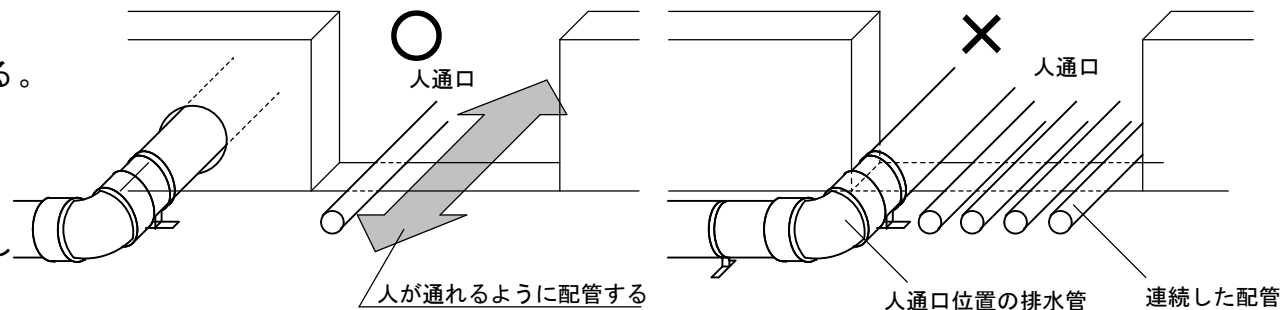
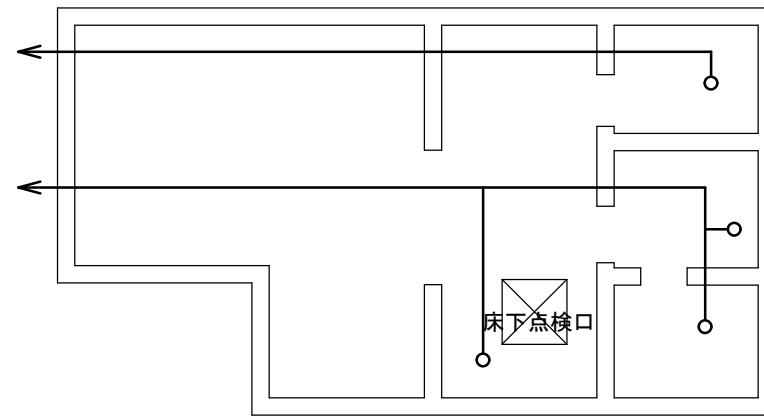
- ①基礎人通口への排水管取り付け原則禁止。
- ②基礎人通口への連続した設備配管の取り付け原則禁止。
- ③排水管は床下点検時に通行の支障とならない位置に配置する。

C：基礎配管

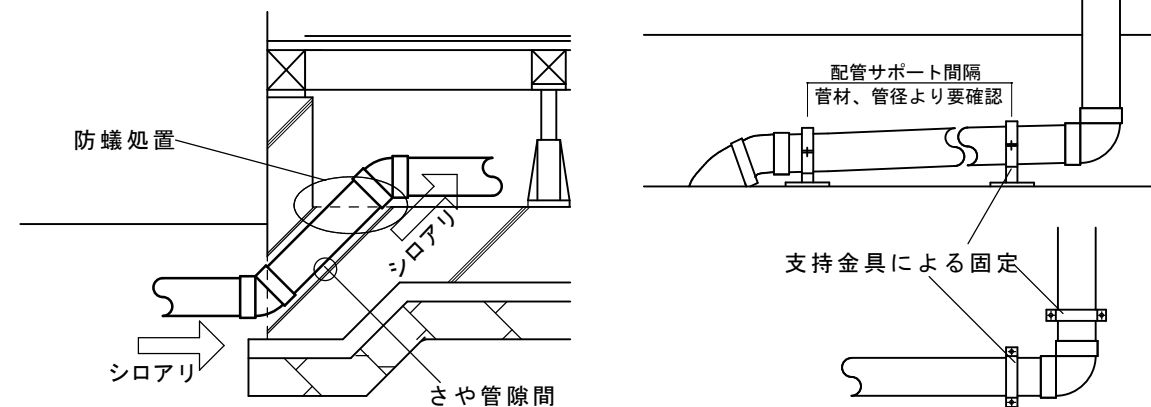
- ①基礎を貫通する配管は鉄筋工事作業時にスリーブにて貫通しコア抜きによる後施工の禁止。
- ②基礎のスリーブ配管は基礎鉄筋に直接くくりつけず、鉄筋のかぶり厚さを確保する。（基礎工事-補強筋1-V-E参照）
- ③基礎の立ち上がり部分で貫通する 100φ超のスリーブは補強筋を挿入する。（基礎工事-補強筋1-V-E参照）
- ④配管を設置する場合は基礎の鉄筋を切断せずに緩やかに曲げる。やむを得ず切断する場合は補強筋を挿入する。

D：配管の施工

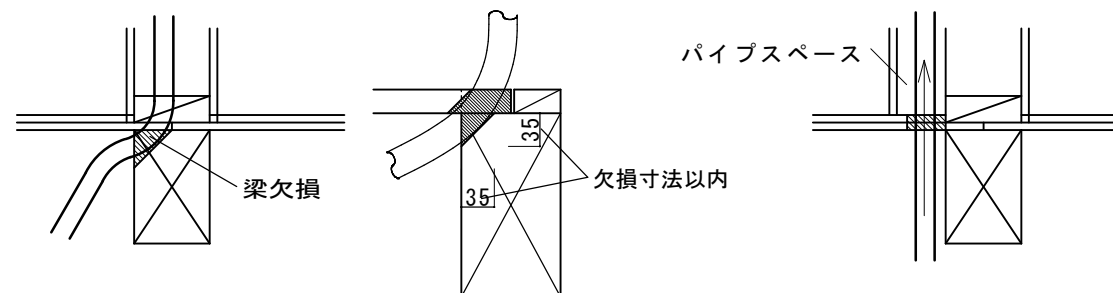
- ①地中埋設さや管周囲は蟻道とならない様に防蟻処理を行う。
- ②排水管は曲がり部分その他必要な個所を支持金具により固定したわみ、抜け、変形などの無い様に設置する。
- ③その他配管は必要な個所を支持金具により固定する。
- ④上下階への設備配管貫通は柱・土台・梁などの構造部材への欠き込みを行わずP S等の配管経路を検討する。やむを得ず欠き込みを行う場合は、縦、横、幅とも35mm以内とする。
- ⑤省令準耐火構造とする場合の器具は、不燃材又は準不燃材を使用又は覆う。



※スリーブ周囲のかぶり厚さ確保。



[長期優良住宅仕様]



木造住宅工事 標準施工手引書

7 その他工事

I：給排水衛生・ガス設備工事

A：配管計画

B：配管経路

- ①人通口部の排水管禁止
- ②人通口の連続配管禁止
- ③床下点検

C：基礎配管

- ①コア抜き禁止
- ②基礎配筋のかぶり厚さ
- ③補強筋
- ④鉄筋の切断禁止

D：配管の施工

- ①さや管の防蟻処理
- ②排水管の固定
- ③配管の固定
- ④上下階への貫通
- ⑤省令準耐火構造

作成日	2019.06.12	備考
訂正日		

木造住宅工事 標準施工手引書

Style Design

承認	承認	承認

Ⅱ：換気工事

A：換気スリーブの取り付け

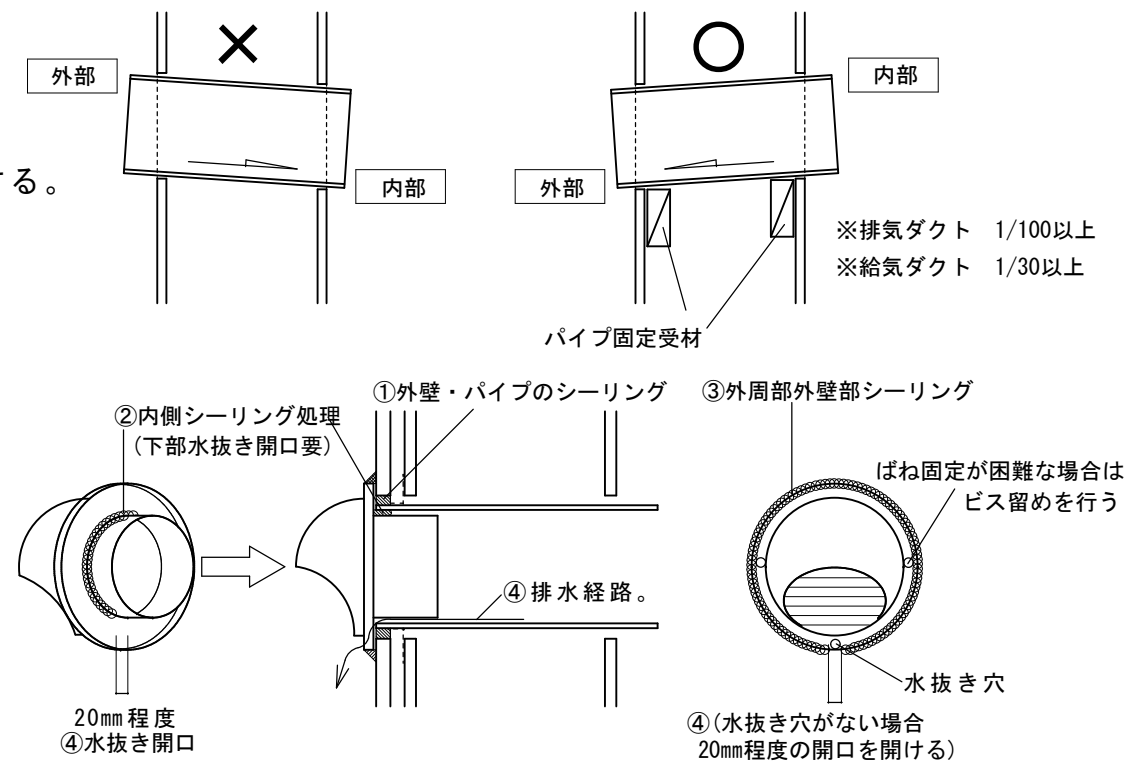
- ①換気スリーブは外部側へ排水するように排水勾配を設ける。
- ②換気スリーブは排水勾配に合わせパイプ受下地を設置しこれに固定する。
- ③排水勾配は排気ダクト 1/100以上、給気ダクト 1/30以上とする。

B：外部防水シートの止水

- ・設備貫通部の止水は、防水・通気工法（5-Ⅲ-D設備貫通部）を参照。

C：防雨フードの取り付け

- ①換気パイプ外周部と外壁材との間をシーリング処理する。
- ②パイプガイドの外壁接合部にシーリング処理しパイプに挿入する。
- ③防雨フードを取付け外壁面隙間にシーリング処理をする。
- ④パイプ取り付け時には排水用水抜き経路を確保する。

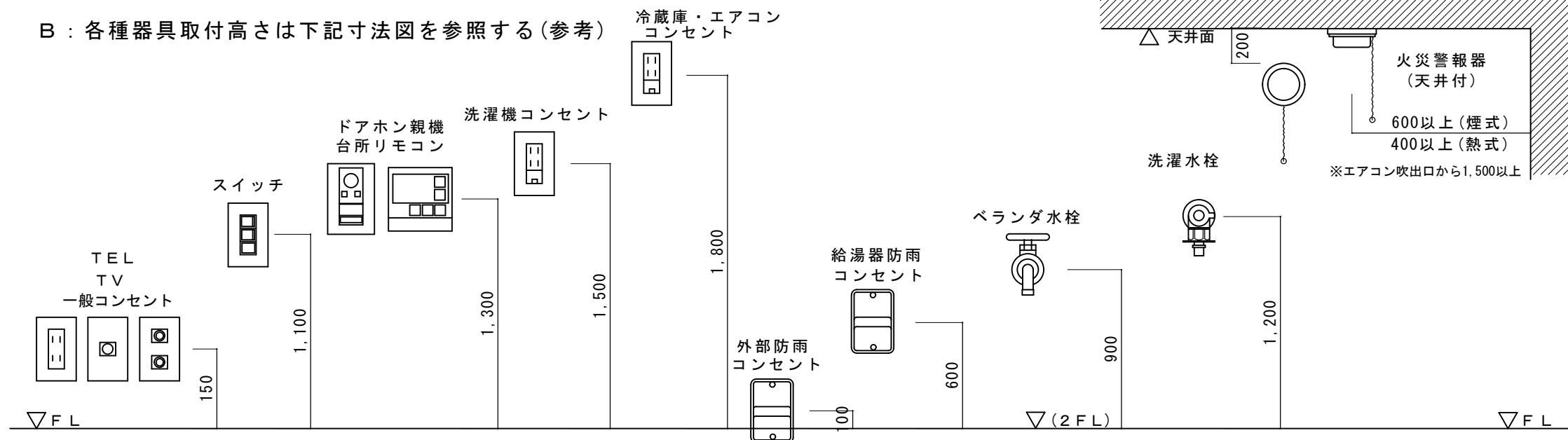


Ⅲ：電気工事（参考）

A：配線、配管

- ①設計図書によりコンセント、スイッチ、各種器具の位置、回路数、専用配線等を確認し担当者の承認を受ける。
- ②配線、配管はたるみの無いようにステップル等で固定する。
- ③上下階、左右への配管貫通は柱・土台・梁などの構造材への欠き込みを行わずP S等の配管経路を検討する。
- ④省令準耐火構造とする場合の器具は、不燃材又は準不燃材を使用又は覆う。

B：各種器具取付高さは下記寸法図を参照する(参考)



木造住宅工事 標準施工手引書

7 その他工事

Ⅱ：換気工事

A：換気スリーブの取り付け

- ①排水勾配の設置
- ②パイプ受下地
- ③排水勾配

B：外部防水シートの止水

C：防雨フードの取り付け

- ①パイプ外周部と外壁材
- ②パイプガイドのシーリング処理
- ③防雨フードのシーリング処理
- ④排水用水抜き経路

Ⅲ：電気工事（参考）

A：配線、配管

- ①施工計画の承認
- ②配線、配管の固定
- ③配管経路の検討
- ④省令準耐火構造

B：各種器具高さ

作成日	2019.06.12	備考	木造住宅工事 標準施工手引書	承認	承認	承認
訂正日						
			S t y l e D e s i g n			

IV：養生・清掃

A：雨養生

①上棟時

- ・上棟後外周部をブルーシート等により全面を覆う。
- ・養生シートは屋根軒裏・小屋妻面から基礎コンクリートまで垂らし、要所をタッカー留めする。
- ・土台水切り取り付けまでは防水シート垂れ下りを基礎天端 -200mm程度とする。

②雨水侵入検査

- ・土台据え付け完了時、外壁防水シート施工完了時、設備水圧試験完了時（引き渡し前）に床下すべてを目視し、雨水侵入・水漏れがない事を確認する。

B：一般養生・清掃

- ・作業場は常に整理整頓をし、1日の作業終了時には作業場の清掃を行う。
- ・床、棚等各部の仕上がり箇所は養生シートを用いてキズのつかない様に早急に養生を行う。
- 又、ユニットバス内での資材の保管・倉庫使用は禁止する。
- ・室内作業時は上履きを使用し、汚れを室内に持ち込まない様に注意する。

V：安全対策

①ヘルメット

- ・足場上作業、屋外作業、資材搬入作業時にはヘルメットを着用すること。
- ・ヘルメットには来客用以外は使用者の氏名（推奨：ひらがな）・血液型を記載し使用時にはあごひもの固定を行うこと。

②仮設足場

- ・足場上では飛来落下物に注意し、資材の放置を禁止する。
- ・足場床材、手すり、養生シートの取外しは禁止する。作業上やむを得ず取外しを行った場合は、その当人が作業終了後すみやかに元に戻すこと。

③吹抜開口部

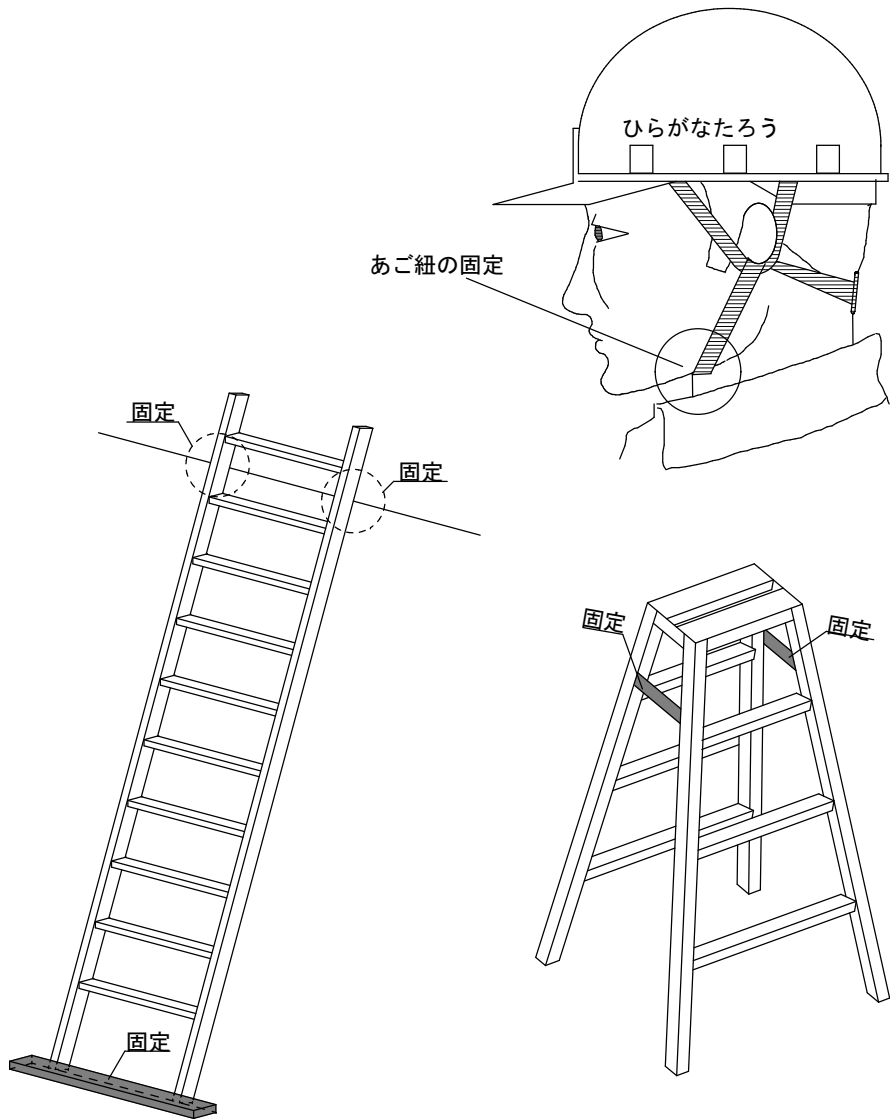
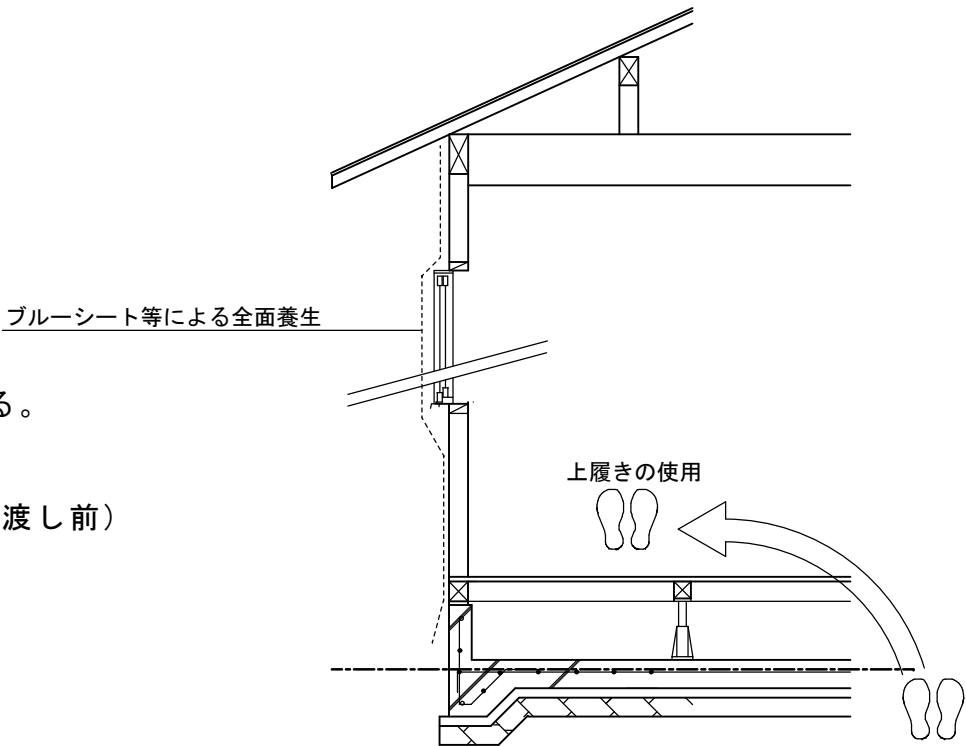
- ・落下防止のため、すみやかに仮設手すりの設置を行う。

④脚立・はしご

- ・使用材の破損や不備の無い事を確認し、転倒防止のための確認を行う。
- ・上下階への移動は梯子を設置し、脚立による移動を行わない事。

⑤作業場にはゴミ置き場を設置し清掃安全に注意する。

⑥作業場内禁煙とする。



A：雨養生

①上棟時

②雨水侵入検査

B：一般養生・清掃

V：安全対策

①ヘルメット

②仮設足場

③吹抜開口部

④脚立・はしご

⑤ゴミ置き場

⑥作業場内禁煙